

ニ官林盜伐被告事件ニ付取調フル旨ノ記載アリテ其他ノ調書ノ冒頭ニ第二回第三回ノ調書ヲルコトヲ各明記シアル以上ハ第一回ニ引續キタル取調ナルコト疑ノ容ルヘキ所ナケレハ第二回以下ノ各調書ニ再ヒ官林盜伐被告事件云々ノ記載ナキモ之ヲ不法ト爲ス可ラス本論旨モ其理由ナシ同第三ハ原院私訴判決ノ理由ヲ見ルニ被告カ被上告人ノ要求額ノ過當ナルコトヲ論争シタルコトヲ認メナカラ之ニ對シテ民事原告人カ付帶控訴トシテ申立ル金五百七圓三十錢五厘ハ相當ト認ムルニ依リ被告ノ控訴ハ理由ナク此點ニ於ル民事原告人ノ附帶控訴ハ其理由アルモノトス下説明シテ被告ノ攻撃ヲ排斥シタリ之レ如何ナル理由ニヨリテ被告ノ主張ハ不相當ニシテ民事原告人ノ主張ハ相當ナルヤノ點ニ至リテ理由ヲ付セサル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ於テ民事原告人カ申立ル金額ヲ相當ト認ムル旨説明シアル以上ハ被告ノ主張ヲ排斥シテ民事原告人ノ請求ヲ採用シタル判決ノ理由ハ充分ニシテ兩所ナシ辯護人所論ノ如キハ判決理由ハ又其理由ニ外ナラサレハ固ヨリ之ヲ付スヘキハ要ナシ本論旨モ相立タス

右ノ理由ナルニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本案公訴私訴ノ上告ハ共ニ之ヲ棄却ス私訴訴訟費用ハ被告ノ負擔トス
明治三十年三月二十二日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○酒造稅則違反ノ件

明治二十九年第一一八六號
明治三十年三月二十三日宣告

○判決要旨

追徴金ハ財産刑ナリ

第一審 千葉地方裁判所

第二審

東京控訴院

被告人 藤井新七

右酒造稅則違反被告事件ニ付明治二十九年十一月十六日東京控訴院ニ於テ原判決ハ之レヲ取消ス被告新七ヲ第一ノ所爲ニ付罰金千五百九十二圓八十錢二厘ニ處シ第二ノ所爲ニ付罰金五十四圓ニ處ス云々ト音渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲナシタルニ付刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意第一點ハ原院ハ明治二十九年法律第三十八號酒造稅法第二十四條ニ因リ判決ヲ下シタルモ該條ノ旨趣タルヤ現物ノ存在スルニモ拘ハラズ詐欺又ハ不正ノ所爲ヲ以テ收稅官ノ査定ヲ免レタルモノニ對スル制裁ヲ規定シタルモノニシテ本件ノ如ク收稅官臨檢ノ當時被告ハ已ニ脫稅造酒ヲ販賣シテ一モ其場ニ現存セサル場合ノ如キニ適用スヘキ法文ニ非ス然ルニ原院ノ判決此ニ出サリシハ刑事訴訟法第二百六十九條第十二該當シ疑律ノ錯誤アル不法ノ裁判ナリト云フニ在レモ○右酒造稅法第廿四條ニハ現物ノ存在スルト否トニ依リ何等ノ區別ナキ

追徴金ノ性質

ヲ以テ原院カ本件ノ事實ニ對シ該條ヲ適用シタルハ相當ナリトス同第二點ハ原院ハ刑法第三條第二項ノ適用ヲ誤リタルモノナリ凡ソ該條ニヨリテ新舊二法ヲ比照スルニハ刑ト律トヲ折衷セサルヘカラス故ニ本件ノ如キハ舊法ニ於ケル追徴金ノ點ハ之ヲ脱却シ單ニ其罰金ノ點ノミヲ比較セサル可ラス然ルニ原判決ハ舊法ニ照シテ罰金ト追徴金トヲ合シ之ヲ新法ニ比照シタルハ正シク刑法第三條第二項ノ解釋ヲ誤リタルモノニシテ刑事訴訟法第二百六十八條第二項ニ該リ法則ヲ不當ニ適用シタルモノナリト云フニ在リ○依テ案スルニ追徴金ト雖モ均ク財産刑ニ外ナラサルヲ以テ新舊法ヲ比照スルニ當リ殊ニ之ヲ取除クヘキ道理ナシ故ニ原院カ舊法ノ追徴金ト罰金トヲ合算シタルモノヲ以テ新法ノ罰金ト比照シ其算額ナル新法ニ從ヒ處斷シタルハ相當ニシテ刑法第三條第二項ノ法意ニ適スルモノトス

上告趣意擴張第一點ハ前項第二點ノ論旨ヲ敷衍スルニ至ラサルヲ以テ前ニ説明ヲ與フルノ要ナシ同第二點ハ新酒造税法第三十七條末項ニハ「明治廿九年九月三十日前(中略)造石税ニ關シテハ仍明治十三年布告第四十號ニ依ルトアルカ故ニ本件ノ如ク所犯舊法時代ニ在ル者ハ之カ罰金ノ額ヲ算定スルニハ舊酒造税則第三條ニ規定シタル税率ヲ標準トセサル可ラス然ルニ原院ハ新酒造税法第四條ノ税率ヲ標準トナシタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○新酒造税法第三十七條末項ニハ「明治二十九年九月三十日前検査済石數ニ係ル造石税ニ關シテハ」云々トアリテ則チ右ノ月日前検査ヲ終ハリタル石數ニ限リ舊法ノ税率ニ依ルヘキ旨ヲ定メタルモノナレハ本件ノ如ク検査未済ノモノニ適用スヘキモノニ非ス同第三點ハ凡ソ臨檢調書ニハ間接國稅犯

則者處分法第九條第一號乃至四號ノ事項ヲ記載セサルヘカラス然ルニ原判決ニ於テ差押爲件ニ對スル被告カ辯解ノ記載ナキ臨檢調書ヲ證據トナシタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○該事項中偶々闕ケル所アレハトテ之カ爲メ調書ノ無効トナルヘキモノニ非サルヲ以テ原院力之ヲ證據トナシタルモ違法ニアラス同第四點ハ原院ハ千葉縣收稅屬岡田熊谷二名ノ處分請求書ヲ以テ證據トナシタリ然ルニ該書面ニ添付シタル證據目錄第十七行小川ベンノ臨檢調書ニハ每葉ノ間ニ本人ノ契印ヲ闕キタリ是正シク無効ノ調書ナルヲ以テ原判決ハ不法ナリト云フニ在レトモ○該調書ニハ本人ノ摺印ヲ以テ契印シタル蹟アルノミナラス假令之ヲシトスルモタメニ無効ト謂フヲ得ス同第五點ハ原判決理由中被告カ第一ノ所爲ニ付キ犯則ニ係ル石數ヲ掲ケルヲ見ルニ此殘米五十三石一斗六升ノ精酒醪ヲ仕込ミ云々トアルモ元來白米六斗麴米二斗四升汲水七斗五升ヲ以テ釀造セシ六斗醜九個ノ白米總數ハ四十一石四斗ナルニ前述ノ如ク原判決ハ五十三石一斗六升トナシタルハ石數ノ査定ヲ誤リタルモノニシテ理由ニ齟齬アルモノナリ又被告カ第二ノ所爲ニ付キ犯則ノ事實ヲ掲ケタル點ヲ見ルニ釀造シタル六斗醜四個總數四石八斗八升五合云々トアル之レ如何ナル算定法ニ依リテ此石數ヲ算出シタルモノナルヤチ知ルヲ得スシテ判決ニ理由ヲ付セサル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○右前段ノ論旨ハ白米ノミノ數ヲ擧ケテ石數ノ査定ヲ誤リタリト云フニ過キス原判文ニハ總米五十三石一斗六升トアリテ白米四十一石ニ麴米十一石七斗六升ヲ加ヘタル石數ヲ示シタルモノナレハ算數上毫モ誤謬アルコトナシ又後段ノ四石八斗五合トハ間稅官吏ニ於テ發見ノ上差押ヘタル石數ナル

コトハ判文上明示スル所ナルヲ以テ其算定法ノ如キハ特ニ之ヲ示スノ要ナシ依テ各上告論旨
ハ一モ違法ノ理由ナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治十九年勅令第四十六號ニ依リ上告豫納金ノ半額ヲ沒收ス

明治三十年三月二十三日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○官印官文書偽造等詐欺取財ノ件

明治三十年第二二二一號
明治三十年三月二十五日宣告

○判決要旨

官吏其職務ヲ行フニ因リ犯罪アルコトヲ認知シタル場合ニ於テ職務ヲ行フ地

ノ檢事ニ告發狀ヲ提出セシテ警察署長ニ提出シタル措置ハ手續ヲ誤リヨル

モノトス然レトモ之カ爲メニ其告發狀ノ無効ニ歸スニキ謂レナシ

(參照) 官吏公吏其職務ヲ行フニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタ

ルトキハ速ニ其職務ヲ行フ地ノ檢事ニ告發ス可シ(刑事訴訟法第五十二條)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 大久保 央 辯護人 高木益太郎

明治三十年二月二十七日東京控訴院ニ於テ右央カ官印官文書偽造及ヒ官印盗用詐欺取財被告
事件ノ控訴ヲ審理シ被告ノ控訴ハ其理由ナキニ付之レテ棄却スト言渡タル判決ヲ不法トシ被
告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理ヲ遂クル處被告カ上告ノ要旨ハ
本件審理ノ際必要ナル證據書類一々朗讀シテ之ヲ取調ヘタル事ナシ即チ刑事訴訟法第二百十
九條ニ違反スル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原公判始末書ヲ閱スルニ裁判長ハ茲ニ於
テ本件ニ付證據トナル處ノ記録ノ要部ヲ摘讀シ訊問ヲ爲シ之レカ辯解ヲ求メ云々又裁判長ハ
被告人及ヒ辯護人ニ於テ本件ニ付證據トナル處ノ記録ハ總テ朗讀セシメサルモ意見ナキヤト
ノ間ニ被告人及ヒ辯護人異存ナシト在リテ已ニ證據ト爲ルヘキ記録ノ要部ヲ摘讀シタルノミ
ナラス總テノ朗讀ハ省畧スルモ被告等ニ於テ異存ナキ以上ハ一々之レカ朗讀ヲ爲サルモ違
法ナリト云フヲ得ス

被告カ上告擴張第一要旨ハ第一審裁判所ハ官印偽造ノ場所ヲ東京市麴町區元園町十四番地ノ
自宅ト爲セリ然レトモ被告カ當時ノ自宅ハ元園町二丁目十四番地ナルコトハ一件記録ニ徵ス
ルモ昭々タル所ニシテ且事實ニ於テ元園町二丁目十四番地ハ在レトモ元園町十四番地ナルモ
ノ在ルコトナシ是レ實ニ曖昧ニシテ事實ノ明備ヲ缺キタル違法ノ判決ナルニ之レヲ採用シタ

手續ヲ誤リタル告發狀ノ効力

ル原裁判ハ亦不法ナリト云フニ在リ。○因テ第一審第二審ノ判決書ヲ看ルニ共ニ元園町十四番地ト記載アリテ同一ノ認定ナルカ故ニ第一審判決ヲ取消サ、ルハ當然ナリ。若シ上告論旨ノ如シトスルモ二丁目ノ三字ヲ誤脱シタルニ外ナラスシテ裁判管轄ニ毫モ影響ヲ及ボサ、レハ之レ等ノ缺點ヲ以テ理由不備ト云フヲ得ス。

同第二ノ要點ハ原判文中齋藤晏碩ノ貯金四百九十七圓ハ現存スルモノト認メト在リ。第一審裁判所ハ金高四百九十五圓ト爲セリ。元來被告カ其通帳並ニ原簿ノ偽造ハ都合十項金高四百五十圓ナルコトハ採テ證憑トセル偽造ノ原簿等ニテ證スル所ナリ。若シ判文ノ如クナラシニハ事實ノ齟齬ナリ何トナレハ判文後項ニ至リ尙ホ其犯跡ヲ蔽ハシニハ云々二〇〇〇トアル左側ニ四五ノ二字ヲ加書シ四百五十二圓ノ如ク二〇其記載ヲ變造シト在リ。然レトモ犯跡ヲ蔽ハシニハ其四百五十二圓ハ四百九十七圓トシ在ラサル可ラサルモノナレハナリ。然ルニ之レヲ採用シタル原裁判ハ不法ナリト云フニ在レトモ。○原裁判ハ第一審裁判ノ事實認定即チ其金高等總テ同一ニシテ毫モ異ナル所ナシ。然レハ第一審判決ヲ取消スヘキノ理由ナシ。要スルニ原裁判事實認定ヲ批難スルニ外ナラサルヲ以テ上告ノ理由ナシ。

同第三要點ハ本件ハ非現行犯ナリ。然ルニ被告ニ對スル警察官ノ聽取調書ヲ第一審裁判ノ證憑ニ供シタルハ違法ナルニ之レヲ採可シタル原裁判ハ不法ナリト云フニ在レトモ。○横須賀警察署ニ於テ作りタル聽取書ト題スル書面ヲ附スルニ被告ニ署名捺印セシメタル事跡ナク。單ニ被告ノ陳述ヲ録記シタルニ止マリ。豫審ニ屬スル處分ヲ爲シタルモノニアラス。然レハ第一審判決之レヲ斷罪證憑ノ一部ニ供シタルモ敢テ不法ト云フヲ得サルヲ以テ原院カ第一審判決ヲ取消サ、ルハ亦違法ニアラス。

同第四ノ要點ハ第一審裁判ノ事實ヲ叙スルヤ貯金預入原簿偽造行使ナリト曰ヒ而シテ其法律ヲ適用スルヤ貯金預入原簿變造行使ナリト云フ夫レ偽造ト變造トハ事實ニ於テ大ニ異ナル理由齟齬ノ裁判ナルニ之レヲ採可シタル原裁判ハ亦不法ナリト云フニ在リ。○因テ第一審判決書ヲ查閱スルニ被告ハ云々わいゝ號貯金預ケ人名簿ヲ取出シ云々此變造ノ原簿ヲ前キノ位置ニ置キタリトアリ。又其後云々わいゝ號貯金預ケ人原簿ヲ取出シ云々ト前同一ノ事實ヲ認メアリ。而シテ法律適用ノ部ヲ看ルニ第一第二項ヲ通シテ云々及貯金預ケ人原簿變造行使ノ所爲ハ云々トアリテ總テ變造ト爲シタルモノニテ前後ノ理由ニ齟齬アルコトナシ。而シテ原院モ亦同一ノ事實ヲ認メ同一ノ法律ヲ適用シタルカ故ニ第一審判決ヲ相當ナリト判決シタルモノニ付決シテ不法ニアラス。

同第五ハ原判文法律適用ノ末段ニ同第百條ニ則リ一ノ重キ第一項ノ官印偽造使用ノ所爲ニ從ヒ處斷スヘキモノトスト在リ。茲ニ特ニ第一項ト掲ケテ他項ヲ排除シ第二項ニ間及セサル所以ノ者ハ何ソヤ第一審裁判ハ以テ第一項ト第二項トハ各單獨ノ所爲別個ノ罪ニシテ而シテ第一項ノ官印偽造使用ノ罪ハ第二項ノ偽造官印使用ノ罪ヨリモ重シト爲セルカ否レハ一ノ重キ第一項ノ官印偽造使用ナル文詞何ニ因テ來ランヤ果シテ然ラハ第一審裁判ハ後段所論ノ如ク第一項ト第二項トハ連續犯ニシテ一罪タルヘキヲ二罪トシ刑法第百九十五條同第百條ヲ失ツテ

官印偽造使用罪ト偽造官印使用罪トナ輕重簡捨シタルノ乖違アリ而シテ之レヲ採可シタル原
 裁判ハ亦不法ナリ同第六ノ要點ハ第一審裁判ハ判文第一項ト同第二項トノ二所爲ヲ以テ實質
 上各獨立別個ノ一罪トシテ論セラレタリ是レ一罪ヲ以テ二罪ト爲シタルノ悞悞ヲ免レサル可
 シ夫レ同時場所ヲ異ニシ有形的事爲ニハ間斷アリト雖モ無形的意思ノ終始一貫シテ同職ノ事
 ナ屢次行フハ連續犯ニシテ一罪タルヘキモノトス今判文第一項第二項ノ所爲ハ所謂連續犯ナ
 ルニ二罪トシテ論セラレタル悞悞ノ第一審裁判ヲ採可シタル原判決ハ亦不法ナリト云フニ在
 レトモ○第一審判文第二項ヲ看ルニ其後被告ハ平常ノ如ク管理所ニ出發シ陰力ニ事後ノ景況
 ナ窺フニ更ニ犯跡ノ發覺セル狀ナキヨリ再ヒ同一ノ方法ヲ用ヒ金圓ヲ騙取セント欲シ云々ト
 アリテ被告カ第一第二ノ所爲ハ別個ノ犯罪ト認メタルモノニテ連續犯ト認メタルモノニアラ
 ス又原院判決ニ於テモ同一ノ認定ナリ而シテ法律適用ノ部ヲ閱スルニ第一項第二項ヲ通シテ
 云々ト掲ケ第一審判決ハ職印偽造使用ノ所爲ハ云々第二審ハ其官印ヲ偽造シ使用シタル所爲
 ハ云々ト掲ケタルハ總テ刑法第九十五條ノ適用ニ其表題ヲ掲ケタルニ過キスシテ第一項ノ
 官印偽造使用第二項ノ偽造官印使用ノ二所爲ニ對シ同法條ヲ適用シタルコト明カニシテ毫モ
 不法ト認ムヘキ點ナシ故ニ原判決第一審判決ヲ相當ナリトシタルハ決シテ不法ニアラス
 辯護人高木益太郎カ辯明書ノ第一要旨ハ本件告發狀ハ郵便爲換貯金管理所長佐野渡カ其職務
 ナ行フニ因リ認知告發シタルモノナルニ付其職務ヲ行フ地ノ檢事ニ向テ呈出セサルヘカラサ
 レモノナルニ事茲ニ出ス麹町警察署長藤崎清秋ニ向テ告發シタルモノナルニヨリ告發狀ノ効

力ナキハ固ヨリ言テ俟タス故ニ第一審裁判所カ之ヲ斷罪ノ資料トシテ採用シタルハ不法ナリ
 從テ被告入ノ控訴ハ其理由アルモノナルニ原院カ棄却ノ判決ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ
 在リ○因テ按スルニ官吏其職務ヲ行フニ因リ犯罪アルコトヲ認知シタル協合ニ於テハ其職務
 ナ行フ地ノ檢事ニ告發スヘキハ當然ノ手續ナリ然ルニ本件告發官カ告發狀ヲ檢事ニ提出セ
 ス警察署長ニ差出シタルハ其手續ヲ誤マリタルモノナリト雖モ其手續ヲ誤マリタルカ爲メニ
 該告發狀ハ無効ニ歸スヘキハ謂ハレナシ故ニ第一審裁判所カ之レヲ證憑ノ一部ニ供シタルモ
 敢テ不法ト云フヲ得サルモノニ付原院カ第一審判決ヲ相當ナリトシ被告ノ控訴ヲ棄却シタル
 ハ亦不法ニアラス

同第二要點ハ本件警部巡查カ關係者ヲ訊問シ署名捺印セシメタル無効ノ聽取書ヲ第一審判決
 證憑トシテ採用シタル不法アルモノニ付被告ノ控訴ハ其理由アルモノナルニ原院カ棄却ノ判
 決ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○第一審判文法律適用ノ部ヲ看ルニ被告ノ聽取調
 書ヲ證憑ト爲シタル事跡アルモ關係人ノ聽取書ヲ證據ト爲シタル事跡ナシ要スルニ本論旨ハ
 謂ハレナキ論旨ナルヲ以テ上告ノ理由トナラス
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ判決スルコト左ノ如シ
 本案上告ハ之レヲ棄却ス

明治三十年三月二十五日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○官印盗用爲替手形偽造行使等ノ件

明治三十年三月二十六日宣告

○判決要旨

爲替證書ト爲替報知書トハ其効用ヲ異ニス從テ二者ヲ偽造行使シタル所爲ハ

二罪ヲ構成ス

第一審 京都地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 淺井保千代 辯護人 高木益太郎

右官印盗用爲替手形偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治三十年二月二十六日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ辯護士高木益太郎ノ辯論檢察事安居修藏ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
上告趣意第一點ハ原判決ニ刑事訴訟法第二百二十四條各項ニ付訊問ヲ經サル證人ノ豫審調書ヲ斷罪ノ證據トシテ採用シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○同第二百二十四條ノ各事項ハ證人ニ問フコトヲ要セサルヲ以テ其訊問ナシトテ該調書ノ瑕瑾トナラス故ニ原院カ之ヲ證據トシテ採用シタルハ違法ニアラス○第二點ハ被告ハ豫審及公判ニ於テ絕對ニ本件ノ事實ヲ認メザリシニ原院カ被告ノ供述ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○本論者ハ

原院ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨ヲ批難スルニ過キササルヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス○辯護士高木益太郎ノ辯明第一點ハ本件ニ付被告カ送達ヲ受ケタル豫審終結決定正本ニハ官署ノ印及ヒ書記ノ印ヲ押捺セサルヲ以テ無効ナリ然レハ被告ハ未タ該決定ノ送達ヲ受ケサルモノナルニ公判ヲ開始シタルハ違法ナルヲ以テ原判決モ亦不法ナリト云フニ在レトモ○既ニ確定シタル豫審終結決定ニ關スル瑕瑾ヲ論争シテ上告ノ理由ト爲スヲ得ス○第二點ハ被告カ偽造シタル爲替證書及ヒ爲替報知書ハ接續シタル一文字ナルヲ以テ一罪トシテ論スヘキモノナルニ原院カ之ヲ二罪トシテ處斷シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○爲替證書ト爲替報知書トハ假令接續シタルモハナルモ素ヨリ其効用ヲ異ニスルモノナルヲ以テ之ヲ二罪ト爲シタル原判決ハ違法ニアラス○第三點ハ第一審判決ニ於テ本件爲替證書偽造行使ノ所爲ヲ一罪トナシタルニ原院カ判決ノ理由前段ニハ爲替證書及ヒ報知書ヲ偽造行使シタルニ罪ト認メナカラ其後段ニ至リ被告等ノ不利益ニ歸スルヲ以テ第一審判決ヲ變更セサル旨說明セラレタルハ理由顯赫ノ違法アル裁判ナリト云フニ在レトモ○原判決前段ノ理由ハ被告ノ所爲ハ本來二罪ナルコトヲ說明シタルモノニシテ二罪トシテ處斷シタルニアラス故ニ原判決ハ理由顯赫ノ違法アルコトナレトス
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治三十年三月二十六日大審院第二刑事部公庭ニ於テ檢察事安居修藏立會宣告ス

○竊盜ノ件

明治三十年第二二九號
明治三十年三月二十九日宣告

○判決要旨

逮捕及ヒ告發ニ付テノ調書ヲ作成スルハ假豫審處分ニアラスシテ搜查處分ナ

リ
(參照) 巡查憲兵卒被告人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引渡ス可シ其被

告人ヲ受取リタル司法警察官ハ逮捕及ヒ告發ニ付テノ調書ヲ作ル可シ(刑事訴訟法
第五十九條)

第一審 甲府地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 上條安次郎 辯護人 國崎 清

右竊盜被告事件ニ付明治三十年三月三日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告
ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告趣旨ノ第一點ハ原院ハ第一審ニ於テ司法警察官カ誤テ本件ヲ準現行犯トシテ取調ヘタル
被害者ノ訊問調書ヲ斷罪ノ證據ト爲シタルハ失當ノ處置タルヲ免カレサルコトヲ認メナカラ
其逮捕告發調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ理由ノ顯赫ナリト云フニ在レトモ○司法警察官ニ

於テ刑事訴訟法第五十九條ノ規定ニ從ヒ逮捕及ヒ告發ニ付テハ調書ヲ作成スルハ假豫審處分
ニアラスシテ搜查處分ニ屬ス可キモノナリ原來搜查處分ヲ爲スハ現行犯タルト非現行犯タル
トヲ問ハス司法警察官ハ檢事ノ補佐トシテ其職權アルモノナレハ原院ノ認メタル如ク假令本
件ハ準現行犯ニ非サルニ司法警察官カ誤テ準現行犯ト認メタルモノトスルモ逮捕告發調書ヲ
作成シタルハ職權外ノ事ヲ爲シタルモノニアラス故ニ右調書ノ無効ニ歸ス可キ理由ナキニ付
原院カ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ決シテ不法ニアラサルナリ

同第二點ハ右ノ如ク原院ハ第一審ニ於テ司法警察官カ誤テ本件ヲ準現行犯トシテ取調ヘタル
被害者ノ訊問調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナルコトヲ認メナカラ逮捕告發調書ヲ證據
ニ供シタルノミナラス其他ノ訊問調書ニ付何等ノ理由ヲモ付セサルハ不法ナリト云フニ在レ
トモ○原院カ逮捕告發調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルコトノ不法ニアラサルコトハ已ニ前項ニ
於テ説明シタルカ如シ又司法警察官ノ作成セシ被告ノ訊問調書ハ第一審ニ於テ之ヲ罪證ニ供
セサリシヲ以テ隨テ原院ハ此調書ニ付理由ヲ説明ス可キ答ナシ故ニ本論旨モ亦相立メサルモ
ノトス

同第三點ハ本件ハ準現行犯ニアラス故ニ司法警察官ノ意見書逮捕告發調書被告ノ訊問調書ハ
共ニ違法無効ナルニ第一二審ニ於テ此等ヲ證據ニ供シタルノミナラス原院ニ於テ反證提出ノ
申立ヲ漫然却下シ無罪ノ判決ヲ與ヘタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○司法警察官ノ逮捕告
發調書及ヒ被告ニ對スル訊問調書ニ付テハ第一二點ノ説明ニ依テ了解ス可シ又其意見書ノ如

キハ現行犯タルト非現行犯タルトニ拘ハラス之ヲ斷案ノ資料ニ供スルモ決シテ妨ケアル可キノ理ナシ而ルチ況ヤ各意見書ハ第一二審共ニ之ヲ罪證ニ供セサルニ於テオヤ又原院カ反證提出ノ申立ヲ却下シタリトノ論旨ハ原院ノ公判始末書ニ照スニ書類ノ取寄セ及ヒ被告ト被害者トノ對質申請ヲ指シタルモノナル可シ果シテ然ラハ此等ノ申請ニ對シ其必要アルヤ否ヤヲ判別シテ之ヲ許否スルハ原承審官ノ職權ニ存スルモノナレハ其之ヲ採用セザリシテ以テ不法ナリト爲スコトヲ得ス

辯護人國崎清ノ擴張論旨ハ原院ニ於テ第一審裁判所ノ檢事カ本件ヲ準現行犯トシテ被告ニ對シ拘留狀ヲ發シ審問ヲ爲シ公訴ヲ提起シタル違法ノ行爲ヲ看過シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○檢事ノ公訴ヲ提起スルヤ其形式上關クル所アラサレハ前後ノ手續等ニ關シ原院ニ於テ逐一之カ當否ヲ判定スルコトヲ要セス故ニ本論旨モ亦適法ノ理由ナキモノトス

辯護人國崎清ニ於テ上告申立ヲ爲シタリト雖モ定期内被告本人ヨリ上告ヲ爲シタル上ハ右辯護人ノ上告ハ其効ナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案ノ上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十年三月二十九日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○酒造税法違反ノ件

明治三十年第一九〇號
明治三十年三月三十日宣告

○判決要旨

免許ヲ受ケスシテ製造シタル酒類ハ法律ニ於テ禁制シタル物件ニアラス

(參照) 他ノ委托ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニ非サル者ニ酢及酒類ヲ製造スル爲メ酒造場ヲ貸スヲ許サス(酒造税則第二十二條)

第一審 松江地方裁判所 第二審 廣島控訴院

被告人 岩田作太郎

右岩田作太郎カ酒造税法違犯被告事件ニ付明治三十年二月三日廣島控訴院ニ於テ松江地方裁判所ノ判決ニ對スル檢事ノ控訴ヲ審判シ原判決ハ之ヲ取消ス被告作太郎ヲ罰金五十圓ニ處ス押收シタル證據物件中擔楯一個ハ之ヲ沒收ス其他ノ物件ハ差出入ニ還付スト言渡シタル第二號ノ判決ヲ不當ナリトシ同控訴院檢事松田協輔ハ上告ヲナシタルニ因リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決ヲナスコト左ノ如シ

上告ノ要旨ハ原判決ノ理由ニ曰ク原裁判所ニ於テ無免許ニテ製造シタル清酒ヲ刑法第四十三條第一ニ該當スル禁制物ナリトシテ沒收ノ言渡ヲナシタリト雖モ該物件ハ其性質ニ於テ危害ヲ生スヘキ恐レモナク又風俗ヲ害スヘキモノニモアラス何人ト雖モ廣ク之ヲ製造シ之ヲ所有スルチ得ヘキモノニシテ止々其製造ヲ爲スニ方リ官許ヲ受ケテ法定ノ納稅ヲナスヲ要スルニ

無免許製造ノ酒類

過キサルモノナレハ法律ニ於テ禁制シタル物件ト云フヲ得サルヤ勿論ナリト然レトモ法律ニ於テ禁制シタル物件トハ法律ニ於テ製造輸入販賣所有占有ノ一若クハ二以上ノ所爲ヲ禁シタル物件ノ總稱ニシテ物件ノ性質上本來禁制物ナルモノアルコトナシ而シテ法律ニ於テ之ヲ禁制スル原因ハ風俗ノ矯正治安ノ保維收税ノ確保等種々ノ目的之レアルヘシト雖モ禁令ヲ犯シテ製造シタル物件カ禁制物タルコトハ其禁制ノ原因如何ニ依リテ異同アルコトナカルヘシ酒類ノ密造ハ酒造税法第二十二條ニ於テ之ヲ禁制セリ此禁令ヲ犯シテ製造シタル清酒ハ禁制物ナルコト論ヲ俟タス是レ恰モ銃砲彈藥阿片煙ノ密造猥褻ノ圖畫ノ販賣等ハ刑法ノ禁スル所爲ナルカ故ニ其密造又ハ販賣ニ係ル物件ハ禁制物トシテ之ヲ沒收スルト同一理ナリ又酒造税則ニ沒收ノ特例アリテ酒造税法ニ之レナキハ沒收ノ必要ナキカ爲メニ之ヲ廢止シタル法意ナリトセンカ必スヤ密造酒ノ處分ニ關スル規定ナカルヘカラス然ルニ税法中密造酒ノ販賣自用等ニ附スル規定ナク又之ニ課税シ得ヘキ規定ナシ果シテ然ラハ無免許製造者ハ處罰ノ後其密造ノ酒類ハ無税ニテ之ヲ販賣若クハ自用ニ供スルモ妨ナシトスルカ是レ豈税法ノ精神ナラシヤ故ニ酒造税法ニ沒收ノ規定ナキハ前陳述ノ理由ニ付刑法ノ總則ニ照シ之ヲ沒收スヘキモノニシテ特ニ之ヲ規定スルヲ要セサルヲ以テナリ因テ原院カ密造ノ清酒ヲ沒收セザリシハ違法ノ判決ナリト云フニ在レトモ

●酒造税法第二十二條ニ於テ免許ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造シタル者ヲ受罰スルハ免許ヲ受ケス即チ脱税ノ所爲ヲ制裁スルニ過キサルモノナレハ其製造シタル酒類ハ以テ刑法ニ所謂法律ニ於テ禁制シタル物件ナリト爲スコトヲ得サルヤ論ヲ俟タス且酒

造税法中犯則ニ係ル酒類ヲ沒收スヘキハ明文ナキハミナラズ同第八條ニ依リハ犯則ハ酒類ト雖モ現在ハ石數ニ相當スル造石稅ヲ徵收スヘキモノニシテ之ヲ沒收スルハ法意ニ非サルヲ明瞭ナリ故ニ原控訴院ニ於テ本件押收ノ清酒ヲ禁制物ニ非スト認メ之ヲ沒收セザリシハ相當ニシテ上告論旨ハ相立タサルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス
 明治三十年三月三十日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

大審院刑事判決錄

大審院刑事判決錄

第三輯

第四卷

○詐欺破産ノ件

明治三十年第二四七號
明治三十年四月五日宣告

○判決要旨

甲件ノ記録ニアル證人參考人ノ供述ヲ以テ乙件ヲ斷スルノ證料トナシ得ヘキ
ヤ否ノ論難ヲ試ムルハ證據取捨ノ批難ヲ爲スモノタルニ過キス
甲件ノ證人調書ヲ援用シテ乙件ノ證料ニ供スルハ之ヲ以テ參考證ト爲スニ止
マリ乙件ニ於クル證言トシテ効力ヲ有セシムルモノニアラス

第一審 長崎地方裁判所 第二審 長崎控訴院

被告人 高取義一 古賀勝忠

辯護人 岸 小三郎

別件ノ證人調書

右詐欺破産被告事件ニ付明治三十年二月七日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ本院ハ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シレ被告高取義一郎上告趣旨ノ第一ハ原裁判ハ理由ニ齟齬アルモノトス何トナレハ原裁判ハ被告ノ行爲中何レノ部分カ詐欺破産ノ罪ヲ構成スルヤヲ指摘セサルモノニシテ原裁判ノ所謂詐欺破産ハ被告カ三千三百五十餘圓ヲ借入レタルヲ云フカ將々又五百七十圓ヲ携ヘテ臺灣行ヲ爲シタルヲ云フカ分明ニ指摘セサルモノニシテ其判示スル所前後相齟齬スルモノト云ハサルヘカラス或ハ前者後者相俟ツテ詐欺破産ヲ構成スト云フカナレトモ若シ斯ノ如ク云フトキハ原裁判ハ被告等ノ惡意ノ事實ニ顯ハレタル時期ヲ明確ニ指示シ居ラサルニ付判決ノ理由ヲ附セサルモノトナレト云フニ在レトモ○原判文ヲ査閱スルニ(前署)會社維持ノ目的ナキハ勿論到底債務ヲ辨濟スル能ハサルヲ豫知シナカラ云々本田ヨシ外數百名ヨリ合計金三千三百五十餘圓ヲ借入レ其収支ヲ曖昧ニ付シ云々トアリテ被告ニ詐欺破産罪ノ行爲アリト認メタルハ專ラ此點ニアルコトハ判文全體ヲ通讀シ其判旨ノアル處明瞭ニシテ其他ノ事實ノ如キハ本件ノ事實ヲ明確ナラシムル爲メ之ヲ叙列シタルニ止マレハ原判決ハ理由ノ不備又ハ齟齬ノ廉アルコトナシ其第二ハ要スルニ原裁判ハ一件記録上顯著ナル事實ヲ忘却シテ不法ニ事實ヲ認定シタルモノナリト云フニ在リ其第三ハ原裁判ハ商法第五十條ノ解釋ヲ誤リタルモノニシテ同條ニ於ケル犯罪行爲ハ常ニ其營業ノ範圍内ニ於テ其營業上ノ信用ヲ利用シテ爲シタルモノナルコトヲ忘却スヘカラス若シ其營業外ノ事柄ニ付不法ノコトヲ爲シタルトキハ或ハ商法第五

十一條ノ罪ヲ構成スルコトアルヘリ或ハ他ノ刑法上ノ犯罪ヲ構成スルコトアルヘキモ決シテ商法第五十條ノ犯罪ヲ構成スヘキモノニアラス今本件會社ハ貸金會社ナルニ原院ノ認ムル如ク他ヨリ金錢ヲ借入ルコトヲ本務トシタルモノナレハ被告カ業務擔當人トシテ爲シタル所爲ハ決シテ會社營業ノ範圍内ノコトヲ爲シタルモノニアラサルナリ然ルニ原院カ本件ニ付商法第五十條ヲ適用タシタルハ不法ナリト云フニ在リ其第四ハ原判決ハ前項ノ外尙ホ商法第五十條ノ解釋適用ヲ誤リタルモノニシテ凡ソ商事會社ニ在リテハ其會社ノ成立ノ正當ナルコトヲ必要トスヘキモノナルニ若シ會社ニシテ當初ヨリ法律上ノ不正アルトキハ其名義ノ如何ニ關セス他ノ犯罪ノ豫備若クハ手段ニ係ル一種ノ贓物ト視ルノ外ナシ故ニ被告ノ行爲ニシテ若シ犯罪ノ所爲アリトセハ一般刑法若シクハ他ノ罰則ニ準據シテ之ヲ罰スルハ格別商法第五十條ニ依リ處罰セラレシハ不法ナリト云フニ在リテ○以上ノ論旨ハ孰レモ原承審官ノ職權ニ存スル事實ノ認定ニ對シ徒ラニ批難スルニ過キササルモノナレハ適法上告ノ理由ト爲スヲ得ス

同辯明書ノ第一ハ被告ハ明治二十九年二月五日本件ノ根原タル破産決定正本ノ送達ヲ受ケタルニ依リ抗告ヲ爲シタル處長崎控訴院ニ於テ右決定ハ廢棄シ破産宣告ノ申立ハ之ヲ棄却スト旨渡サレタルニ依リ被告ハ已ニ破産者ニ非サルヲ以テ右ニ伴フ處ノ刑事ハ直ニ免訴ノ言渡ヲ受ケタリ然ルニ長崎地方裁判所豫審判事ヨリ其免訴ノ言渡アリタル同日即チ三月十日再ヒ詐欺破産ノ罪名ヲ以テ拘留狀ノ送達アリタリ斯ノ如ク同一ノ事件ニ付同一ノ裁判所カ重複ノ起

訴ヲナシタルハ其手續ヲ誤リタルモノニシテ該起訴ハ其効ナキモノニ歸ス然ルニ原院カ此起訴ナキ公訴ヲ受理シ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○一件記録ヲ査閱スルニ爰キニ被告カ受ケタル破産決定ハ被告ヨリ抗告ノ未該決定ハ廢棄シ破産宣告ノ申立ハ之ヲ棄却スト言渡サレ從テ豫審判事カ免訴ヲ言渡シタルハ上告論旨ノ如クナレトモ其言渡シト同日即チ三月十日ニアリテ長崎地方裁判所ニ於テ更ニ破産決定ヲ爲シ其決定ニ基キ檢事カ本件ヲ起訴シタル事實ハ三月十日付破産決定書并ニ豫審請求書ニ依リ明白ナレハ本件起訴ノ無効タルヘキ謂レナシ故ニ原院カ本件ノ公訴ヲ受理シ相當ノ法條ヲ適用處斷シタルハ毫モ不法ノ點アルコトナシ其第二ハ免訴ニ依リ起訴ノ消滅ニ歸シタル以上ハ豫審ノ終結モ亦無効タラサルヘカラス免訴以前ニ爲シタル調書ハ免訴ニ依リ其効ヲ失シ免訴後ハ無論豫審ヲ爲スヘキ理ナクレハ之レカ終結アルヘキ答ナシ然ルニ原院カ斯ル無効ノ終結ニ依リ公訴ヲ受理シ有罪ノ判決ヲ與ヘラレシハ不法ナリト云フニ在レトモ○本件ハ適式ノ起訴アリタルコト前項ニ説明スル如クナレハ本論旨ニ對シ逐一説明ヲ與ヘス其第三ハ原判決ニ於テ本田ヨシ外數百名ヨリ合計凡三千三百五十餘圓云々ト認メラレタレトモ數百名ニアスシテ數十名ナルコト又其收支ヲ曖昧ニ付シ云々トアレトモ其收支ハ明瞭ニシテ決シテ曖昧ナラサルコトハ各證據ニ依リ其實質ハ徵シ得ラルヘシ然ルニ斯ク認定セラレシハ不法ナリト云フニ在レトモ○事實ノ認定ハ原承審官ノ職權ニ存スルモノナレハ其認定ニ對スル論難ハ上告ノ理由トナラス

同辯明追加書ノ要旨第一ハ原判決文ニ列舉スル檢第一五九一號ノ詐欺破産事件ノ記録中ニアル

證人參考人等ノ豫審調書ハ悉ク被告ト勝忠トノ關係ヲ證スルニ止マリ本件ノ骨髓タル有罪行為ノ有無ニ付テハ毫モ觀ルヘキモノナシ又證人中、田中禮從外七名ハ本件ニ關スル民事原告人ナルヲ以テ無効ノ證人ナリ尙本田ヨシハ拾六歳未滿ノ幼者、内田安吉ハ丸滿貸金合資會社ノ雇書記ニシテ共ニ證人タルノ資格ナキモノナリ又荒川秀太郎被告義一郎ノ對質調書高木織一郎被告義一郎ノ對質調書トアリテ秀太郎等ハ證人タルカ參考人タルヤ知ルニ由ナシ又被告カ當公廷ニ於ケル陳述ノ一部ニ徵シ云々トアリテ被告トハ被告中何人ヲ指スカ知ルニ由ナシ又登記簿原本破産決定正本ヲ以テ斷罪ノ證據トセラレシモ右等ノ證據ハ破産以前ノ事實ヲ證シ得ヘキモ其以後ニ於ケル有罪行為ノ點ニ就テハ何等ノ効ナキハ言テ候タサルナリト云フニ在レトモ○別件ノ記録中ニアル證人參考人等ハ供述カ本件斷罪ノ證據ト爲リ得ヘキヤ否ヤニ付テハ論難ハ證據ノ取捨ヲ批難スルニ過キサルモノナリ又別件ノ證人調書ヲ援引シテ本件ノ證據ト爲スハ一ハ參考證ト爲スニ止マリ之ヲ以テ本件ニ對シ證言タルハ効力ヲ有セシメタルモノニアラス故ニ右證人等ハ假リニ證人タルノ資格ニ關ケル處アルモノトスルモ探證上違法ノ廉アルコトナシ又荒川秀太郎ハ參考人高木織一郎ハ證人タルコト其對質調書ニ明載シアレハ其證人タルカ參考人タルカハ調書ニ付了解スルヲ得ヘシ又被告カ當公廷ニ於ケル陳述ノ一部トアレハ其被告トハ被告全部ヲ指示シタルコト言テ候タサルナリ又ハ登記簿及ヒ破産決定書ニ付テノ論旨ハ是亦原院ノ職權ニ存スル證據ノ取捨ヲ批難スルニ過キサルモノニシテ固ヨリ上告ノ理由ナシ

其第二ハ原院カ認ムル處ニ依レハ被告カ擔當ニ係ル丸滿貸金會社カ負フタル三千三百五十餘圓ノ債務ハ預リ金ナルカ將タ借入金ナルカ其性質明瞭ナラシメサルハ理由不備ノ判決ナリト云フニ在レトモ○其債務中ニハ預リ金ノ名義モアルヘク又借入金ノ名義モアルヘクナレトモ其名義ノ如何ハ本件犯罪ノ成立ニ影響ヲ生セザレハ之ヲ示スルノ要ナシ其第三ハ上告趣旨第三第四ノ論旨ヲ反覆敷衍スルニ過キサルモノナレハ其說明ニ於テ了解スヘシ

被告古賀鶴吉上告趣旨ノ第一乃至第六ハ要スルニ被告ハ丸滿貸金合資會社ノ擔當員タリシモ同會社トノ特約ニテ單ニ氏名ヲ貸シタルニ過キスシテ其實毫モ其業務ニ預カラサルモノナリ故ニ本件犯罪行爲ノ如キハ被告ノ關係ヲ有セサルモノナルニ原院カ商法第千五十條ヲ適用シ被告ニ對シ有罪ノ判決ヲ與ヘラレシハ不法ナリト云フニ在レトモ○事實ノ認定ハ原院ノ職權ニ屬ス故ニ其認定ニ對シテハ他ヨリ容喙スルヲ得サルモノナレハ本論旨ハ上告ノ理由トナラス

同擴張書ノ第一第三ハ原判文中ニ大黒町本田ヨシ外數百名ヨリ合計金三千三百餘圓借入レ云々トアリテ其本田ヨシハ債權者トシテ本件ノ破産申請ノ訴訟ヲ爲シタルモノナルモ同人ハ別紙證明書ノ通リ本田安次郎ノ妹ニシテ十三歳ノ幼者ナルヲ以テ債權ニ付テハ訴訟無能力者タルモノナリ而シテ本件ノ公訴ハ畢竟同人ノ爲シタル破産申請ニ基キタルモノナレハ其公訴ハ不能ニ出テタルハ無効ノ公訴ナリト其第二ハ原判決中證人本田ヨシ云々トアリテ本田ヨシチ證人トシテ取調ヲ爲シタルモノ、如シ然レトモ本田ヨシハ十三歳ノ幼者ナルニヨリ證人トシ

テ取調ヲ爲スヘキ理由ナキナリ斯ク證人ノ資格ナキ豫審調書ナルニモ拘ハラス原院カ正當ノ證人ト推定シ之ヲ採用セシハ不法ナリト云フニ在レトモ○本件ノ公訴ハ本田ヨシノ申立ニヨリ長崎地方裁判所カ明治二十八年十一月二十五日ニ爲シタル破産決定ニ基キタルモノニアラスシテ明治二十九年三月十日同地方裁判所カ職權ヲ以テ爲シタル破産決定ニ基キタルコトハ一件記録ニ徴シ明瞭ナルノミナラス本田ヨシナルモノハ檢第一五九一號事件ノ記録中ニ綴込ミアル同人ノ豫審調書ニ依レハ住居ハ大黒町三十四番戸年齢ハ五十一歳トアリテ一件記録中同人ハ果シテ本田安次郎ノ妹ニシテ十三歳ノ幼者タルコトヲ確認スヘキモノナシ又本田ヨシハ十三歳ノ幼者ト認ムヘキ證ナキノミナラス同人ノ豫審調書ハ前件即チ檢第一五九一號事件ニ付テノ證人調書ナレハ之ヲ本件事件ニ採用スルノ不當タラサルコトハ相被告高取義一郎ノ辯明追加書第一ノ說明ニ依リ了解スヘシ

被告副島勝忠上告趣旨第一ハ原院ノ認ムル處ニ依レハ本件會社ハ商事會社ニアラサルノ事實ヲ認得セルモノト云ハサルヲ得ス何トナレハ他ヨリ金錢ヲ借り入ル、コトヲ本務トシ云々ト判示シテ單ニ借入金ノミチ爲ス商事會社アラサレハナリ然ルニ原院カ商法第千五十條ヲ適用シテ有罪ノ判決ヲ爲セシハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判文ヲ通讀スルニ其借入金を爲シタルノミチ以テ詐欺破産ノ行爲ト認メタルニアラサルコトハ相被告高取義一郎ノ上告趣旨第一ニ對スル說明ノ如クナレハ同說明ニ依リ了解スヘシ其第二ハ原院カ呼出狀ヲ發セシメテ直チニ審判セシハ不法ナリト云フニ在レトモ○若シ手續上欠クル處アリテ被告ノ不利益トセ

シカ公判開廷ノ際違法ノ點ヲ申立更ニ正式ノ呼出狀發付ノ請求ヲ爲スヲ得ヘカリシニ當時異議ノ申立ヲ爲サズ辯論終結シテ判決ヲ受ケタル上ハ其違法アルヲ名トシ原判決ヲ破毀スルノ理由ト爲スヲ得ス其第三ハ高取義一郎ノ辯明追加書第二ト其趣旨ヲ同フシ其第四ハ同追加書第一中第三段ノ趣旨ト同一ニ歸スルニ付同說明ニ讓リ爰ニ再說セス

被告高取義一郎副島勝忠辯護人岸小三郎上告趣意擴張書ノ第一ハ要スルニ高取義一郎ノ上告趣旨第一ト其論旨同一ニ歸着スルニ付同說明ニ依リ了解スヘシ其二ハ原判文ノ主旨ニ依レハ被告等ハ當初ヨリ詐欺ヲ目的トスルモノニシテ商法第六十七條第一項ニ所謂法律ニ背キ又ハ禁止セラレタルコトヲ目的トスル會社ニ該當シ初メヨリ無効ノモノナリ又其所爲タルヤ商事ヲ爲シ支拂ヲ停止シタルモノト云フコトヲ得サルヲ以テ破産法ノ適用ヲ受クヘキモノニ非ス然ルニ原院カ詐欺破産ヲ以テ論シタルハ不當ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○這ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサレハ上告ハ其理由ナシ其第三ハ被告勝忠ハ本件破産會社ノ業務擔當ノ任アル社員ニアラサルコトハ原判文ノ末段ニ明記スル所ナレハ原院ニ於テハ勝忠ハ商法第五十二條末段ニ依リ處罰セラレタルモノナルヘシ若シ然ラハ如何ナル手段方法ヲ以テ犯者ヲ助ケ又ハ破産者ノ利益ノ爲メニ有罪行爲ヲナシタルヲ説明スヘキニ原判文ニ於テハ漠然勝忠ハ其名義ヲ表セサリシモ陰ニ會社ノ主宰トナリ云々トノミ記載シ其手段方法ヲ明示セサルハ理由不備ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判文ヲ查閱スルニ其冒頭ニ被告勝忠ハ一ノ貸金會社ヲ設立シ利ヲ射ソコトヲ企圖シ云々ト掲ケ其以下ニ於テ義一

郎鶴吉等カ詐欺破産ノ行爲アルコトヲ詳說シ而シテ末段ニ至リ勝忠ハ其名義ヲ表セサリシモ除ニ該會社ノ主宰トナリテ終始諸般ノ謀議ヲ爲シタルモノナリトアリテ義一郎鶴吉ノ行爲ニ付テハ勝忠カ主トナリ謀議ヲ爲シタル事實ハ判文上自ラ明瞭ナレハ原判決ハ上告論旨ノ如ク理由不備ノ判決ニアラス其第四ハ原院公判始末書ヲ見ルニ其末尾ニ於テ單ニ同二月二十七日裁判長ハ前席同様ノ手續ニテ開廷裁判ヲ言渡シ云々ト記載アリテ判決言渡ノ際手續ノ同様ナルモ果シテ適法ニ裁判所ヲ構成セシヤ何人カ列席セシヤ又被告人ハ身體ノ拘束ヲ受ケスシテ出廷シタルヤ且又言渡ヲ公行セシヤ等毫モコレヲ知ルヲ得ス從テ原判決ノ當否ヲ判斷スルヲ得サル不法アルモノナリト云フニ在レトモ○前席同様ノ手續トハ意義明確ナラサルニモセヨ前席同様ノ手續トアレハ適法ニ裁判所ヲ構成セシコト被告人ノ身體ヲ拘束セサルコト及ヒ言渡ヲ公行シタルコトハ前後席ノ公判始末書ニ徴シ知ルヘキナリ若シ之ヲ外ニシテ他ノ手續ノミヲ指シタルモノトセハ其手續トハ何等ノ手續ヲ指シタルモノナルカ遂ニ其意義ノアル處ヲ知ルニ由ナカラントス故ニ其手續トハ廣義ニ之ヲ解釋シ前頭說示ノ如ク解スレテ相當ナリトス其第五ハ被告高取義一郎ノ上告趣旨第一被告古賀鶴吉ノ擴張書第一乃至第三ト其趣旨同一ニ歸着スルニ依リ同說明ニ讓リ爰ニ復說セス

右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十年四月五日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○強竊盜教唆及贓物故買ノ件

明治三十年第二四九號
明治三十年四月五日宣告

○判決要旨

強竊盜罪ト贓物故買罪トハ犯罪ノ目的物同一ニシテ密接ノ關係ヲ有ス從テ強竊盜罪ノ公訴ニハ贓物故買罪ヲモ包含ス

第一審 浦和地方裁判所 第二審 函館控訴院

被告人 阪本福壽 杉山丈助 辯護人 牧野充安 高木益太郎

右福壽カ強竊盜教唆ト助カ贓物故買被告事件ニ付明治三十年三月六日函館控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告兩名ハ上告ヲ爲シタリ
大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
被告福壽カ上告趣旨ノ第一點ハ被告峰岸庄太郎等ノ所爲ハ被告ノ教唆ニ出テタルモノト如ク斷定シ剩ヘ器具ヲ給與シ密ヲ所ヲ指示シタリト認メタルトモ豫審ニ於テハ之ヲ認メス且公訴以外ノ事實ヲ附會セリ而シテ教唆罪成立ノ要素ナキコト訴訟記録等ニ徴シテ明瞭ナルニ原院カ強竊盜教唆罪トシテ處斷シタルハ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原院ノ認定セシ被告ノ所爲ハ公訴以外ノ事實ニアラサルコト檢察ノ豫審請求書ニ照シテ明白ナリ又事實ノ認定ハ

豫審終結ノ決定ニ拘束セラレヘキモノニアラス故ニ本論旨ハ要スルニ原承審官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサルモノトス
同第二點ハ原院ニ於テ被告ヨリ利益トナル可キ事實ヲ申立テントセシモ訊問外ノ辯解ヲ爲スニ及ハスト制止シ又證人參考人ノ喚問等ヲ申請シタルニ之ヲ採用セザリシハ違法ナリト云フニ在レトモ○原院ノ公判始末書ヲ査閱スルニ被告ノ辯解ヲ差止メタルカ如キ事跡ノ見ル可キモノナシ又證人喚問等ノ申請ニ付其必要アルト否ヤヲ判斷シテ之ヲ許否スルハ原承審官ノ職權ニ存スルモノナレハ右申請ヲ採用セザリシヲ以テ違法ナリト爲スコトヲ得ス
同第三點ハ原院ニ於テ各證據ノ取調ヲ爲サス被告ニ意見ノ有無ヲ問ハズ單ニ押收ノ物件ハ數多アリ一々開封シテ見ルノ必要ナク大畧目錄ニテ知ルコトヲ得ルニ付省畧ストノ命ヲ下シテ其目錄ヲ示サス又一件記録ハ夥多アリテ其讀聞ハ容易ナラサレハ省畧ストノ命ヲ下シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○原院ノ公判始末書ヲ査閱スルニ被告兩名ニ間ノ證據書類ノ朗讀ヲ省畧シテモ異存ナキヤ答異存ナシ云々此時押收シアル證據物件一切ヲ示シタリ被告兩名ニ間ノ各證據ニ對シ辯解スルコトアリヤ云々ト記載シアルニ依ンハ證據物件一切ヲ示シテ被告ニ意見ヲ求メ又證據書類ノ朗讀ヲ省畧セシコトハ被告ニ於テ異存ナカリシコト明白ナレハ毫モ違法ノ廉アルコトナシ
同第四點ハ原院ニ於テ判決言渡ヲ爲スニ當リ唯其主文ノミヲ朗讀シ事實ノ認定法律ノ適用ハ宮城控訴院ノ通リト言渡シ已ニ破毀サレタル同控訴院ノ判決ヲ援引シタルノミナラス理由ヲ

期讀シ又ハ其要領ヲ告ケサリシハ違法ナリト云フニ在レトモ○原院ノ公判始末書ヲ査閱スルニ別紙ノ通り判決ヲ言渡シ云々ト明記シアルニ付原判決全部ヲ朗讀シタルコト明瞭ナリ故ニ本論旨ハ其謂レナキモノトス

同第五點ハ檢事ノ公訴及ヒ豫審ノ決定ハ不完全ナルニ付公訴不受理ノ言渡ヲ爲サル可カラサルニ原院ハ右公訴等ニ羈束セラレ判決ヲ與ヘタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○何故ニ檢事ノ公訴及ヒ豫審終結ノ決定ハ不完全ナルヲ以テ公訴受理ス可カラサルモノナリト爲スヤ又何故ニ原院ハ之ニ羈束セラレテ判決ヲ與ヘタルモノト爲スナキ理由ヲ開陳セサルニ付キ到底其趣旨ノ存スル所ヲ了解スルコト能ハス故ニ本論旨ニ對シテハ説明ヲ與フルニ由ナキモノトス

同擴張論旨ノ第一點ハ原院ハ已ニ破毀サレタル宮城控訴院ノ判決ヲ費用シ原判決中八號ノ事件ニ付犯罪供用ノ刀二本ハ被告カ貸與ヘタルモノト認メタルハ不法ナリト云フニ在テ○要スルニ原承審官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キス

同第二點ハ村松榮吉高橋市五郎神崎龜吉吉羽鷲五郎方ニ於ケル竊盜事件ハ起訴アリタルモノナルニ原院ニ於テ之ニ對シテ判決ヲ與ヘス却テ原判決中イ號ヲ號メ號ル號ノ強盜ノ所爲ニ付被告ノ關與シタル事實ナキニ有罪ノ判決ヲ與ヘタルハ不法ナリト云フニ在リ○因テ右前段ノ論旨ニ基キ一件記録ヲ査閱スルニ宮城控訴院ニ於テ被告ニ對シ高橋市太郎方ノ竊盜事件ニ付テハ無罪ノ言渡ヲ爲シ村松榮吉神崎龜吉吉羽鷲五郎方ノ竊盜事件ニ付テハ檢事ノ公訴シタル

事實ナキヲ以テ裁判スヘカラサルモノトノ言渡ヲ爲シタルコト其判文ニ照シテ明ナリ而シテ被告カ同控訴院ノ判決ニ對シ上告ヲ爲シタルハ其判決中前掲ノ被告ニ利益ナル部分ヲ除キ其他ノ不利益ナル部分ノミニ對スルモノト認ムルコト當然ナルノミナラス原院ノ公判始末書ニ照スニ問汝ハ宮城控訴院ニテ無罪ニナリタル點モ不服ナルカ答證據不充及ヒ裁判ス可カラズトノ理由ヲ以テセシ分ハ控訴セサルモ云々トアルニ依ルモ被告ハ前掲ノ各竊盜事件ニ付テ既ニ已ニ宮城控訴院ノ判決ニ服シ隨テ其判決ノ確定シタルコト瞭然タリ故ニ原院カ此點ニ付判定ヲ與ヘサリシハ固ヨリ當然ナリトス而シテ後段ノ論旨ハ原承審官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサレハ固ヨリ採ルニ足ラス

同第三點ハ原院ニ於テ相被告岸庄太郎ノ喚問ヲ申請シタルニ之レヲ採用セサリシハ違法ナリト云フニ在レトモ○右申請ヲ許否スルハ原承審官ノ職權ニ存スルノミナラス原院ノ公判始末書等ニ照スニ其申請ヲ爲シタル事跡ノ見ルヘキモノナシ故ニ本論旨モ亦相立タサルモノトス

同第四點ハ原院檢事ノ論告及ヒ答辯ヲ辯駁スルニ過キサレハ固ヨリ上告ノ理由トナル可キモノニアラス

同第五點ハ原院ニ於テ右藏田助次郎方ノ強盜事件ニ關スル檢證調書ハ豫審及ヒ第一審ニ於テ罪證ニ供セサルモノナルニ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シナカラ公廷ニ提出セス尙ホ辯解ヲ求メサリシハ違法ナリト云フニ在レトモ○右檢證調書ハ豫審及ヒ第一審ニ於テモ罪證ニ供セシコト明ナ

定ハ豫審判事ニ於テ自ラ調書ヲ筆記スルコトヲ要スルトノ趣旨ニアラサレハ本件ニ付司法警察官カ他人ヲシテ調書ヲ筆記セシメタルモ之ヲ以テ違法ナリト爲スコトヲ得ス故ニ原院カ此檢證調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ニアラサルナリ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案ノ上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十年四月五日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○監守盜ノ件

明治三十年第二五一號
明治三十年四月五日宣告

○判決要旨

執達吏ノ旅費手數料ハ執達吏手數料規則ニ依リ執達吏自ラ收入スヘキモノニ

シテ職務上監守スヘキモノニアラス

第一審 福岡地方裁判所 第二審 長崎控訴院

被告人 菅野松太郎

右松太郎ニ對スル監守盜被告事件ニ付明治三十年二月二十七日長崎控訴院ニ於テ福岡地方裁

判所ノ判決ニ對スル被告ノ控訴ヲ受理シ審理ノ末言渡シタル判決ニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ

被告松太郎上告趣意第一點ノ要旨ハ被告カ使用セシ所ノ金員ハ執行費用ノ豫納金ト財產競賣々得金トノ二種ニシテ其豫納金ハ執達吏カ職務ヲ行フニ付自ラ取得スル手數料及ヒ旅費ニシテ他ノ有給官吏カ職務上當然監守スル金員トハ全ク其性質ヲ異ニス然ルニ原判決ハ之ヲ使用シタル所爲ヲ監守盜罪ニ間疑シタルハ失當ナリト云フニ在リ○依テ按スルニ原判決ニハ(前署)其職務上自ラ監守スル所ノ淵上龜次郎各數名ヨリ豫納シタル執行並ニ送達ノ旅費手數料ノ内金三百三十四圓八十八錢五厘云々ヲ竊取シタルモノナリトアリ然ルニ旅費手數料ハ執達吏手數料規則ニ依リ執達吏自ラ收入スヘキモノニシテ職務上監守スヘキモノト云フヲ得サルモハナルニ他ニ特別ノ理由ヲ附セスシテ職務上自ラ監守スルモノト認メタルハ果シテ監守盜ヲ以テ間疑シタル疑件ノ當否ヲ審査スルニ由ナシ即チ原判決ハ事實理由ノ不備アル不法ノ裁判ニシテ全部破毀ヲ免カレサルモノトス既ニ此點ニ於テ原判決ノ全部ヲ破毀スヘキモノト認メタル上ハ他ノ上告論旨ハ一々説明スルノ要ナシ

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十一條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ
原判決ノ全部ヲ破毀シ更ニ審理セシムル爲メ本件ヲ廣島控訴院ヘ移送ス
明治三十年四月五日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○重典賣ノ件

明治三十年第二九六號
明治三十年四月十三日宣告

○判決要旨

抵當權ヲ有スル者ノ實印ヲ濫用シ抵當登記取消ヲ出願シ其取消ノ記入ヲ得タル上事實ヲ隱蔽シテ更ニ其抵當物ヲ他人へ抵當ト爲シ又ハ賣却シタル所爲ハ重典賣罪ヲ構成ス

重典賣罪ノ被害者ハ第二ノ買主又ハ抵當權利者ナリ

(參照) 自己ノ不動產ト雖モ已ニ抵當典物ト爲シタルヲ偽隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重

テテ抵當典物ト爲シタル者亦同シ(刑法第三百九十三條第二項)

第一審 山口地方裁判所 第二審 廣島控訴院

被告人 山本朔一

右重典賣被告事件ニ付明治三十年三月十九日廣島控訴院ニ於テ原判決ヲ取消シ被告ヲ重禁錮七月罰金十圓監視六月ニ處シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シ原院檢事松田協輔ハ答辯書ヲ差出シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
上告ノ趣意ヲ要スルニ本件ノ地所等ハ賣渡シ又ハ抵當ト爲シアルモノト爲シアルモノヲ其儘

賣渡シ又ハ抵當ト爲シタルニ非ス正當ノ手續ヲ經取消ノ上賣渡シ又ハ抵當ト爲シタルモノナレハ第二ノ賣渡又ハ抵當ハ有効ナリ左スレハ本案ハ重典賣罪ヲ成スモノニ非ス然ルニ原院カ有罪ナリトノ判決ヲ下シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ認ムル如ク抵當權者兼常彌富ノ實印ヲ濫用シ抵當登記取消ヲ出願シ其取消ノ記入ヲ得タル上事實ヲ隱蔽シ更ニ抵當物ヲ他へ抵當ト爲シ又ハ賣却シタル上ハ第二ノ買主又ハ抵當權者ハ損害ヲ受クルヲ以テ重典賣ハ罪ヲ成スコト勿論ニシテ原院ハ判決ハ相當ナリトス
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却ス
明治三十年四月十三日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○墮胎ノ件

明治三十年第三〇〇號
明治三十年四月十三日宣告

○判決要旨

第一審判決ニ對シ檢事ノ爲シタル刑期輕キニ失ストノ附帶控訴ト被告ノ控訴トハ其理由ニ於テ一致スヘキ道理ナシ

一致セサル控訴

第一審判決ノ刑期輕キニ失ストノ檢事ノ附帶控訴ヲ理由アリトシ第一審判決ヲ取消シタル場合ニ於テ被告ノ控訴モ亦理由アリト説明シタル判決ハ不法ナ

第一審 金澤地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 表島文圭

明治三十年三月二十四日名古屋控訴院ニ於テ右文圭ニ對スル墮胎被告事件ノ控訴ヲ審理シ原
判決中被告文圭ニ係ル部分ハ之ヲ取消ス被告表島文圭ヲ重禁錮二年ニ處ス公訴裁判費用金三
分ノ二ハ被告文圭之ヲ負擔スヘシ押收品ハ差出人ニ還付スト言渡タル判決ヲ不當トシ被告ハ
上告ヲ爲シ原院檢事長加納謙ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ
履行シ審判スル左ノ如シ

上告趣意書第二點ハ原判決ニ「第一審裁判所カ有罪ノ言渡ヲ爲シタルハ相當ナルモ其科シタル
刑ハ輕キニ失シ失當裁判ニシテ檢事ノ附帶控訴ハ理由アルヲ以テ從テ被告ノ控訴モ理由アル
ニ歸ス」云々ト判示シタレトモ被告ハ自己ニ不利益ナル主張ヲ理由トシテ上訴スルコトヲ得サ
ルモノナレハ原判決ヨリ一層不利益ナル附帶控訴カ被告ノ控訴理由ト一致スヘキ道理ナキノ
ミナラス却テ相背馳スルモノナルカ故ニ被告ノ控訴カ理由アルニ歸着スヘキ道理アルコトヲ
シ即チ原判決ハ理由組織ノ不法アルモノナリト云フニ在リ。○因テ審究スルニ原院カ第一審判

決ヲ取消シ之ヲ變更シタル理由ハ上告論旨ハ如ク被告ハ控訴理由中ニ包含スヘカラサルモノ
ナルコト論ヲ待タサルヲ以テ被告ハ控訴ハ理由ナキノナルニモ拘ラス被告ノ控訴モ理由アル
ルモノトシ原判決ヲ取消シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタル不法ノ判決ニシテ破毀スヘキモノ
トス已ニ此點ニ付キ原判決ヲ破毀スヘキモノト認ムル上ハ他ハ一々説明ヲ要セス
以上ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ本件ヲ東京控訴院ニ移ス
明治三十年四月十三日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○封印破毀ノ件

明治三十年第二八九號
明治三十年四月十五日宣告

○判決要旨

封緘ヲ無効ニシタル所爲ハ封印破毀罪ヲ構成ス

(參照) 官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ破棄シタル者ハ
二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス(刑法第二百七十
四條第二項)

第一審 函館地方裁判所 第二審 函館控訴院

封緘ノ無効

被告人 綠 榮太郎 辯護人 卜部喜太郎

右封印破毀被告事件ニ付明治三十年二月十九日函館控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ本院ハ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告趣意ノ第一其ハ抑刑法ノ封印破毀罪ナルモノハ封印其モノヲ實質的ニ物理的ニ破毀スルヲ要ス若シ然ラスシテ封印其モノヲ破毀セスシテ單ニ其封印セル物件ヲ使用損壞脱漏スルコトアラハ其點ニ付別罪ヲ構成スルハ格別封印破毀罪ヲ構成スヘキモノニアラス而シテ原院カ本件事件ノ認定ニ依レハ酒槽ノ口ニ施シアル封印付ノ繩ヲ取除キ又男柱ノ木ヲ嵌入スル穴ニ施シアル封印付ノ繩ヲ取除キ云々トアリテ封印若クハ封印繩ヲ破毀切斷シタルモノヲ認メタルモノニアラサルコトハ一點ノ疑ヒナシ然ハ則假令被告カ其物件ノ帶被即チ封印付ノ繩ヲ取外シテ使用シタル行爲アリトスルモ直チニ之ヲ以テ封印破毀ノ本條ニ該當セシモノト爲セシハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○其酒槽ノ口ニ封緘ヲ施スモノハ酒槽ヨリ膠ヲ出スコト能ハサラシムルノ用ニ供シタルモノ男柱ノ木ヲ嵌入スル穴ニ封印スルハ男柱ノ使用ヲ禁シタルニアルコトハ言チ疑ヒナシ然ルニ被告カ其繩ヲ取除キ酒槽ヨリ膠ヲ出シ男柱ヲ使用シ精酒五石餘ヲ搾リ取りタル所爲ハ即チ封緘ヲ無効ニシタルハ所爲ニシテ法律ハ所謂封印破毀ハ所爲タルコト明晰ナリトス故ニ原院カ被告ノ所爲ヲ以テ封印破毀罪ヲ構成スルモノトナシ刑法第七十四條ヲ適用シタルハ決シテ擬律錯誤ノ判決ニアラス○其二ハ第一審判決ニ

依レハ被告榮太郎ハ云々酒槽ノ口ニ施シアル封印付ノ繩ヲ取外シ男柱ノ木ヲ嵌入スル穴ニアリタル封印付ノ繩ヲ下ノ方ニ下ケ云々ト認定セラレタルトモ繩ヲ取外シト云ヒ又ハ下ノ方ニ下ケト云ヒ何レモ封印付ノ繩ヲ破毀切斷等ノ行爲アリタルニアラサルヤ明白ナリ然ラハ則刑法上罪トナラサル事實ニシテ第一審判決ハ當然取消サルヘキ筈ナリシニ判決爰ニ出テサシハ不法ナリ加之原判決ニ於テハ第一審判決ト認定チ異ニシ其取外シ又ハ下方ニ下ケノ文字ヲ殊更ニ酒槽云々封印付ノ繩ヲ取除キ變更セラレタリ去レハ原院ハ當然被告ノ控訴ヲ理由アリトシ第一審判決ヲ取消シ更ニ處斷セサルヘカラサル筈ナリシニ其然ラサリシハ法律ヲ不當ニ適用セサル不法アルモノナリト云フニ在レトモ○第一二審判決ヲ査閱スルニ原判決ニ取除キトアルノ文意ハ第一審ノ所謂取外シ及ヒ下ノ方ヘ下ケトノ事實ト同一意義ニシテ其認定チ異ニシタルニアラサルコト明白ナレハ原院カ第一審判決ヲ取消スヘキノ要ナシ故ニ原判決ハ不法ニ非ス○其第二ハ酒造器械ノ封緘處分ハ收稅官吏ノ爲スヘキコトハ勅令ノ明定スル處ナリ而シテ北海道爾志郡ニ於テハ松山外五郡長ヨリ特ニ各村戸長ニ此職權ヲ分任セリ故ニ戸長ハ自ラ收稅官吏トシテ當然其職權ヲ行フヘキモ更ニ之ヲ他人ニ分任スヲ得サルヘク然ルニ本件ニ於テ封印チナシタルハ熊石村役場筆生山下光太郎ナルコトハ原院ノ認ムル處ニシテ此封印ハ適法ナル收稅官吏ノ施シタルモノニアラス然ラハ假令被告カ之ヲ破毀シタルトテ敢テ犯罪ノ構成スヘキ筈ナキニ原院カ直チニ有効ナル封印ノ如ク認メ以テ本罪ニ間擬シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ於テ戸長露口三松ノ代理同村役場筆生山下某ニ云々封印

ヲ受ケタル處云々トアリテ山下某ハ職務上戸長ノ代理者トナリテ封緘ヲ爲シタルモノナレハ
 同人カ施シタル封緘ハ即チ收稅官吏ノ施シタル封緘ナルヲ以テ本論旨モ亦理由ナキモノトス
 辯護人ト部喜太郎辯明書ノ第一ハ原院ハ本件被告ノ所爲ニ對シ刑法第七十四條ヲ適用セ
 レタルモ其第一項ナルカ第二項ナルカチ明示セフレサレハ擬律ノ當否ヲ知ルニ由ナシ是レ法
 律上理由ヲ付セサル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○被告榮太郎ハ酒造營業人荒井定太郎
 ノ杜氏ナルコト原判文ニ明載シテハ同人カ爲シタル封印破毀ノ所爲ハ看守者自ラ犯シタル
 モノニアラサルコト知ルヘシ故ニ原院カ同條第一項ニ依リ被告ヲ處罰シタルハ明白ニシテ其
 何項ナルカチ明示セサルモ法律ノ理由ヲ付セサル不法ノ判決ト云フヲ得ス其第二ハ本件第一
 審判決ヲ見ルニ其酒槽及ヒ男柱ハ何レノ場所ニ於テ封印セラレタルヤ亦封印ハ何レノ場所ニ
 於テ破毀セラレタルヤチ明示セス是レ犯罪ノ場所ヲ示サレサル不法アルモノナリ去レハ原院
 ハ當然被告ノ控訴ニ對シ其第一審判決ヲ取消サレ更ニ判決スヘキモノナルニ事茲ニ出ス控訴
 棄却ノ判決ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○第一審判文ヲ通讀スルニ被告ハ酒造營
 業人荒井定太郎ノ杜氏ニシテ封緘ヲ受ケタル樽リ器械ハ定太郎ノ營業器械ナレハ被告カ封印
 破毀ノ所爲アリタルハ即チ定太郎方タルコト自カラ明白ナリ故ニ原院カ犯罪ノ場所ヲ明示セ
 サルトノ理由ヲ以テ等一審判決ヲ取消サレハ相當ノ措置ナリトス
 右ノ理由ナルニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス
 明治三十年四月十五日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○竊盜ノ件

明治三十年四月十六日宣告

○判決要旨

檢事ノ附帶控訴ニ基キ三犯チ初犯ト誤認シタル第一審判決ヲ取消シ更ニ加重
 ノ刑ヲ言渡シタル裁判ニ於テ被告ノ控訴モ亦理由アリト説明シタルハ不法ナリ

第一審 名古屋地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 山田乙吉 辯護人 高木益太郎

明治三十年三月十七日名古屋控訴院ニ於テ右乙吉ニ對スル竊盜被告事件ノ控訴ヲ審理シ原判
 決ハ之ヲ取消ス被告乙吉チ竊盜ノ所爲アリト認メ重禁錮二年ニ處シ監視十月ニ處スト言渡タ
 ル判決ヲ不當トシ被告ハ上告ヲ爲シ原院檢事長加納謙ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法
 第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スル左ノ如シ
 辯護士高木益太郎上告辯明書第一點ハ原判決ニ「右被告カ所爲ハ刑法第三百七十六條ニ該リ輕
 罪三犯ニ付同法第九十三條第九十八條ニ照シ本刑ニ一等ヲ加ヘ被告チ重禁錮二年監視十月ニ
 處スルヲ相當トス然ルニ原裁判所ニ於テ本件ノ犯罪ヲ初犯ナリト認メ之ニ輕キ刑ヲ科シタル

ハ失當ニシテ云々ト判示シ被告ノ不利益ニノミ第一審判決ヲ變更シナカラ其後段ニ至リ被告ノ控訴モ共ニ理由アリトセラレタルハ理由由齟齬且法則違反ノ裁判タルヲ免カレスト云フニ在リ

○因テ審究スルニ原院ハ第一審裁判所ニ於テ被告カ三犯ハ犯人ナルヲ初犯ト誤認シ從テ刑ハ加重ヲ爲サハリシヲ失當ナリトシテ其判決ヲ取消シ更ニ加重ハ刑ヲ科シタルモハナレハ此理由ハ被告ノ控訴中ニ包含スヘカヲサルモハニシテ單ニ檢事ハ附帶控訴ハミニ基クモハナルヲ以テ被告ノ控訴ハ理由ナキモハナルニモ拘ハラズ被告ノ控訴モ理由アリトシ原判決ヲ取消シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタル不法ノ判決ニシテ上告ハ理由アルモノトス已ニ此點ニ付キ原判決ヲ破毀スヘキモノト認ムル上ハ他ハ一々説明ヲ要セス

以上ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ本件ヲ大阪控訴院ニ移ス

明治三十年四月十六日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○藥用阿片賣買規則等違犯ノ件

明治三十年第二九三號
明治三十年四月十六日宣告

○判決要旨

藥種商ニシテ阿片賣買ニ關スル違反者ハ明治二十二年法律第十號藥品營業並

ニ藥品取扱規則第四十五條ニ基キ明治十一年第二十一號布告藥用阿片賣買並
ニ製造規則第九條第十六條ヲ適用シテ處斷スヘキモノトス

(參照) 阿片賣買ニ關スル事項ハ明治十一年八月第二十一號布告ニ據ル(藥品營業並ニ藥
條十五)

凡テ内外國人共醫師ノ處方箋ヲ持參シタル者ノ外ハ特許藥舖并ニ一般藥舖ニ於テ一
切之ヲ賣渡スヘカラス(藥用阿片賣買并
製造規則第九條)

此規則ニ違犯スル者ハ其犯情ニ從ヒ阿片賣買者クハ製造ヲ禁シ其所有ノ阿片ヲ沒收
シ百五十圓ヨリ五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ(同規則第
十六條)

第一審 和歌山地方裁判所田邊支部 第二審 大阪控訴院

被告人 小山忠平

右忠平カ藥用阿片賣買並製造規則藥品營業並藥品取扱規則及賣藥規則違犯被告事件ニ付明治
三十年三月八日大阪控訴院ニ於テ和歌山地方裁判所田邊支部カ言渡シタル判決ニ對スル被告
ヨリノ控訴ヲ審理シ第一審判決ヲ取消シ更ニ被告忠平ヲ各罪ヲ併セ罰金三百五十五圓ニ處ス
云々ト判決シタル第二審ノ裁判ヲ不法ナリトシ被告ハ上告ヲ爲シ原院檢事ハ答辯書ヲ差出シ
タリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告第一點原判決第一ノ事實確定中上告人ノ阿片零賣ニ對シ法律ヲ適用スルニ當リ明治二十

二年法律第十號藥品營業並ニ藥品取扱規則第四十五條及ヒ明治十一年第二十一號布告藥品阿片賣買並ニ製造規則第九條第十六條等ニ依リタルモ明治二十二年法律第十號規則ノ第四十五條ハ阿片賣買ニ對スル事項ハ一ニ明治十一年第二十一號布告ニ讓リアリ而シテ其明治十一年第二十一號布告第九條ニ於テハ醫師ノ處方箋ナキモノニ對シテ特許藥舖並ニ一般藥舖ニ於テ之ヲ賣渡スヘカラストアリ同第十六條ニ之カ違背者ニ對スル制裁ヲ規定セラレアリ本件上告人ハ右布告ニ所謂特許藥舖ナリヤ若クハ一般藥舖ナリヤヲ定メサル可ラス規則第四十四條ニ云フ此法律施行以前內務省ニ於テ藥舖開業免狀ヲ得タルモノハ藥劑師タルノ効チ有ストアリテ此規則ニ新ニ所謂藥種商ナルモノハ布告ノ所謂藥舖ニアラサルナリ明治八年文部省布達醫制第三十七條ニモ藥舖開業ニモ試驗ノ定メアリテ規則ニ所謂藥劑師タルヘキモノニ屬シ今ノ藥種商ナルモノニ當ラサルナリ若シ之ヲ藥舖ナリトセンカ規則第二十二條ニ藥種商ナルハ藥劑師タルニ對シ衛生試驗所又ハ藥劑師ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ零售スルヲ得ストアルニ布告第九條ニ從ヒ獨リ阿片ニ對シ他ノ藥劑師ト同シク容器ヲ開キテ零售スルコトヲ得ンヤ今ノ藥種商ナルモノト布告ニ所謂藥舖ナルモノト別亦以テ見ルヘキナリ藥種商カ阿片ヲ零售シタリトスレハ新規則第二十二條ノ違背者トシテ第三十九條ニ問擬スヘキナリ事穩當ニ似サルカ如シト雖モ律ノ定ムル所斯ノ如キノミ藥種商ノ阿片零售ヲ藥劑師ト同律ニ擬スヘキ要アラハ藥種商タラサルモノト阿片零售モ亦藥劑師ト同律ニ充ツヘキ要アラハ原判決カ之ヲ同視シタルハ以上ノ法則ニ違背シタル判決ナリト云フニアレトモ○明治二十二年法律第十號藥

品營業並ニ藥品取扱規則第四十五條ヲ案スルニ同條ニハ阿片賣買ニ關スル事項ハ明治十一年八月第二十一號布告ニ據ルハ規定シアルハ藥種商ニシテ阿片賣買ニ關スル違反者ハ左ノ規定ニ基キ懲テ明治十一年第二十一號布告藥用阿片賣買並ニ製造規則第九條同第十六條ニ依リ處斷スヘキモノナリトス故ニ原院カ其判決第一ニ認メタル阿片賣渡シノ事實ニ對シ前掲ノ各法律ヲ適用處斷シタルハ相當ニシテ疑律ニ錯誤アルコトナシ同第二點原判決法律適用ノ如クナランニハ第一ノ零售ハ藥種商又ハ藥舖トシテノ資格ニ於テ之ヲ爲シタルヤ否ヲ定ムヘキニ此等ニ關スル何等ノ事實ヲモ確定セラレス上告人ノ肩書ニ藥種商トアルモ箇ハ材木商又ハ米商トアルト等シク其肩書ノミハ以テ事實ノ確定又ハ理由トナス可ラス上告人ハ前點ニ於テ云々スル處アルモ藥種商ノ肩書セラレアルニ依リ暫ラク其資格ニ於テ事實ヲ確定セラレタリト假定シタルニ過キササルナリ原判決ノ理由ヲ附セサルハ免ル所ニアラス若シ職業上ノ資格ニ於テノ犯罪ニアラストスレハ普通刑法ニ依ラサル可ラスシテ原判決ハ疑律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○原判決書ニ依レハ被告氏名ノ肩書ニ其職業ヲ明記シアリテ被告ノ藥種商ナルコトハ明白ナルニ依リ判決文中殊更ニ其職業ヲ揭記スルヲ要セス故ニ原院カ被告ヲ藥種商ナリトシテ處斷シタルハ相當ニシテ違法ニアラス同第三點原判決第五ノ事實ハ無免許賣藥請賣ナリトセラレタルモ右賣藥ヲ如何ニシテ如何ナル處ヨリ請ケタルヤノ理由ノ見ルヘキモノナシト云フニアレトモ○原判決ニハ無免許請賣ノ事實ヲ明示シアレハ其之ヲ何人ヨリ如何ニシテ買入タルヤノ如キハ之ヲ判示セサルモ違法ニアラス

右ノ理由ナレニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
 但上告豫納金ノ半額ハ明治十九年勅令第四十六號ニ依リ沒收ス
 明治三十年四月十六日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治三十年第三一三號
 明治三十年四月十六日宣告

○判決要旨

同一ノ事實ニ對シ罪名ヲ變更スルハ裁判所ノ職權ニ屬ス從テ第二審ニ於テ第一審ト罪名ヲ異ニスル裁判ヲ爲スハ不法ニアラス

第一審 福島地方裁判所 第二審 宮城控訴院
 被告人 吉田利吉

右詐欺取財被告事件ニ付明治三十年三月十八日宮城控訴院ニ於テ福島地方裁判所ノ判決ニ對スル被告ヨリノ控訴及檢事ノ附帶控訴ヲ審理シ原判決ハ之ヲ取消ス被告利吉ヲ重禁錮二年六月ニ處シ監視六月ニ處ス云々ト言渡シタル判決ヲ不法ナリトシ被告ハ上告ヲ爲シ原院檢事ハ

答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
 上告要旨ノ第一點第一審裁判所ニ於テハ明治二十九年十月十三日米澤市字立町飲食店ニ於テ住所不明ノ高橋文平ト飲酒ノ末同人ノ携帶生絲一貫七百五十匁眞綿百九十匁程ヲ金六十圓ト見積リ之ヲ他ニ賣却シ違スヘシト欺キ手付金十圓ヲ交付シ該品ヲ受取り其翌朝福島地方へ逃シタルモノト認メ詐欺取財ヲ以テ論シ重禁錮一年罰金二十圓監視六月ヲ附セラレタルニヨリ該判決ニ對シ被告ヨリ控訴ニ及ヒ而シテ本件ニ關スル賣買ハ正當ノモノニシテ毫モ詐欺ノ所爲ナキ事實ヲ辯明シタリ然ルニ原院ノ立會檢事ハ詐欺取財ナリトノ論告ヲ確持シ能ハサルカ爲メ該生絲外一品ハ被告人ニ於テ氏名不詳者ヨリ摘摸シタルモノナルヘキニ依リ竊盜罪トシテ附帶控訴ヲ爲シタリ其趣意ヲ案スルニ刑事訴訟法第八十五條ノ規定ニ適當スヘキ理由ナクテハ即チ附帶控訴ノ理由トナスヘキモノニアラス然ルニ原院ニ於テハ同法第二百六十五條ニ背キ原判決ヲ變更シテ原刑ヨリ二倍半ノ重刑ニ處シ被告ニ不利益ノ判決ヲ與ヘタルハ不法ノ最モ酷シキモノナリ況ンヤ立會檢事ニ於テ刑期ノ長短ニ就キ附帶控訴アリタル事實ナキニ於テテハ是レ法則ヲ法當ニ適用シタル裁判ナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第八十五條ハ附帶犯罪ニ關スル規定ニシテ附帶控訴ノ場合ニ適用スヘキ法條ニアラス而シテ控訴裁判所ノ檢事モ亦附帶控訴ヲ爲スヲ得ヘキコトハ同法第二百五十九條第二項ノ規定スル所ナリトス故ニ原院公判ノ際立會檢事ニ於テ第一審判決ノ不當ヲ認メ附帶控訴ヲ爲シタルハ違法ニアラサルヲ以テ上告論旨ハ其理由ナシ同第二點第一審裁判所ニ於テハ竊盜罪ノ起訴ナキハ勿論

又竊盜罪ノ判決ナカリシモノナンハ第二審ニ於テハ何等ノ判決ヲ爲スヘキ權能ナキニ拘ラス
 張テ竊盜罪ヲ以テ處斷シタルハ刑事訴訟法第百八十四條同第百五十條ノ法理ニ背キタル越
 權ノ處置ナリト云フニアレトモ○同一ハ事實ニ對シ罪名ヲ變更スルハ原院ハ職權ニ屬スルモ
 ハナルヲ以テ第一審ト罪名ヲ異ニシタル判決ヲ爲スモ違法ナリト云フヲ得ス同第三點第二審
 判決ノ如ク若シ竊盜罪アリトセハ何レノ時如何ナル場合ニ於テ如何ナル方法ヲ用ヒ如何ナル
 竊盜ヲ犯シタルヤヲ明示シ且其證據ヲ列擧スヘキ答ナルニ是等ノ完全ナル理由及ヒ證據ヲ明
 示セス且其理由ニ顯赫アルモノナレハ頗ル不法ノ裁判ナリト云フニアレトモ○原判決ヲ查ス
 ルニ犯罪ノ事實及ヒ之ニ對スル證據ハ明カニ判示シアルニ依リ上告論旨ハ要スルニ原院ノ職
 權ニ屬スル證據ノ取捨事實ノ認定ニ對シ徒ラニ批難ヲ試ムルモノニ外ナラサルヲ以テ上告適
 法ノ理由ナシ

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ則リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
 明治三十年四月十六日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○賭博ノ件

明治三十年四月十九日宣告

○判決要旨

賭具賭錢ヲ沒收スルニ當リ其物體員數ヲ判文ニ明示セサルモ訴訟記録ニ徴シ
 テ知悉シ得ヘキ場合ニアリテハ判決ヲ執行スルニ妨ケナシ

第一審 水戸地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 大和田長七 辯護人 花井卓藏

右賭博被告事件ニ付明治三十年三月十九日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ
 上告ヲ爲シタリ依テ本院ハ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
 上告趣旨ノ第一ハ被告ハ明治二十九年十二月十一日大貫千代松方ニテ金錢ヲ賭シ博奕ヲ爲シ
 タル事實ナシ而シテ一件記録中毫モ犯罪ヲ證明スヘキ證據アルコトナシ却テ被告ノ利益タル
 ヘキ證據アルニ原院カ漫然心證ヲ組成シ有罪ノ言渡シヲ爲シタルハ不法ナリト云フニアリテ
 ○原承審官ノ職權ニ存スル事實ノ認定證據ノ取捨ヲ批難スルニ過キサルモノナレハ適法上告
 ノ理由ナシ

第二原院ニ於テ書類ノ朗讀ヲ省畧シタルハ刑事訴訟法第九十八條ニ違ヒタル不法ノ裁判ナ
 リト云フニ在レトモ○原公判始末書ヲ閱スルニ被告及辯護人ニ於テ書類ノ朗讀ヲ省畧セラル
 ハモ異存アリマセト申立アリテ省畧ノコトハ素ヨリ被告ノ認諾スル處ナレハ之ヲ以テ上告

賭具賭錢ノ沒收

ノ理由ト爲スヲ得ス
 辯護人花井卓藏擴張書ノ第一ハ第一審判決ハ被告カ懲罰六月過料金四十圓ニ處セラレタル行政處分ヲ以テ前科トセリ原院ハ此不法ヲ認メ右懲罰過料ノ處分ヲ前科中ヨリ削除シタリ果シテ然レハ本件ノ控訴ハ理由アルヲ以テ第一審判決ハ之ヲ取消スヘキ筋合ナルニ原判決後ニ出テサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○第一審判決ヲ查閱スルニ被告ノ懲罰過料ノ處分ヲ事實ノ理由中ニ掲ケタルハ被告ノ經歷ヲ叙述シタルニ止マリ之ヲ以テ前科ト認メタルモノニアラス何トナレハ若シ之ヲ前科ト認メタルニハ被告ハ右處分ノ後尙ホ賭博罪ニ依リ重禁錮ノ處分ヲ受ケ此處分モ判文中ニ明載シアレハ法律ノ理由ニ於テ被告ハ輕罪ノ三犯トシテ處斷セラレト見レハ被告ノ懲罰過料ヲ前科ト認メサリシコト明晰ナレハナリ然ラハ則チ原院ニ於テ之ヲ判文中ヨリ削除シタルハ第一審判決ノ不法ヲ認メタルノ故ナラスシテ事實ノ理由ニ於テ之カ必要ヲ認メサルニ過キサルコト知ルヘキナリ故ニ原院カ被告ノ控訴ヲ理由アリトシ第一審判決ヲ取消サルハ相當ノコトナリトス○第二ハ控訴申立書ヲ見ルニ重禁錮七月十五日罰金六十圓ニ處スト言渡相成リタル判決ハ不法ニ付云々トアリ乃チ本件ハ禁錮罰金ノ刑ノミニ對シ控訴シタルコト明白ニシテ沒收ノ言渡ニ對シ控訴ヲナシタルモノニアラサルヤ疑フヘカラス然ルニ原院ニ於テ原判決全體ノ控訴アルモノトシテ判決ヲ與ヘタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○該控訴申立書ニ「重禁錮七月十五日云々言渡シ相成タル判決ハ全部不服ニ付茲ニ控訴申立候也トアル」ノミナラス原公判始末書ニ於テモ「答原判決ハ全部不服ニテ控訴致シマシタレト

マリテ第一審判決ノ全部ニ對スル控訴タルコト疑ナ容ルヘキナシ故ニ本論旨ハ其理由ナシ第一三ハ沒收ハ一ノ刑罰ナリ而シテ刑罰ヲ當行スルニハ確定シタル物體アルヲ要ス本件ニ付沒收シタル賭具賭錢ハ確定シタル物體ニアラスシテ法律上ノ用語タルニ過キス乃チ如何ナル賭具ナシカ幾何ノ賭錢ナルカ之ヲ明示スルニアラサレハ執行官ハ如何ニシテ沒收刑ヲ當行スヘキカ要スルニ原判決ハ沒收ノ物體ヲ明示セサル不法アルモノナリト云フニ在レトモ○原判文中其賭具ヲ明示シ且ツ一件記録ニ綴込ミアル證據金品目錄ニ徴スレハ其賭具ハ何ニタルコト及ヒ賭錢ハ幾何タルコト知ルヲ得ヘケレハ之レカ沒收刑ヲ執行スルニ於テ毫モ妨ケアルコトナシ故ニ原判決ハ不法ト云フヲ得ス

右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス
 明治三十年四月十九日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事藤堂融立會宣旨ス

○官文書偽造詐欺取財及郵便條例違犯抗告ノ件

明治三十年抗告第三號
 明治三十年四月十九日決定

○決定要旨

郵便貯金簿冊ノ性質

郵便貯金預簿郵便爲替貯金出納簿郵便貯金通帳ハ官文書ナリ

(參照) 官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス(刑法第二頁三條第一項)

原告人 原田長次郎

右官文書偽造詐欺取財及郵便條例違犯被告事件ニ付熊本地方裁判所天草支部豫審判事カ與ヘタル免訴ノ決定ニ對スル同廳檢事森田廣矩ノ抗告ニ對シ明治三十年二月十八日長崎控訴院ニ於テ原決定ヲ取消シ本案重輕罪被告事件ヲ熊本地方裁判所ノ重輕罪公判ニ付スト言渡シタル決定ヲ不當トシ被告ヨリ抗告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百九十七條ニ則リ檢事ノ意見ヲ聽キ一件記録ヲ調査シ審理ヲ遂クル處

被告長次郎ハ熊本縣天草郡町山口郵便電信局ノ雇員トシテ同局ノ郵便爲替貯金事務取扱中同局長渡邊剛策カ己レヲ信任スルノ深キヲ寄貨トシ同人ヲ欺罔シ金圓ヲ騙取センコトヲ企圖シ明治二十六年七月十九日安島イキ安島ユキ安島ワカ安島タイノ四名ヨリ各金五十圓ヲ郵便貯金トシテ同局ニ預ケ入レタル如キ事實ヲ虛構シ同局備付ノ郵便貯金預簿及郵便爲替貯金出納簿ヘ金二百圓ノ郵便貯金ヲ預リタル旨虛偽ノ記入ヲ爲シ同時ニ安島イキ安島ユキ安島ワカ宛ノ郵便貯金通帳中前同様金五十圓ヲ預リタル旨虛偽ノ記入ヲ爲シ執レモ剛策ノ官印ヲ盜捺シ翌八月十五日ニ至リ剛策ニ對シ決算上金二百圓不足スル旨ヲ詐稱シ補足ヲ求メタルニ剛策ハ被告ヲ信ス

ルノ餘リ不足ノ原因ヲモ取糺サスシテ金二百圓ヲ被告ニ交付シ被告ハ即チ之ヲ騙取シテ安島イキ外三名カ預ケ入レタルモノ、如クニ裝ヒ保管金ノ内ニ混入シ而シテ翌九月一日ニ至リ赤間關郵便局貯金管理支所ニ對シ前記ノ通帳ヲ以テ貯金拂戻請求ノ手續ヲ爲シ同月七日十一日ノ二回同局ヨリ元利金二百圓五十二錢五厘ノ交付ヲ受ケタルモノニシテ其事實ノ證據十分ナリトス之ヲ法律ニ照スニ郵便貯金預簿郵便爲替貯金出納簿偽造行使及ヒ郵便貯金通帳偽造行使ハ所爲ハ各刑法第二百三條第一項、第二百五條第一項、官印盜用ハ所爲ハ各同法第九十七條第一項、第九十五條、二金圓騙取ハ所爲ハ同法第三百九十條第一項、第三百九十四條、該當シ尙ホ同法第二百六條、第三百九十九條、第二項、第三百九十九條第一項、第三百九十四條、該當シ、刑事訴訟法第六十八條、第六十七條、第一項、未段ニ則リ公判ニ付ス可キモノトス故ニ原院カ本件ヲ熊本地方裁判所ノ重輕罪公判ニ付スト言渡シタルハ相當ナルモ事實ノ認定法律ノ適用ハ不當ノ點アリ抗告ハ結局其理由アルヲ以テ刑事訴訟法第百條前段ニ則リ原決定ヲ取消シ本院ニ於テ更ニ裁決ヲ爲スコト左ノ如シ

豫審判事ノ決定ヲ取消シ本案重輕罪被告事件ヲ熊本地方裁判所ノ重輕罪公判ニ付ス

明治三十年四月十九日大審院第一刑事部ニ於テ

○毆打致死ノ件

明治三十年四月二十二日宣告

○判決要旨

非現行犯事件ノ起訴ニ際シ被告人ノ氏名不詳ナルトキハ人相若クハ特徴ヲ指シ其何人タルヤチ確メ得ヘキ方法ニ依リ提起セサルヘカラス然ラサレハ其起訴ハ不合法ナリ

第一審 長野地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 小林乙三郎 辯護人 上田昇一郎

右乙三郎ニ對スル毆打致死被告事件ニ付明治三十年三月十七日東京控訴院ニ於テ長野地方裁判所ノ判決ニ對スル被告ノ控訴ヲ受理シ審理ノ末言渡シタル判決ニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ
被告辯護人上田昇一郎上告理由擴張第二點ノ一ハ本件ニ關シテハ法律ニ背キ公訴ヲ受理シタルノ不法アリ刑事訴訟法第六十六條ニ曰ク檢察豫審ヲ求ムルトキハ云々且臨檢ス可キ場所逮捕ス可キ人名及ヒ證人ト爲ル可キ者ヲ指示スヘシトアリテ明カニ搜查處分ト豫審處分トノ界限ヲ明定セラレツ、アリテ互ニ相侵ス能ハサラシムルモノナリ然ルニ本件ハ非現行犯ニシテ豫審請求書ニハ姓名不詳者一人ト明記シアリテ當テ被告人ノ氏名ヲ指示シタルコトアラス若

豫審判事ヲシテ搜查處分ヲ爲サシムルモノニシテ不法ノ起訴狀ナリ此起訴ニシテ不法ニシテ無効ノモノタルニ於テハ公訴ハ未タ成立セサルモノナルヲ以テ公訴ノ審理ハ之ヲ爲ス可カラサルニ公訴ヲ受理シタルハ不法ナリト云フニ在リ○依テ一件記録ヲ査閱スルニ豫審請求書ニハ毆打致死被告人姓名不詳者一人トアルノミ而シテ此起訴以前ニ於ケル檢察ト警部ト間ノ往復電報ヲ見ルニ檢察ハ警部ヨリ毆打創傷事件アリシ電報ニ接スルヤ直チニ被告ハ知レサルヤト警部ニ照會シ被告ハ知レテ居ルトノ返電ヲ得テ直チニ起訴シタルモノナレハ警部ニ於テハ被告人ノ誰タルヲ知リタリトスルモ起訴ノ職責ヲ有スル檢察ニ於テハ被告人ノ氏名ヲ知ラザリシノミナラス其起訴ノ當時ハ被告人ノ何人ナルヤチ確ムルコト能ハサリシコト明カナリ非現行犯事件ヲ起訴スルニ當テハ被告人ノ氏名ヲ詳カニセサルモ其何人タルヤハ人相若クハ其人ノ特徴ヲ以テ他人ト區別スルコトヲ得ル場合ニアラサレハ適法有効ノ起訴ト云フヘカラズ本件ハ前説明ノ如ク檢察ニ於テ被告人ノ何人ナルカチ確メスシテ提起シタル公訴ナレハ到底之ヲ有効ト認ムルコト能ハサルモノナレハ公訴不受理ノ判決ヲ爲スヘキニ原判決茲ニ出テス之ヲ受理審判シタルハ即チ不法ニ公訴ヲ受理シタルモノト云ハサルヘカラス既ニ此點ニ於テ本件ハ公訴不受理ノ判決ヲ爲スヘキモノトスル以上ハ他ノ上告論旨ハ一々説明スルノ必要ナシ

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十七條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ
原判決ノ全部ヲ破毀ス

非現行犯事件ノ起訴

本件公訴ハ之ヲ受理セス

明治三十年四月二十日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○私印盜用私書偽造行使ノ件

明治三十年第二九〇號
明治三十年四月二十三日宣告

○判決要旨

證據物件ヲ總括シテ被告人ニ示シ其辯解ヲ徵スルハ不法ニアラス

第一審 新潟地方裁判所長岡支部 第二審 宮城控訴院

被告人 小川清松 佐藤繁五郎 辯護人 原 嘉道

右清松繁五郎カ私印盜用私書偽造行使被告事件ニ付明治三十年二月廿五日宮城控訴院ニ於テ新潟地方裁判所長岡支部ノ判決ニ對スル被告共ヨリノ控訴ヲ審理シ原判決ハ之ヲ取消ス被告人清松ヲ重禁錮四月ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス被告人繁五郎ヲ重禁錮三月ニ處シ罰金三圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス云々私印盜用事件ハ無罪トスト言渡シタル判決ヲ不法ナ

トシ被告兩名ハ上告ヲ爲シ原院檢事長古莊一雄ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ辯護士原嘉道ノ辯論立會檢事安居修藏ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

被告清松ノ上告趣旨ハ被告ハ私印ヲ盜用セス私書ヲ偽造セサルニ原院カ有罪ノ判決ヲ下シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○私印盜用罪ハ原院ニ於テ無罪ノ判決ヲ爲シタルモノナルヲ以テ其判決ニ對シテハ上告ヲ爲スヲ得サルモノトス其他ノ論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルモノニ過キササルヲ以テ上告適法ノ理由ナシ
被告繁五郎ノ上告趣旨ハ被告ハ私印偽造行使ヲナシタルコトナキニ原院カ有罪ノ判決ヲ下シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○是亦事實ノ認定ヲ批難スル論旨ニシテ上告其理由ナシ
原辯護士上告趣旨擴張ノ第一點原院文中刑ノ適用ノ部ニ「右被告人共ノ所爲ハ各刑法第二百十條第一項第二百十二條ニ該當シ尙被告人傳吉清松ハ正犯ナルヲ以テ第四百四條被告人繁五郎ハ從犯ナルヲ以テ同法第九條ヲ適用シ處斷スヘク云々」トアリ次テ「又原判決(第一審判決ヲ云フ)カ被告人繁五郎ニ對スル私書偽造行使事件ニ付刑法第二百八條第二項ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ナリト雖トモ是亦被告人繁五郎ノミノ控訴ニ係ルヲ以テ刑事訴訟法第二百六十五條ノ規定ニ依リ刑法第二百八條第二項ノ刑ヨリ重キ刑ニ處スルヲ得スト」ト列示セラレテ繁五郎ニ對スル擬律ハ前段ニハ刑法第二百十條第一項ニ據リ處斷スト云々其後段ニハ同第二百八條第二項ノ刑ヨリ重キ刑ニ處スルヲ得スト云フニ歸シ果シテ何レノ條ノ刑ヲ適用セラレタルヤ理由ノ

適從スヘキナクシテ理由ノ不備アリ否ヲサレハ理由ノ齟齬アル判決ナリト云フヲ得ヘシ假リニ第二百八條第二項ヲ舊ニ依リ適用セラレタルモノト解スレハ疑律ノ錯誤アル裁判タルヲ免カレスト云フニアレトモ○原院カ第一審判決ハ疑律ニ錯誤アルモ被告人ノミノ控訴ニ係ルヲ以テ刑事訴訟法第二百六十五條ノ規定ニ從ヒ刑法第二百八條第二項ノ刑ヨリ重キ刑ニ處スルヲ得スト判示シタルハ原院カ刑法第二百十條第一項ヲ適用シ被告繁五郎ニ科スヘシト認メタル刑ヨリハ第一審カ言渡シタル刑輕キニ依リ之ヲ被告ノ不利益ニ變更セストノ判旨ナリトス故ニ原判決ハ理由ニ不備且齟齬又ハ疑律ニ錯誤アルコトナシ因テ上告論旨ハ其理由ナシ同第ニ點刑事訴訟法第二百八條ニ公判始末書ニ記載スヘキ事項ヲ規定セラレ其第四號ニ證據物件トアリ是ハ被告事件ニ付證據ヲ一個毎ニ各別ニ明記スヘキ精神ナリト信ス蓋シ法廷ニ願ハレサル證據ヲ斷罪ノ料ニ援引スルニ至ルカ如キ錯誤ヲ防止スルチ目的トシタル規定ナルヘキニ外ナラサレハナリ然ルニ原院公判始末書ヲ視ルニ證據取調ニ關スル記載ハ問證據物一切ヲ示シタリ三名答ナシトアルノミニテ如何ナル證據ヲ示サレタルヤ之ヲ知ルニ由ナシ是ハ刑事訴訟法第二百八條ノ規定ニ違背シタルモノナリト云フニアレトモ○原院公判始末書中證據物一切ヲ被告等ニ示シ辯解セシメタル事蹟アルコトハ上告論旨ノ如クナレハ公廷ニ願ハレサル證據ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタルモノト云フヲ得ス而シテ證據物件ハ如キハ之ヲ惣括シテ被告ニ示シ辯解セシムルモ違法ニアラサルヲ以テ上告論旨ハ其理由ナシ同第三點原判決ノ中部ニハ傳作清松等ハ定七ヨリ立會精算要求義務確認ノ訴ヲ提起セラレタルヨリ之ニ對抗センカ爲

メ販賣委託證書ヲ偽造シ以テ定七ニ對シ石油委託販賣ニ關スル精算請求ノ訴訟ヲ起シ口頭辯論ノ際該偽造證書ヲ係列事ニ提出セシメタリト記載セリ元來被告人等ハ證書ヲ偽造シタルコトナシ假リニ數百歩ヲ讓リ原院認定ノ如ク偽造シタリトナスモ如何ナル場合ニ偽造證書ヲ行使シタルヤ不明確ニシテ結局理由ニ齟齬アル裁判ナリト云フニアレトモ○原判決ニ依レハ被告ハ本件ノ證書ヲ偽造シ志賀定七ニ係リ石油委託販賣ニ關スル精算請求ノ訴訟ヲ新潟地方裁判所長岡支部ニ提起シ明治二十七年十一月八日同支部ニ於テ口頭辯論ノ際辯護士ヲシテ該偽造證書ヲ石油販賣ノ委託ヲ受ケタル證據ト爲シ係リ判事ニ提出シタルモノナリト判示シアレハ該證書ヲ裁判所ニ提出シタルトキヲ以テ偽造證書ノ行使ト認メアルヤ明カナリ其他ノ論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル事實認定ノ批難ニ外ナラサルヲ以テ惣テ上告道法ノ理由ナシ以上ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス明治三十年四月二十三日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢察事安居修藏立會宣告ス

○官文書偽造行使及詐欺取財未遂ノ件

明治三十年第三一五號
明治三十年四月二十三日宣告

○判決要旨

送達狀ノ偽造行使○豫審判事ノ臨時代理○官署備付ノ偽造文書

送達狀ノ偽造行使○豫審判事ノ臨時代理○官署備付ノ偽造文書

四十四

(判旨第一點) 送達狀ニ執達吏ノ資格ヲ以テ記載スヘキ總テノ記入ヲ爲シ且受取人ノ氏名ヲ偽署シ恰モ正當ニ送達ヲ爲シタルモノ、如ク假裝シ之ヲ區裁判所ニ還納シタル所爲ハ官文書偽造行使罪ヲ構成ス

(參照) 官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス(刑法第二百三條第一項)

(判旨第五點) 裁判所及ヒ檢事局事務章程第十六條ニ依リ他ノ區裁判所ニ出張ヲ命セラレタル判事ハ同法第十五條ノ規定ニ遵ヒ豫審判事ノ代理ヲ命セラレタルモノトス而シテ其判事ハ裁判所構成法第二十一條ニ依リ司法大臣ヨリ命セラレタル豫審判事ト同一ノ職權ヲ有ス

(參照) 司法大臣ハ毎年各地方裁判所ノ判事一人若クハ二人以上ニ其裁判所ノ裁判權

ニ屬スル刑事ノ豫審ヲ爲スコトヲ命ス(裁判所構成法第二十一條)

(判旨第六點) 偽造文書ハ法律ニ於テ禁制シタル物件ナルヲ以テ官署ニ備付アルモノト雖モ當然之ヲ沒收ス

第一審 仙臺地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 大槻清三郎 坂本喜四郎 永井幸内
辯護人 高木益太郎 鈴木充美

右被告三名カ官文書偽造行使及ヒ清四郎カ詐欺取財未遂被告事件ニ付明治三十年三月十三日

宮城控訴院ニ於テ仙臺地方裁判所ノ判決ニ對スル被告人ノ控訴ヲ審判シ本件控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタル第二審ノ判決ニ服セス被告三名ヨリ上告ヲ爲シタルニ付刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ被告清四郎辯護人高木益太郎被告清四郎幸内辯護人鈴木充美ノ辯論及ヒ立會檢事岩野新平ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

被告清四郎カ上告ノ要旨ハ第一原判決ハ被告三名共謀シ送達狀三通ヲ偽造行使シタルモノト爲シタリ假ニ原院ノ認ムル原實トスルモ決シテ官文書偽造罪ヲ構成スルモノニ非ス何トナレハ送達狀中ニ受取人ノ氏名ヲ記入シ之ニ捺印セシムルハ官ノ文書ノ送達ヲ受ケタル一ノ證據ニ過キサレハ之ヲ以テ直チニ官文書偽造ト云フヲ得サルナリ刑法第二百三條ハ官ノ文書其物ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル所爲ヲ罰スル法條ニシテ本件ノ如キ官文書ノ送達ヲ受ケタル證據ヲ記載セン所爲ヲ罰スヘキモノニ非サルニ同條ヲ適用シタルハ疑律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○送達狀ハ執達吏ニ於テ其送達シタル場所年月日時等ヲ記載シ受取人ヲシテ記名捺印セシムヘキモノニシテ被告人等ハ送達狀中官吏ノ資格ヲ以テ記載スヘキ送達ノ場所日時及ヒ送達ノ手數料旅費等處爲ノ事項ヲ記入シ且受取人ノ氏名ヲ偽署シ以テ正當ニ送達ヲ爲シタルモノハ如ク裝ヒ之ヲ區裁判所ニ還納シタルモノナレハ其官文書偽造行使罪ヲ構成スルヲ論テ俟タス第二原判文ニ豫納又ハ立替金ノ支拂ヲ爲シタルコトナキ執達吏ノ送達手數料及旅費共合計金一圓十三錢ツ、ナ他ノ費用ト共ニ記載シ云々被告清四郎ハ右合金三圓三十四錢ヲ騙取セントシテ遂ケサリシモノトスト判決セラレタレトモ被告人方是等ノ費用ヲ已ニ豫

送達狀ノ偽造行使○豫審判事ノ臨時代理○官署備付ノ偽造文書

四十五

判旨第一點

納セシコトハ第一審以來陳述セシ所ナルニ詐欺取財未遂ノ罪アリトシタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○裁判官ノ職權ニ屬スル事實認定ヲ非難スルニ過キスシテ適法ノ理由ナシ被告喜三郎カ上告旨趣ハ被告清四郎ノ上告第一ト同一ナルヲ以テ別ニ説明ヲ與ヘス被告幸内カ上告ノ旨要ハ原判決ノ認ムル事實ニ依レハ被告ハ送達狀三通ト執達吏代理トシテ管掌スル官簿ヲ偽造行使シタリト云フニアルモ送達狀ハ已ニ官ヨリ發セラレタルモノ又官簿ハ執達吏役場ニ於テ調製シタルモノナレハ被告カ之ヲ偽造シタリト云フヲ得ス然ルニ原院ハ此事實ヲ以テ官文書偽造罪ト爲シタルハ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○送達狀偽造ノ點ハ清四郎ノ上告ト同一ナルヲ以テ重子テ説明ヲ與ヘス又執達吏ノ官簿中ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタルモノナレハ其記載ノ部分ヲ以テ官文書偽造ノ所爲ト認メタルハ當然ナリ高木辯護士カ上告辯明書ノ要旨ハ第一豫審判事被告人ヲ訊問スルニヨリ事ヲ構ヘテ暗ニ答辯ヲ誘致スルヲ得サルハ法律上ノ定則ナルノミナラス刑事訴訟法第九十四條ノ法意ニ徴シ疑フヘカラサルモノナリ本件被告大泉武一郎ノ豫審調書中豫審判事問其方ハ管原新作カラ千葉外之吉ニ對スル訴訟事件ニ付訴訟費用トシテ大概ハ清四郎ヨリ金一圓ノ分配ヲ受ケタリヤ答一圓ノ分配受ケタルコト一向覺ヘアリマセン問其事ハ清四郎ノ出納簿ニ記載シアルカ夫レテモ其方ハ覺ヘナシト云フヤ云々トアルモ元來清四郎ノ出納簿中右等ノ記載ナキノミナラス右調書完成後豫審判事ハ此一圓分配ニ關スル訊問ハ予ノ出納簿ヲ誤讀シタルニ基ク云々ト記載シタル書類アルニ依ルモ明白ナリ左スレハ同人ノ調書ハ不當ノ訊問ニ基キ成立シタルモノナル

ナリト云フニ在レトモ○大泉武一郎ノ豫審調書中判事ノ附録ニ此一圓分配ニ關スル訊問ハ予ノ出納簿ヲ誤讀シタルニ基キタル者ナルヲ以テ被告カ利益ノ爲メ其事由ヲ附記ストアリテ其訊問ハ判事ノ失誤ニ止リ被告ヲシテ罪ヲ自白セシムル爲メ故意ヲ以テ恐嚇又ハ詐言ヲ用ヒタルニ非サルヲ明瞭ナレハ其調書ハ毫モ法律ニ違背シタルモノニ非スシテ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ相當ナリ第二裁判所構成法第二十一條ニ依リ司法大臣ヨリ豫審掛ヲ命セラレタル判事ニ非サレハ豫審處分ヲ爲スヲ得ス而シテ本件ノ被告ヲ古川支部豫審廷ニ於テ取調ヘタル判事ハ仙臺區裁判所判事佐藤博愛氏ニシテ同氏ハ豫審ヲナスノ職權ナキ者ナレハ其作成ニ係ル訊問調書ハ法律上無効ノモノト謂ハサルヲ得ス然ルニ原判決カ之ヲ採テ有罪ノ判斷ヲ下シタルハ不法ナリ論者或ハ構成法第二百二十五條ニ基キ司法大臣ノ定メタル裁判所及ヒ檢事局事務章程第十五條ニ依リ地方裁判所長ヨリ代理ヲ命セラレタル判事ハ即チ豫審判事ノ職權アルモノナレハ其訊問調書ハ無効ニアラスト云フモ構成法第二百二十五條ハ司法大臣ニ如此條項ヲ定ムル職權ヲ認メタルモノニ非サルノミナラス右規定ハ固ヨリ一般人民ニ公布シタルモノニ非サレハ事務章程ニ依リ構成法ノ規定ヲ動カスヘキモノニアラス況ンヤ右章程ニ依ルモ古川支部ノ豫審掛代理ニ仙臺區裁判所判事ヲ任用スルノ明文ナキニ於テオヤト云フニ在レトモ○裁判所及ヒ檢事局事務章程第十五條ニ豫審判事差支アルトキハ地方裁判所長ハ其裁判所及ヒ支部ヲ置ク區裁判所ハ判事中心ヨリ臨時其代理ヲ命スルコトヲ得トアリ第十六條ニ區裁判所ハ判

判事第五點

送達狀ノ偽造行使○豫審判事ノ臨時代理○官署備付ノ偽造文書

事差支アリテ其裁判所ニ代理ヲ爲スヘキ者ナキトキハ地方裁判所長ハ裁判所構成法第十三條第一項ニ依リ前以テ定メタル代理順序ニ從ヒ他ノ區裁判所ノ判事又ハ豫審判事ニ出張ヲ命スヘシトアリテ本件ノ豫審處分ヲ爲シタル仙臺區裁判所判事佐藤博愛ハ該十六條ニ依リ古川區裁判所へ出張ヲ命セラレ其出張中第十五條ニ依リ臨時古川支部豫審判事代理ヲ命セラレタルモハト認メ得ヘカ而シテ裁判所事務章程ハ裁判所構成法第二百五條ハ明文ニ依リ司法大臣ハ定メタル所ニシテ其章程ニ依リ裁判所長カ臨時豫審判事代理ヲ命シタルハ即チ司法大臣ハ命シタルモノナレハ構成法第二十一條ニ依リ命セラレタル豫審判事ト同一ノ職權アルモノハハヤ論ヲ俟タズ故ニ本件ノ豫審處分ハ毫モ違法ノ點ナキモノトス第三官衙ニ備付アル官文書ハ假令偽造變造ノ廉アルモノ之ヲ沒收スヘキモノニアラス然ルニ原裁判所カ裁判所ニ備付ノ送達狀ノ沒收ヲ宣告シタルハ違法ナリ又區裁判所書記ノ發シタル送達狀ハ其全部ヲ被告カ偽造シタルニ非スシテ只送達ノ年月日場所ノ欄ト受取人及送達者署名捺印ノ欄トヲ偽造シタルニ過キサレハ送達狀全部ヲ沒收シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○偽造ハ文書ハ法律ニ於テ禁制シタル物件ナレハ官署ニ備付ハ文書ト雖モ之ヲ沒收スルハ當然ナリ又送達狀ハ其送達ノ手續ヲ終了スルニ因リ文書ノ効用ヲ完成スルモノニシテ被告等ハ其送達ノ日時場所及ヒ受取人送達者ノ署名等即チ文書ノ効用ヲ完成スル必要ノ部分ヲ偽造シタルモノナレハ送達狀ヲ偽造シタルモノトシ其全部ヲ沒收シタルハ相當ノ裁判ナリ第四原判決ハ偽造ノ送達狀ヲ區裁判所ニ還納シタル時日ヲ確定セス即チ偽造文書行使ノ時ヲ明示セサルハ理由不備ノ裁判ナリト

判旨第六點

云ニ在レトモ○原判文ニ送達狀偽造ノ年月日ヲ掲載シ而シテ其後日不詳之ヲ區裁判所ニ還納シトアリテ其還納ハ偽造ノ後數日間ニ在リタルヤ明瞭ナレハ行使ノ日ヲ明示セスト云フコトヲ得ス第五刑法第二百三條ヲ當行センニハ官吏タルノ資格ヲ表示シテ文書ヲ調成シタル事實アルヲ要ス而シテ原判文第一ノ送達狀偽造ノ事實ヲ見ルニ欄内末尾ニ横澤清嘉代理トシテ自己ノ署名捺印ヲ爲シトノミアリテ古川區裁判所執達吏ト記載シタル十否ヲ確定シアラス若シ區裁判所執達吏ノ肩書ナキトキハ官吏ノ資格ヲ表示セサルモノナレハ職スク官文書偽造ト云フ能ハサルモノニシテ理由不備ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原判文ニ支拂命令送達狀ト其支拂命令正本トヲ當時古川區裁判所執達吏横澤清嘉代理トシテ送達事務ヲ管掌セル被告人幸内ニ於テ受領シ云々欄内末尾ニ横澤清嘉代理トシテ自己ノ署名捺印ヲ爲シ云々トアリテ其前段文旨ニ依レハ送達狀ニ執達吏ノ官名ヲ記載シタルコトヲ推知シ得ヘキモノナレハ判文上之ヲ詳記セサルモ理由不備ト爲ストヲ得ス第六上告人等ハ送達狀ニ手数料旅費等ノ金額ヲ記載セ之ヲ債務者ニ送達シタルモノ、如ク裝ヒ裁判所ニ還納シタルモノナリ而シテ債務者ハ裁判上ノ文書ヲ債務者ニ送達スルニ付執達吏ニ支拂ヒタル手数料等ノ償却ヲ要ムル權利アルモノナレハ本件ノ如ク執達吏ト共謀シテ送達狀ヲ偽造シテ之ヲ裁判所ニ納付シ其後右等ノ費用ニ付訴訟費用確定決定ヲ申請シ債務者ノ不動産競落シ代金配當ノ際右費用ノ配當ヲ要求シタル事實アルニ依レハ即チ官文書偽造ニ因ル詐欺取財ノ所爲ト云ハサルヘカラス果シテ然ラハ上告人カ金三圓三十四錢賜取未遂ノ所爲ハ刑法第三百九十條第二項ヲ適用スヘク同第百條ヲ適

用スヘカラサルモノナルニ原判決ハ此點ニ付相當ノ審理ヲ盡サトリシハ違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原判文ニ依レハ被告等カ送達狀ヲ偽造行使シタルハ債權者菅原新作ノ爲メニ債務者千葉外之吉所有ノ不動産ニ對シ強制執行ヲ爲サントスルノ目的ニ出タルモノニシテ被告等カ金圓騙取ノ目的ニ出タルニ非ス而シテ其文書偽造行使ノ後執達吏ノ手数料旅費等ノ金額ヲ騙取セントシタルモノナレハ其詐欺取財未遂罪ハ官文書偽造行使罪ト直接ノ關係ナシト認めタルニヨリ刑法第三百九十條第二項ヲ適用セザリシハ相當ニシテ違法ノ點ナシ第七證人ハ各被告事件コトニ宣誓スルヲ要ス而シテ原判決ニ掲ケアル證人相澤勇助等數名ノ豫審調書ニ依レハ本案官文書偽造詐欺取財事件ニ付キ宣誓シタルモノニ非サルヲ明瞭ナルヲ以テ本件ニ付證言ノ効ナキモノナルニ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○本件ハ檢事ヨリ私文書偽造行使罪トシテ起訴セラレ豫審判事カ取調ノ末官文書偽造及ヒ詐欺取財未遂罪ナルコトヲ認めタルモノニシテ其事件同一ナルヲ以テ右證人ノ宣誓書ニ私書偽造被告事件トアルハ即チ本件ニ付宣誓シタルモノニシテ其證言ノ効ナシト云フコトヲ得ス故ニ其調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ相當ナリ第八本件豫審終結決定書ハ相當官吏ノ契印ヲ缺キタル事跡アリテ法律上無効ノ文書タルヲ免カレス左スレハ其決定アリタル事實ヲ認めムヘカラサルモノナルヲ以テ第一審以來上告人ニ對シ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○豫審終結決定ニ依リ異議ナク既ニ公判ニ着手シタルトキハ其決定ハ形式上確定シタルモノナルヲ以テ今日ニ至リ其決定書ノ無効タルヘキコトヲ理由トシテ原判決ヲ違法ナリトスルヲ得

サルモノトス第九第一審公判始末書ノ末尾ニ被告清四郎ヲ重禁錮二年監視六月ニ處シ云々ノ判決ヲ言渡シトアルモ沒收ノ言渡アリタルコトヲ明記セサルヲ以テ見レハ其刑ヲ言渡サトリシモノナリ如此取理アルニ拘ハラヌ原院カ之ヲ認可シ控訴ヲ棄却シタルハ違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○第一審公判始末書ノ終尾ニ裁判長ハ判決ヲ言渡ス旨ヲ告ケ別紙判決書全部ヲ朗讀シタル云々ノ判決ヲ言渡ストアリテ既ニ判決書全部ヲ朗讀シタル上ハ沒收ノ刑ヲモ言渡シタルヲ明瞭ニシテ取理アルモノト云フコトヲ得サルナリ
右ノ理由ナルヲ以テ刑訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治三十年四月二十三日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○誣告教唆ノ件

明治三十年第三二二二號
明治三十年四月二十三日宣告

○判決要旨

誣告罪ハ告訴人ノ外他ニ實行正犯アルコトナシ而シテ告訴人ト共謀シ告訴狀ノ作成ニ加功シタル所爲ハ從犯ナリ

誣告罪ノ正犯

(參照) 二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス(刑法第百四條)
 重罪輕罪ヲ犯スコトヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯
 ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯ト爲シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス但正犯現ニ行
 フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キ時ハ止タ其知ル所ノ罪ニ照シ一等ヲ減ス(刑法第
 第一審 安濃津地方裁判所上野支部 第二審 名古屋控訴院

被告人 山本市兵衛 辯護人 高木益太郎

右誣告教唆被告事件ニ付明治三十年三月二十日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被
 告ヨリ上告ヲ爲シタルニ付刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
 上告趣意第一點ハ被告ハ原判文ニ表示スル如キ立木代金二拾五圓ヲ取戻サン行爲ヲ案出シタ
 ルコトナク又加功シタルコトナク唯告訴狀ヲ作成スルコトヲ受任シ事實ヲ尋子委任者ノ演述
 ヲ聽取リテ作成シタルモノナリ然ルニ原院カ被告ヲ共犯ト認定シタルハ不法ナリト云フニ在
 リ○然レトモ右ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサルヲ以テ上告理由トナ
 スヲ得ス同第二點ハ原判決ハ被告ヲ誣告教唆者ナリトセシ第一審判決ヲ取消シ刑法第百四條
 ナ適用シタルハ不法ナリト云フニ在リテ○此論旨ハ適法ノ理由アルモノトス何トナレハ誣告
 罪ハ如キハ告訴者本人ハ外他ニ實行正犯者アルヘキモノハ非ス原院ハ認ムル所ニ依レハ被告
 ハ澤森久四郎ト不實ハ告訴ヲ爲サント共謀シタルモ唯其告訴狀ヲ認メタルハミニシテ告訴本
 人ハ久四郎一人ナルヲ以テ則チ被告ハ所爲ハ刑法第九條ニ所謂重罪輕罪ヲ犯スコトヲ知テ

云々豫備ハ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシムル者ニ該當シ同法第百四條ニ謂フ
 所ハ二人以上現ニ罪ヲ犯シタルモノト謂フヲ得サレハナリ依テ原判決ハ疑律錯誤ノ不法アル
 ナ免レス上告趣意擴張書第一點ハ原判決ニ押收書類ノ内犯罪ノ用ニ供シタル山林及立木賣渡
 證書二通ハ沒收ストアルモ本件ノ如キ被告ハ山本市兵衛澤森久四郎兩名ナルニ於テハ沒收シ
 タル證書ハ被告兩名ノ内何レノ所有ニ屬スルカヲ明示セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○
 被告兩名共ニ犯人タル以上ハ其何レニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス可キモノナルヲ以テ其何レ
 ニ屬スルヤノ如キハ判文上之ヲ明示スルノ要ナキモノトス同第二點ハ原判決理由ノ冒頭ニ被
 告久四郎ハ云々立木代金ヲ取戻サンコトヲ企テ被告兩名共謀トアルモ其被告兩名ハ何ノ誰ヲ
 指シタルヤ其理由不備ナリト云フニ在レトモ○右兩名トハ久四郎及市兵衛ノ兩人ナルコト原
 判文ニ明示スル所ナリ同第三點ハ原院ノ認メタル事實アリトスルモ右ノ正犯トシテ論ス可キ
 モノニ非スト云フニ在テ○上告論旨第二點ト同一ニ歸スルヲ以テ重テ説明ヲ與フル要ナシ同
 第四點ハ山林及立木賣渡證書ヲ沒收スルニ於テハ告訴狀モ亦沒收スヘキモノナリト云フニ
 在リテ○即チ沒收セサルヲ不法ナリト云フニ歸シ被告ノ不利益ニ屬ス可キ論旨ナルヲ以テ被
 告ノ上告理由トナスヲ得ス同第五點ハ教唆者ト云ヒ從犯ト云フモ均ク共犯ナリ然ルニ原判決
 ニハ被告市兵衛ノ所爲ハ久四郎ノ共犯ナルニ事實ヲ誤認シ教唆者ニ間擬シタルハ失當トアリ
 テ教唆者ハ共犯ニ非スト論決シタルハ不法ナリト云フニ在リ○依テ案スルニ右共犯ナルニト
 アルハ文字上穩當ナラスト雖トモ其旨趣タルヤ實行正犯ナルニト云フニ在ルコト毫モ疑ヲ容

ルヘキナキヲ以テ爲メニ原判決ノ瑕瑾トナルニ足ラス
 辯護人高木益太郎上告趣意第一點ハ被告ノ上告趣意第二點及擴張第三點ト同一ニ歸スルヲ以
 テ重テ説明ヲ與ヘス同第二點ハ原判決文ニ「以上ノ事實ハ云々告訴狀ニ徴シ證據十分ナリトス
 トアリテ單ニ告訴狀ト云フトキハ本件被害者ノ告訴狀ヲ指シタルモノト解セサルヲ得ス然ル
 ニ本件ニ付被害者ノ告訴狀ナルモノ存在セス故ニ原判決ハ架空ノ證據ニ因テ裁判ヲ下シタル
 不法アルモノナリ若シ亦澤森久四郎ヨリ山本忠太郎外二名ニ對スル詐欺取財事件ノ告訴狀ヲ
 指シタルモノトセンカ宜シク其旨ヲ明示スヘキ筋合ナリ然ルニ原判決ノ爰ニ出テサリシハ證
 憑ノ明示ヲ闕ク裁判ナリト云フニ在レトモ○本件ニ付キ單ニ澤森久四郎ノ告訴狀アル以上ハ
 判文ニ謂フ所ノ告訴狀トハ則チ久四郎ノ告訴狀ナルコト明白ナルヲ以テ上告論旨ノ如キ不法
 ナシ依テ被告ノ上告論旨第二點同擴張論旨第三點及辯護人ノ擴張論旨第一點ハ適法ノ理由
 アルモ其他ノ論旨ハ總テ理由ナキモノトス
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條同第二百八十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ本院
 ニ於テ判決スルコト左ノ如シ

右

山本市兵衛

原院ノ認メタル事實ハ刑法第三百五十五條同第二百二十條第二號及第九條ニ該當スルヲ以
 テ右市兵衛ヲ重禁錮六月ニ處シ罰金五圓ヲ附加ス

書類ノ沒收及ヒ運付ハ原判決ノ通

明治三十年四月二十三日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○私印盜用私書偽造行使詐欺取財ノ件

明治三十年第三三〇號
明治三十年四月二十七日宣告

○判決要旨

金員騙取ノ目的ヲ以テ偽造證書ニ基キ訴訟ヲ提起シタル以上ハ詐欺取財ニ着
 手シタルモノトス而シテ被害者ノ錯誤ニ陥リタルヤ否ハ其目的ノ既遂未遂ニ
 關係ヲ有スルモ着手ナルヤ否ノ問題ニ關係ヲ有スルコトナシ

第一審 岡山地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 湯淺儀平 辯護人 花井卓藏

右私印盜用私書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治三十年三月二十七日大阪控訴院ニ於テ首
 渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ付刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判

偽造證書ノ訴訟

決スルコト左ノ如シ

上告趣意第一點ハ原院ノ認定ニ依レハ被告ハ偽造證書面ノ金額ヲ津山區裁判所ニ請求シタル所被害者ニ於テ告訴ヲ爲シ之カ爲メ騙取ノ目的ヲ遂ケ得サリシモノナリ左レハ被告ハ詐欺取財ノ着手前即チ被害者ヲシテ承諾ヲ却テ可キ性質ノ錯誤ニ陥ラシムルニ至ラスシテ犯人意外ノ障礙ニ依リ金員騙取ノ目的ヲ遂ケ得サリシモノナルヲ以テ法理上未遂犯罪ヲ構成ス可キモノニ非スシテ證書偽造ノ結果タルニ過キス故ニ原院カ該事實ニ對シ詐欺取財未遂ノ法條ヲ適用シタルハ不法ナリト云フニ在リ○然レトモ金員騙取ノ目的ヲ以テ偽造證書ヲ使用シ訴訟ヲ提起シタル以上ハ則チ詐欺取財ノ着手アリタルモノハニシテ被害者カ錯誤ニ陥リタルト否トハ全ク目的ハ既遂未遂ニ關スルモ之カ着手ナルヲ否ヤニ付テハ何等ハ關係ナキヲ以テ原院ハ認メタル事實ニ對シ詐欺取財未遂ハ法條ヲ適用シタルハ相當ナリトス○同第二點ハ原院ハ被告ノ第二ノ所爲ヲ詐欺取財未遂トナシ之ニ刑法第三百九十七條第一項同第三百九十七條第一百十二條ヲ適用シタルモ尙ホ第三百十三條第二項ヲ適用セサリシハ疑律錯誤ノ不法アルモノナリ夫レ輕罪ノ未遂ハ罰セサルヲ原則トス故ニ刑法第三百十三條第二項ニ於テ輕罪ヲ犯サントシテ未遂ケサルモノハ本條別ニ記載スルニ非サレハ前條ノ例ニ照ラシテ處斷スルコトヲ得ストアリ而シテ詐欺取財未遂ハ第三百九十七條アリテ始メテ第三百十二條ノ例ニヨリテ處斷セラレ第三百九十七條ハ第三百十三條第二項ヲ待テ存立スルモノナリ然ラハ則チ原院決カ第三百十三條第二項ヲ適用セサリシハ不法ナリト云フニ在レトモ○第三百十二條ハ總テノ未遂犯罪ヲ罰ス可キ規

定ニシテ第三百十三條第二項ハ輕罪ニ付テハ本條別ニ記載アルニ非サレハ罰セストノ例外ニ屬ス故ニ第三百十三條第二項ハ輕罪ノ未遂ニシテ之ヲ罰セサル場合ニ適用ス可キモノナルモ本件ノ如キ之ヲ罰ス可キ場合ニ在テハ第三百十二條第三百九十七條ノミチ適用ス可キモノナルヲ以テ原院カ第三百十三條第二項ヲ適用セサリシハ相當ナリトス○同第三點ハ原院決ハ證據ヲ明示セサル不法アリ何トナレハ原院文ニハ押收ノ第一號乃至第五號書類ニ徴シ云々トアルモ第一號乃至第五號書類トハ果シテ何物ヲ差シタルヤ門外漢ニ在テハ之ヲ知ルニ由ナケレハナリト云フニ在レトモ○押收書類ハ一件記録ニ明示スル所ニシテ豫審以來被告ニ於テ取調ヲ受ケタルモノナルヲ以テ既ニ其號數ヲ明示スル以上ハ訴訟當事者ニ在テハ當然之ヲ知り得ヘキモノナレハ原院決ハ之カ爲メ證據ノ明示ナキモノト謂フヲ得ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十年四月二十七日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○竊盜ノ件

明治三十年第三三六號
明治三十年四月二十九日宣告

○判決要旨

判決書ニ被告人ハ禁錮監視ノ刑ニ處セラレタルニ拘ラス仍ホ改心セスト揭ケタルハ前科ヲ示シタル意義ニシテ被告人ノ品行ヲ材料トシテ有罪ヲ推測シタル語辭ニアラス

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 前鬼多美彌 辯護人 花井卓藏

明治三十年三月三十日東京控訴院ニ於テ右多美彌カ竊盜被告事件ノ控訴ヲ審理シ被告ノ控訴ハ其理由之レナキニ付棄却スト言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ被告カ上告趣意ハ原院ハ被告カ竊盜ヲ爲サル事實ニ對シ有罪ノ判決ヲ與ヘラレタルハ違法ノ判決ト思料スト云フニ在リテ○原承審官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ外ナラスシテ適法上告ノ理由トナラス

辯護人花井卓藏カ上告趣意擴張第一點ハ原院ハ本件ニ付被告人ヲ有罪トスルノ理由トシテ被告多美彌ハ云々重禁錮三年監視六月ニ處セラレタルニモ拘ハラス尙ホ改心セス云々ノ事實ヲ表明セリ然レトモ事實承審官ハ犯罪事項以外ニ被告人ノ品行ヲ材料トシテ有罪ヲ推測スルノ

機能ヲ有セス而シテ改心シタルヤ否ハ全ク品行ノ問題ニシテ係争事實ニ對シ何等ノ關係アルニトナシ而シテ品行ノ善惡ヲ以テ犯罪ノ成否ヲ推測スルハ證據法ノ定則ニ背戾セリト云フニ在レトモ○原判文ヲ通讀スルニ被告人ノ品行奈何ヲ材料トシテ有罪ハ推測ヲ下シタルモハト認ムヘキ點ナク其冒頭ニ被告多美彌ハ云々重禁錮三年監視六月ニ處セラレタルニモ拘ハラス尙ホ改心セストアルハ單ニ被告カ前科アリシコトヲ示シタル意義ニ外ナラサルモノトス因テ本論旨モ上告ノ理由ナシ

同第二點ハ本件ニ付被告辯護人ハ利益トナルヘキ證據ノ申請ヲナシ贓品選付簿並ニ假下品ノ取寄ヲ請求シタリ然ルニ原院ニ於テ之ヲ採用セサルハ不法ナリ而シテ原院ハ此請求ヲ以テ不必要ナリトシテ棄却シタルモノナレトモ同條ノ法意ハ全然其提出ヲ許スニアリテ決定ヲ以テ其必要ト否トヲ判斷シ然ル後之ヲ許スルノ主趣ニアラス刑事訴訟法中一モ反證提出ノ場合ニ於テ先ツ其要否ヲ決定スヘシトノ法條アルコトナシ果シテ然レハ原院ノ處措ハ此點ニ於テ法則ヲ適用セサル不法ニ陷ルヘシト云フニ在レトモ○證據物件取寄セノ請求ヲ聽許スルト否トハ原裁判官ノ權内ニ在ルモノニ付其請求ヲ聽許セサルモ違法ナリト云フヲ得ス右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本案上告ハ之ヲ棄却ス明治三十年四月二十九日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○私書偽造行使詐欺取財ノ件

明治三十年第三七六號
明治三十年四月三十日宣告

○判決要旨

同一ノ偽造證書ヲ前後數回ニ行使シタル場合ニアリテハ其犯罪ハ繼續スルヲ以テ最終ニ於ケル行使ノ日ヨリ公訴時効ヲ起算スヘキモノトス

第一審 秋田地方裁判所

第二審 宮城控訴院

被告人 進藤伊兵衛

明治三十年四月一日宮城控訴院ニ於テ右伊兵衛ニ對スル私書偽造行使詐欺取財被告事件ノ控訴審理中被告人ヨリ公訴不受理ノ申立ヲ爲シタルニ對シ本訴公訴受理スヘカラサルノ申立ハ之ヲ却下スト旨渡タル判決ヲ不當トシ被告人ハ上告ヲ爲シ原院檢察長古莊一雄ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スル左ノ如シ
上告趣意書ノ要旨ハ被告カ本件偽造證書ヲ初メテ民事認廷ニ提出シタルハ明治二十六年五月二日ナレハ犯罪ハ當時已ニ成立シタルモノナルヲ以テ其後重テ之ヲ提出シタルコトアルモ已ニ成立シタル犯罪ノ結果ニ外ナラサルハ猶ホ贓物寄藏ノ罪ハ寄藏ノ當時已ニ成立シ其後之ヲ保存スルハ寄藏罪ノ結果ト爲スト同一ナリ然ルニ原院ニ於テ該偽造證書ヲ提出シタル最後ノ

日ヨリ公訴時効ヲ起算シ從テ本件ハ未タ公訴時効ニ係ラサルモノト判決シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○本件ハ如ク前後數回ニ同一ノ偽造證書ヲ裁判所ニ提出シ都度之ヲ行使シタル場合ニ在テハ其犯罪ハ繼續スルモノナルヲ以テ其最後行使ノ日ヨリ公訴時効ヲ起算スヘキハ當然ニシテ贓物寄藏罪ノ如ク一度寄藏ノ所爲ヲ行ヒ其後何等ノ所爲ヲ爲サハルモノト同視スヘカラサルハ論ヲ俟タス故ニ原院ニ於テ被告カ最後ニ偽造證書ヲ行使シタル日ヨリ公訴時効ヲ起算シ從テ公訴不受理ノ申立ヲ却下シタルハ相當ニシテ上告ハ其理由ナキモノトス
以上ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治三十年四月三十日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

大審院刑事判決錄

大審院刑事判決錄

第三輯 第五卷

○詐欺取財及不動産冒認販賣ノ件

明治三十年第三四六號
明治三十年五月三日宣告

○判決要旨

事實上他人ノ所有ニ屬スル動産不動産ヲ冒認シテ販賣シタル所爲ハ冒認販賣罪ヲ構成ス而シテ公簿上ノ所有名義ニ拘泥スルコトナシ

第一審 長野地方裁判所松本支部 第二審 東京控訴院
被告人 山田利太郎

右利太郎ニ對スル詐欺取財不動産冒認販賣被告事件ニ付明治三十年三月十九日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ服セス同院檢事長野村維章ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ

冒認販賣罪ノ成立

冒認販賣罪ノ成立

二

検事長野村維章上告趣意ハ我刑法第三百九十三條カ動産不動産ノ冒認販賣ヲ犯罪ト宣言シテ
 之ヲ處罰スルハ冒認者ニ他人ノ利益ヲ害スルノ意思アリ而シテ現實他人ノ利益カ傷害サル
 ニ因ル又民法上各人カ有効ニ他人ノ名義ニ依リ動産又ハ不動産ヲ所有シ得ルコトハ明白ナリ
 當控訴院ハ丸山福市カ被告利太郎ノ名義ニ依リ本案木造瓦葺二階造居室一棟ヲ所有スルコト
 ナ認メ尙被告利太郎カ福市ノ承諾ヲ得スシテ該不動産ヲ西澤利兵衛ニ販賣シタルコトヲ認メ
 タルニモ拘ハラヌ被告ノ所爲カ犯罪ヲ構成セストシテ之ニ對シ無罪ヲ言渡シタルハ不法ノ裁
 判ナリトス何トナレハ被告利太郎ニ他人ノ利益ヲ害スルノ意思アリシコト及福市若クハ利兵
 衛ノ利益カ現實傷害サルコトハ右認定サレタル事實ニ依リ明白ニシテ被告利太郎ノ所爲ハ
 宜シク刑法第三百九十三條第一項不動産冒認販賣ノ罪トシテ處斷スヘキモノナレハナリト云
 フニ在リ○依テ案スルニ刑法第三百九十三條第一項ハ其名義ハ如何ニ拘ハラヌ事實他人
 ハ所有スル動産不動産ヲ自己ハ所有ナリト冒認シ以テ販賣交換等ヲ爲シタルモハテ謂フナリ
 而シテ原告決ハ其理由ノ第一ニ於テ被告ハ長野縣安曇郡豊科村丸山福市ト金錢貸借都合上同村
 宇宮道西四千四百八十三番郡村宅地ノ内戸番丙第四百四十番地木造瓦葺二階造居室一棟ハ實
 際丸山福市ノ所有ナルモ公簿上被告ノ所有名義ト爲シアリシテ奇貨トシ明治二十九年五月二
 十三日登記ヲ經代金百五十圓ヲ以テ之ヲ同村西澤利兵衛ニ販賣シタルハ不動産冒認販賣ノ罪
 アリトノ公訴ニシテ被告ニ於テ前記ノ行爲アリタルコトハ押收書類ニ徴シ明白ナリトアレハ
 其所爲ハ刑法第三百九十三條第一項同第三百九十四條ニ間擬シ二月以上四年以

下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加シ六月以上二年以下ノ監視ニ付スヘキモ
 ノトス然ルニ原告決ハ丸山福市カ前記建物ノ所有者ナルコトハ所謂秘密契約ニシテ公簿上即
 法律上ニ於テハ前記建物ノ所有者ハ被告ナルヲ以テ被告カ之ヲ販賣シタルハトテ法律上之ヲ
 冒認販賣シタルモノト云フヲ得ヌ要之ニ被告ノ此行爲ハ丸山福市トノ秘密契約ニ背反シタル
 民事上ノ違約ニ止マリ刑事上ノ犯罪ヲ構成セストノ理由ヲ以テ無罪ヲ言渡シタル第一審判決
 ナ相當ナリトシ検事ノ控訴ヲ棄却シタルハ即チ擬律ノ錯誤ニシテ破毀ヲ免カレサル不法ノ判
 決ナリトス

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十七條ノ規定ニ從ヒ検事長ノ上告ニ係ル部分即チ冒認販
 賣被告事件ニ對スル原告決ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ判決スル左ノ如シ

被告 人 山田利太郎

原院ノ認メタル事實ヲ法律ニ照ラスニ刑法第三百九十三條第一項第三百九十四條第三百九十四
 條ニ據リ處斷スヘキモノトス依テ被告利太郎ヲ重禁錮一年ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ一年ノ監
 視ニ付ス其他ハ原告決通り

明治三十年五月三日大審院第一刑事部公廷ニ於テ検事岩田武儀立會宣告ス

冒認販賣罪ノ成立

三

○官吏抗拒等ノ件

明治三十年第三五八號
明治三十年五月三日宣告

○判決要旨

賭博ノ現場ヲ巡查ニ贖見セラレタル以上ハ犯人ノ現場ニ在ルト逃走シタルト
ヲ問ハス凡テ現行犯ナリ

警部ノ發スル勾引狀ニハ書記ノ署名捺印アルヲ必要トセス

(參照) 第四百四十四條第四百四十六條ニ於テ檢事ニ許シタル職務ハ司法警察官モ亦假ニ
之ヲ行フコトヲ得但シ勾留狀ヲ發スルコトヲ得ス(刑事訴訟法第二百四十七條第二項)

第一審 長野地方裁判所松本支部 第二審 東京控訴院

被告人 柏原治三郎 辯護人 高木益太郎

右治三郎ニ對スル官吏抗拒毆打創傷賭博被告事件ニ付明治三十年四月十四日東京控訴院ニ於
テ長野地方裁判所松本支部ノ判決ニ對スル被告ノ控訴ヲ受理シ審理ノ末言渡シタル判決ニ服
セス被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ
如シ

被告治三郎上告趣意ハ原院カ本件ヲ審理スルニ當リ必要ナル證據書類ヲ一々朗讀明示シテ之
レカ解釋ヲ爲サシメタル事ナシ即チ刑事訴訟法第二百十九條ニ背反スル違法アルモノトス依

テ原判決全部ノ破毀ヲ求ムト云フニ在ルトモ○原院公判始末書ヲ見ルニ被告ニ於テ異議ナキ
ニ依リ證據書類ノ朗讀ヲ省畧シ解釋ノ有無ヲ問フタル事跡判然ナルヲ以テ本論旨ハ謂ハレナ
シ

辯護人高木益太郎上告辯明書第一點ハ要スルニ第一元來警部ハ勾引狀ヲ發スル權アルモノニ
アラサレハ其令狀ハ無効ノモノナリ假リニ現行犯ノ場合ニ之ヲ發スルノ權アリトスルモ本件
ハ被告カ居村ニ於テ賭博ヲナシ居リタル際巡查ニ贖見セラレ即時現場ヨリ逃走シタリ其後時
ヲ經テ警察署ヨリ勾引狀ヲ發シタルモノナレハ刑事訴訟法ノ所謂現行犯ノ場合ニアラス殊ニ
逃走後十餘日間モ令狀ヲ執行セザリシモノナルヲ要スルニ被告ハ警部ノ發シタル勾引狀ニ
依リ勾引セラレ、ノ義務ナキモノナレハ之ニ抗拒シタルハ權利行爲ニシテ刑法第三百三十九條
等ノ犯罪成立スヘキモノニアラス第二本件訴訟記録中ニ綴込アル藤森警部ノ勾引狀ヲ視ルニ
同警部ノ署名捺印ノミニシテ書記ノ署名捺印ナシ刑事訴訟法第七十六條ニ依レハ勾引狀ニハ
判事及ヒ裁判所書記署名捺印スヘシトアルヲ以テ警部一人ノ署名捺印シタル勾引狀ハ無効ノ
モノナリ從テ無効ノ勾引狀ノ執行ヲ拒ムハ違法行爲ニアラス第三ハ藤原巡查カ令狀執行ノ手
續ハ刑事訴訟法第七十七條第二項ノ法式ヲ履行シタルモノニアラス是故ニ訴訟記録中ニ綴込
アル令狀ハ現ニ正本謄本共運續シタル一葉ノ儘ニシテ被告ニ之ヲ分割シテ其謄本下付ノ手續
ヲ施シタルモノニアラス如此違法ノ措置ニ對シテハ被告ハ固ヨリ服従スルノ責アルコトナシ
然ルニ原院カ被告ノ所爲ヲ刑法第三百三十九條等ニ依リ處斷シタルハ違法ナリト云フニ在リ○

賭博ノ贖見○警部ノ勾引狀

依テ按スルニ被告カ賭博ヲナシ居リタル際、巡查ニ喧見セラレタル已上ハ、現行犯タリ、既ニ現行犯タル已上ハ、警部ニ於テ勾引状ヲ發スルコトヲ得ルハ、刑事訴訟法第百四十七條ニ依リ、明カニシテ犯人ハ現場ニ在ルト逃走シタルトテ、擇ハサルナリ、而シテ令狀發附ハ時ト之ヲ執行スル時ト、其日ヲ異ニスルカ如キハ、場合ニ依リ、必要ニシテ決シテ勾引状其モノハ、有効無効ニ關スヘキコトニアラス、勾引状ニ書記ハ署名捺印ナキヲ以テ無効ナリト云フモ、刑事訴訟法第百四十七條ハ、勾引状ヲ發スルハ、外ハ、檢事ニ許シタル職務ヲ假リ、行フコトヲ警察官ニ許シタルモノニシテ、勾引状ヲ發スルコトヲ得ル職權アルコト明カナリ、既ニ其職權アル已上ハ、其形式ニ至テハ、豫審判事等ハ發スルモノニ做フコトヲ得ヘク、シハ之ニ準スヘキヲ至當トスヘキモ、警察署ニ書記ナル者ナキ以上ハ、警部一人署名捺印シテ之ヲ發スルモ無効ナリト云フヘカラス、又原判決ヲ閱スルニ(前略)其旨ヲ示シ勾引セントシタルニ當リ、被告ハ腕力ニ訴ヘ之ニ抗拒シ云々トアリテ、勾引状執行ニ着手セントスル際、被告ハ腕力ヲ以テ其執行ニ抗拒シタルコトヲ認メアリテ、正本ヲ示シ其贈本ヲ下付スル等普通ノ手續ヲ踐ムコト能ハサリシ場合ナレハ、巡查カ勾引状ヲ攜帶シタルコトモ認メアルヲ以テ、即チ被告ハ巡查カ正當ニ其職務ヲ執行セントスルニ際シ之ニ抗拒シタル事實ハ、原院ノ確認スル處ナリ、已上ノ如ク、巡查カ有効ノ勾引状ヲ正當ニ執行セントスルニ際シ、腕力ヲ以テ之ニ抗拒シタルモノナレハ、原院ハ之ヲ刑法第百三十九條等ニ間擬シタルハ、毫モ違法ノ廉アルコトナシ、其第二點ハ、原判決ハ、本件ニ付刑法第百二條第一項ヲ適用セラレタルハ、不法ナリ何トナレハ、賭博罪ニ就テハ第一審ニ於テ刑ノ指定チ欠キタルヲ以テ、同法第百條ニ

依リ處斷スルチ相當ナリト信スト云フニ在レトモ、○記録ニ依レハ、博賭罪ハ第一審ノ判決ヲ以テ確定シタルモノナレハ、原院ニ於テ本件ヲ判決スルニ當テハ、已ニ判決ヲ經タル犯罪ナルコト明カナレハ、刑法第百二條ヲ適用處斷スヘキハ、相當ニシテ不法ニアラス、右ノ理由ニ依リ、刑事訴訟法第百八十五條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ、本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十年五月三日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○謀殺ノ件

明治三十年第三六四號
明治三十年五月六日宣告

○判決要旨

(判旨第五點) 二人共謀シテ一體トナリ犯行ニ着手シタル以上ハ、其一人縱令手ヲ下サ、ルモ二人同一ノ罪責ニ任セサルヘカラス

(判旨第六點) 凡ソ犯罪ノ既遂未遂ハ其目的ヲ達シタルト否トニ依リ區別スヘ

共謀者ノ罪責○既遂未遂ノ區別○前回公判手續ノ瑕疵

共謀者ノ罪責○既遂未遂ノ區別○前回公判手續ノ瑕疵

キモノニシテ其結果發生ノ時期ノ如キハ固ヨリ問フ所ニアラス
(判旨第八點) 前後二回ニ公判ヲ開廷スルモ後回ノ公判ハ前回ノ續行ニアラス
シテ審理ノ更新ニ係ル場合ニアリテハ前回ニ於ケル公判手續ノ瑕疵ヲ鳴ラシ
原判決ノ瑕疵トナスヲ得ス

第一審 静岡地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 萩原修三郎 辯護人 玉置一 花井卓藏

右謀殺被告事件ノ控訴ニ付明治三十年三月二十九日東京控訴院ニ於テ審理ノ未原判決ハ之レ
ヲ取消ス被告修三郎ヲ無期徒刑ニ處ス但シ前發ノ刑ハ之レニ通算ス控訴費用金六圓四十錢ハ
被告ニ於テ共犯人高井龜吉ト連帶シテ負擔スヘシト言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シ
タリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告趣意書ノ要旨ハ高井龜吉丸山彌作伊藤清吉太田榮吉イズレ光五郎等ヲ證人トシテ喚問ヲ
申請シタルニ原院カ之ヲ採用セス有罪ノ判決アリタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○證人喚
問ノ必要不必要ヲ判定シ其申請ヲ許否スルハ原承審官ノ職權ニ屬スルヲ以テ本論旨ハ到底適
法上告ノ理由トナラス

辯護士玉置一郎カ上告趣意書ノ要旨ハ一件記録ヲ按スルニ本件ノ事實ハ高井龜次郎カ館ヲ

持テ吉五郎ヲ突キタルモノニシテ其他ノ者ハ身ニ寸鐵ヲ持セス即チ手下セシハ龜次郎一人
ニシテ被告ノ如キハ犯所ニ同行シタルニ過キス而シテ之カ共謀者タルノ事實ハ一件記録中毫
モ直接ノ證據アルコトナシ依テ此ノ如キ事實ニ對シテハ共同被告タリシ彌作ト同一ニ無罪ノ
判決ヲ言渡スヘキモノナルニ謀殺ノ刑ヲ適用シタルハ違法ナリト云フニ在リテ○原承審官ノ
職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キス適法上告ノ理由ナシ

被告カ上告趣意擴張書ノ要旨第一點ハ原判決書ニ被告ノ職業ヲ明記セサルハ違法ナリト云フ
ニ在レトモ○被告ノ氏名年齢身分住所ヲ記シ其人違ナキコトヲ示シタル上ハ別ニ其職業ヲ明
示セサルモ違法ニ非ス」同第二點ハ原判決ニ「刃物ヲ以テ其腹部ヲ刺シ云々」トアルモ身體ニ腹部
ト云ヘル名稱ナシ原判決ハ理由顯露アル裁判ナリ云フニ在レトモ○判決原本ニハ其腹部ヲ刺
シ云々トアリ若シ被告ニ送達シタル判決謄本ニ腹部トアリトセハ是レ其謄本ノ誤記ニ過キス
旁々以テ本論旨モ相立タス

辯護士花井卓藏玉置一郎カ上告趣意擴張ノ要旨第一點ハ原判決中「被告修三郎ハ博徒ニシテ
云々明治二十三年八月二十八日云々深澤吉五郎カ威力ヲ以テ被告ニ迫リ云々被告ハ憤懣ニ堪
ヘス云々吉五郎ヲ殺害セシコトヲ企テ同夜十二時頃云々龜吉ト共ニ之ニ打テ掛リ云々」トアリ
而シテ憤懣ニ堪ヘストハ豫謀ノ文字ニアラスシテ感激ノ文字ナリ加之憤懣ノ餘直チニ犯行ニ
着手シタルモノナレハ本件ハ謀殺ニアラスシテ故殺ナリト云フニ在レトモ○原判決ニハ(前略)
被告ハ憤懣ニ堪ヘス同類高井龜吉ニ謀リテ共ニ吉五郎ヲ殺害セシコトヲ企テ同夜十二時頃吉

共謀者ノ罪責○既遂未遂ノ區別○前回公判手續ノ瑕疵

共謀者ノ罪責○既遂未遂ノ區別○前回公判手續ノ概論

五郎カ同縣富士郡上野村精進川田邊久平方ニ居ルヲ探知シ龜吉ト共ニ丸山彌作ナル者ヲ同道シテ久平方ニ至リ遠州ノ清太郎兄貴カ待チ居ル故直様來リ吳レヨト申欺キ吉五郎ヲ戶外ニ誘ヒ出シ今日ハ其命ヲ貰フヘシト言ヒナカラ之レニ打チ掛リ云々トアリテ被告ハ相被告龜吉ト共謀シテ吉五郎ヲ殺害セシコトヲ企テ同人ノ所在ヲ探索シ而シテ同人カ田邊久平方ニ居ルコトヲ覺知スルヤ龜吉等ト共ニ其場所ニ到リ言ヲ設ケテ同人ヲ戶外ニ誘ヒ出シ而シテ後殺害ノ所爲ニ着手シタルモノニシテ豫謀ニ出テタル事實判然タリ左レハ原判決之ヲ謀殺トシテ處斷シタルハ相當ニシテ本論旨ハ其謂レナシ同第二點ハ又吉五郎カ驚キ走ルヲ逐ヒ龜吉ハ路上ニ於テ追及シ携フル處ノ刃物ヲ以テ其腹部ヲ刺シタリ云々トアリテ現實謀殺ノ所爲ヲ遂ケタルハ龜吉ニシテ被告ニアラサルコト瞭然タリ而シテ原院ハ被告ニ於テ仍ホ其逃クルヲ追跡シタル事實ヲ認メス之ヲ換言スレハ當初ニ於ケル豫謀ノ意思其實行ノ場合ニ至ルマテ依然繼續シタルヤ否ノ問題ヲ判斷セス乃チ原判決ハ擬律錯誤若クハ理由不備ノ欠點アリト云フニ在レトモ○被告ハ龜吉ト共謀シ一體ト爲リテ犯罪行為ニ着手シタルモハハハハ被告ハ縱令自ラ手ヲ下サイルモ共犯タル龜吉カ即時其行為ヲ遂ケタル以上ハ被告ニ於テ其罪責ニ任セサル可カラサルコト言チ候カス原判決ハ所論ノ如キ殺獲ナシ同第三點ハ殺人罪ハ實行犯ナリ實行上入テ殺シタルニアラサレハ既遂犯ヲ成立セス本件ノ被害者ハ實行上殺サレタルニアラスシテ他日傷ノ爲メニ死シタルナリ死ト殺トハ同視スルヲ得ス若シ此論旨ヲ以テ不可ナリトセンカ數十年ノ久シキ病學ニ根據シ傷ノ爲メ遂ニ死ニ至リタルトキハ如何仍ホ謀殺ノ既遂ヲ以テ律スヘ

判旨第五點

判旨第六點

キカ要之原判決ハ擬律錯誤若クハ理由不備ノ欠點アリト云フニ在レトモ○凡ソ犯罪ハ既遂未遂ハ其目的ヲ達シタルト否トニ依リ區別ス可キモハニシテ其結果發生ハ時期ハ如キハ固ヨリ問フ可キ所ニ非ス左レハ原判決カ被告等殺意ヲ以テ吉五郎ノ腹部ヲ刺シ致死ノ原因ヲ與ヘ而シテ吉五郎カ其傷ノ爲メ翌日死去シ即チ被告等カ豫期シタル結果ヲ生シタル事實ヲ認メ之ニ謀殺既遂ノ法條ヲ適用シ處斷シタルハ相當ニシテ毫モ違法ノ廉アルコトナシ同第四點ハ本件ハ重罪事件ナルニ公判開廷前受命判事ノ被告ヲ訊問シタル事跡ノ見ルヘキモノナシ尤一件記録中明治二十九年三月八日受命判事ノ下調アリト雖モ本件ノ控訴申立ハ同二十九年六月十三日ニシテ控訴申立以前受命判事ノ訊問アルヘキ謂レナシ從テ右調書ハ何等ノ効力ナキヲ以テ結局公判下調ナキト同一ニ歸セサルヘカラス原判決ハ刑事訴訟法第二百三十七條ニ背戾シタル不法アリト云フニ在レトモ○受命判事ノ訊問調書ニ明治二十九年三月八日トアルハ明治三十年三月八日ノ誤記ナルコトハ同調書ノ記録番號印ニ明治三十年三月八日二九を六六〇トアルニ徴シテ明白ナリ左レハ明治三十年三月二十六日ノ公判開廷ニ前チ一應被告ヲ訊問シタルモノニシテ原院ノ審理手續毫モ違法ノ廉アルコトナシ同第五點ハ假ニ前段論旨中ノ明治二十九年三月八日ハ同三十年三月八日ノ誤記ナリトスルモ本件ノ公判ハ同二十九年十月二十三日開廷シ次テ同三十年三月二十六日公判ヲ開廷シタルヲ以テ第一回ノ公判開廷以前ニ於テ公判下調ヲ爲サルヘカラス然ルニ一件記録中絶テ受命判事ノ被告ヲ訊問シタル跡ナシ是レ刑事訴訟法第二百三十七條ニ違背シタル不法アリト云フニ在レトモ○訴訟記録ヲ查閱スルニ本件

判旨第八點

共謀者ノ罪責○既遂未遂ノ區別○前回公判手續ノ概論

ハ公判ハ本論旨ノ如ク二回ニ開廷シタルニ相違ナキモ其第二回ハ公判ハ前回ハ審理ヲ續行シタルニ非スシテ全ク審理ヲ更改シ而カモ前段ニ説明セル如ク其開廷前式ニ從ヒ訊問ヲ爲シタルモノナレハ已ニ無効ニ歸シタル第一回公判ハ手續ニ瑕疵アリトスルモ之ヲ以テ適法ハ審理ニ基キタル原判決ハ瑕疵ト爲スコトヲ得ス因テ本論旨モ亦相立タス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治三十年五月六日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○詐欺取財未遂ノ件

明治三十年第三七二號
明治三十年五月七日宣告

○判決要旨

犯罪ノ實行ニ着手シタル以上ハ其進行ノ程度如何ハ未遂犯罪ノ成否ニ關係セ

第一審 山形地方裁判所鶴岡支部

第二審 宮城控訴院

被告人 本間與七郎

辯護人

高木益太郎
利光鶴松

右本間與七郎カ詐欺取財未遂被告事件ニ付明治三十年四月六日宮城控訴院ニ於テ山形地方裁判所鶴岡支部ノ判決ニ對スル檢事ノ控訴ヲ審判シ原判決ハ之ヲ取消ス被告與七郎ヲ重禁錮一年罰金十圓監視六月ニ處ス明治二十八年九月三日付ノ杉立木賣渡證書及二十九年二月十九日付ノ證明書ハ之ヲ沒收シ其他ノ書類ハ各差出人ニ還付ス公訴裁判費用ハ全部被告ノ負擔トスト旨渡シタル第二審ノ判決ニ服セス被告人ハ上告ヲ爲シタルニ因リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ被告辯護士高木益太郎利光鶴松ノ辯論及ヒ立會檢事岩野新平ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

上告ノ要旨ハ第一原裁判ハ詐欺取財未遂ヲ以テ擬律スヘカラサル所爲ニ對シ處罰シタル違法アルモノナリ抑未遂犯ハ犯罪ノ遂行ニ對シ直接不可分ノ程度迄進ミタル所爲ナラサルヘカラス犯人意外ノ障礙若クハ舛錯アラサル場合ニ於テ犯罪カ必ス完全ニ遂行セラレヘキ場合ナラサルヘカラス即チ被告人ノ目的タル犯罪カ遂行セラレサルハ一ニ意外ノ障礙若クハ舛錯ノ爲メニ基因セル場合ナラサルヘカラス然ルニ原判文ニ「已ニ支拂タル代金四百七十五圓ハ之ヲ返還シ且本訴二百圓ノ預リ證書ヲ無効ト認ム可シトノ反訴ヲ同支部ニ提起シ云々以テ繁美ヨリ金四百七十五圓ヲ騙取セントシタルモ同人ヨリ告訴セシ故發覺シ其目的ヲ遂ケサリシモノナリト判定シタルモ單ニ反訴ヲ提起シタリトテ該反訴ハ却下セラレヘキモノナルヤ否ヤモ知ルヘカラサルモノニシテ被害者ノ告訴ナカリシ場合ト雖モ被告カ犯罪ヲ遂行シ得ルヤ否ヤ未タ判定スルヲ得ス即チ必然ノ結果トシテ詐欺取財ノ成立スルモノト云フヲ得サレハ直接不可分

未遂犯ノ成立

ノ程度ニ迄進ミタルモノト云フヲ得ス從テ未遂ヲ以テ論シ得サルモノナルニ原判決カ未遂犯ト爲シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○犯、罪、ノ、目、的、ヲ、遂、行、セ、ン、ト、シ、已、ニ、其、事、ニ、着、手、シ、タ、ル、ト、キ、ハ、即、チ、未、遂、犯、罪、ハ、成、立、シ、タ、ル、モ、ハ、ニ、シ、テ、其、事、件、進、行、ハ、程、度、如、何、ヲ、以、テ、未、遂、犯、ハ、成、否、ヲ、判、ス、ヘ、キ、モ、ハ、ニ、非、ス、本、件、被、告、人、ハ、金、圓、ヲ、騙、取、セ、ン、ト、ス、ル、ノ、目、的、ヲ、以、テ、佐、藤、繁、美、ニ、對、シ、反、訴、ヲ、提、起、シ、タ、ル、モ、繁、美、ヨリ、告、訴、セ、ラ、レ、犯、罪、發、覺、シ、其、目、的、ヲ、遂、ク、サ、リ、シ、モ、ナ、レ、ハ、詐、欺、取、財、未、遂、ノ、罪、ア、リ、ト、判、決、シ、タ、ル、ハ、正、當、ナ、リ、第、二、原、裁、判、ハ、被、告、カ、如、何、ナ、ル、場、合、ニ、於、テ、犯、罪、ノ、決、意、ヲ、爲、シ、如、何、ナル、時、ヨリ、犯、罪、ノ、遂、行、ニ、從、事、シ、タ、ル、ヤ、ヲ、判、定、セ、サ、ル、違、法、ア、リ、何、ト、ナ、レ、ハ、原、判、文、ニ、前、顯、ノ、預、リ、證、書、ハ、四、十、六、番、ノ、杉、立、木、ノ、賣、買、代、金、六、百、七、十、五、圓、ノ、殘、金、ニ、充、タ、ル、モ、ノ、ナ、リ、ト、ノ、事、實、ヲ、構、造、シ、之、ヲ、以、テ、反、訴、ヲ、爲、サ、ン、ト、企、テ、云、々、ト、ア、ル、ノ、ミ、ニ、シ、テ、反、訴、ヲ、起、シ、之、ヲ、手、段、ト、シ、テ、金、圓、ヲ、騙、取、セ、ン、ト、企、テ、タ、リ、ト、ノ、事、實、ナ、キ、カ、故、ニ、如、何、ナ、ル、時、ニ、於、テ、騙、取、ノ、希、望、ヲ、起、シ、如、何、ナ、ル、時、ヨリ、犯、罪、遂、行、ニ、如、何、ナ、ル、事、ヲ、爲、シ、タ、ル、ヤ、ヲ、知、リ、能、ハ、サ、レ、ハ、ナ、リ、ト、云、フ、ニ、在、レ、ト、モ、○原、判、文、ニ、反、訴、ヲ、提、起、セ、シ、メ、尙、ホ、證、明、書、及、ヒ、杉、立、木、賣、渡、證、書、ヲ、提、出、セ、シ、メ、以、テ、繁、美、ヨリ、金、四、百、七、十、五、圓、ヲ、騙、取、セ、ン、ト、シ、タ、ル、モ、云、々、ト、ア、リ、テ、其、反、訴、ヲ、提、起、シ、タ、ル、ハ、即、チ、金、圓、騙、取、ノ、手、段、方、法、ニ、出、テ、タ、ル、モ、ノ、ナ、ル、ヤ、明、瞭、ナ、リ、且、犯、罪、決、定、ノ、日、時、ノ、如、キ、ハ、之、ヲ、舉、示、ス、ル、ノ、必、要、ナ、キ、モ、ト、ス、第、三、刑、法、第、百、十、三、條、ノ、第、一、項、ハ、重、罪、ノ、未、遂、ヲ、規、定、シ、第、二、項、ハ、輕、罪、ノ、未、遂、ヲ、規、定、シ、第、三、項、ハ、違、警、罪、ノ、未、遂、ヲ、規、定、シ、ア、ル、カ、故、ニ、苟、モ、重、罪、ナル、ヤ、輕、罪、ナル、ヤ、ヲ、明、示、セ、サ、ル、以、上、ハ、果、シ、テ、如、何、ナ、ル、所、爲、ニ、對、シ、第、何、項、ニ、依、リ、處、罰、シ、タ、ル、ヤ、刑、律、上、ノ、適、用、其、當、ヲ、得、タ、ル、ヤ、否、ヲ、知、ル、ニ、由、ナ、シ、原、判、文、ニ、被、告、ノ、所、爲、ハ、刑

法第三百九十條第一項第三百九十四條ニ該ルモ未遂ナルヲ以テ第三百九十七條第百十二條第百十三條ニ依リ云々トアルノミニテ輕罪ノ所爲ナリトノ事實ヲ示サ、ルノミナラス第百十三條何項ニ依ルコトヲモ示サ、ルニ付其適用ノ當否ヲ判スルニ由ナキ違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○犯、罪、ニ、付、適、用、ス、ヘ、キ、法、條、ヲ、明、示、シ、ア、ル、上、ハ、其、重、罪、ナル、ヤ、輕、罪、ナル、ヤ、ハ、判、然、明、白、ニ、シ、テ、故、サ、ラ、ニ、重、罪、ナ、リ、輕、罪、ナ、リ、ト、記、載、ス、ル、ノ、必、要、ナ、ク、從、テ、刑、法、第、百、十、三、條、ノ、第、何、項、ナル、コ、ト、ヲ、示、サ、ル、モ、違、法、ニ、非、ス、高、木、辯、護、士、カ、辯、明、書、ノ、要、旨、ハ、刑、事、訴、訟、法、ニ、所、謂、訴、訟、關、係、人、中、ニ、辯、護、人、ヲ、包、含、ス、ル、ハ、大、審、院、ノ、判、旨、ニ、依、リ、明、カ、ナ、リ、而、シ、テ、本、件、公、判、期、日、呼、出、狀、ハ、辯、護、人、加、藤、幹、雄、ニ、送、達、ア、リ、タ、ル、コ、ト、ナ、キ、ヲ、以、テ、同、人、ハ、原、院、へ、出、廷、シ、タ、ル、コ、ト、ナ、ク、又、被、告、ニ、於、テ、其、出、廷、ヲ、要、セ、サ、ル、旨、ノ、申、立、ヲ、爲、シ、タ、ル、コ、ト、ナ、シ、尤、モ、訴、訟、記、錄、中、加、藤、幹、雄、ニ、對、ス、ル、呼、出、狀、ア、リ、テ、其、呼、出、狀、ヲ、見、ル、ニ、受、取、ノ、欄、ニ、仙、臺、市、役、所、付、屬、員、志、村、金、二、ト、記、載、シ、又、本、人、全、戶、不、在、ニ、付、送、達、ス、ル、能、ハ、ス、依、テ、法、律、ニ、基、キ、仙、臺、市、長、不、在、ニ、付、付、屬、員、右、志、村、金、二、ニ、預、ケ、タ、リ、ト、記、載、シ、ア、レ、ト、モ、個、ハ、刑、事、訴、訟、法、第、十、九、條、民、事、訴、訟、法、第、百、四、十、五、條、第、百、四、十、八、條、ヲ、遵、守、セ、サ、ル、モ、ノ、ナ、リ、何、ト、ナ、レ、ハ、送、達、ヲ、受、ク、ヘ、キ、者、全、戶、不、在、ナ、リ、シ、ト、キ、ハ、送、達、ノ、告、知、書、ヲ、作、リ、之、ヲ、住、居、ノ、戶、ニ、貼、付、シ、且、近、隣、ニ、住、居、ス、ル、者、二、人、ニ、其、旨、ヲ、通、知、ス、ヘ、キ、モ、ツ、ナ、ル、ニ、右、送、達、ノ、際、此、等、ノ、手、續、ヲ、履、ミ、タ、ル、コ、ト、ヲ、證、明、ス、ヘ、キ、送、達、證、書、ナ、キ、ヲ、以、テ、其、送、達、ノ、効、ナ、キ、ヤ、明、カ、ナ、リ、果、シ、テ、然、ラ、ハ、原、院、ハ、訴、訟、關、係、人、ニ、適、式、ナ、ル、呼、出、狀、ノ、送、達、ナ、キ、ニ、拘、ハ、ラ、ス、加、藤、辯、護、士、ノ、出、廷、ナ、キ、儘、本、件、ノ、審、理、ヲ、了、リ、タ、ル、違、法、ア、ル、モ、ノ、ナ、リ、ト、云、フ、ニ、在、レ、ト、モ、○書、類、ヲ、送、達、ス、ル、コ、ト、能、ハ、サ、ル、ト、キ、ハ、之、ヲ、市、町、村、長、ニ、預、ケ、置、ク、ヘ、ク、而、シ、テ、市、町

村長ニ預置ク場合ニ於テハ必ス告知書ヲ貼付シ及ヒ近隣ノ者ニ通知スヘキコトハ民事訴訟法第四百十五條ニ規定スル所ナリ故ニ本件ノ呼出狀ニ法律ニ基キ市役所付屬員ニ預ケタリト記載シアル上ハ即チ法律ノ規定ニ從ヒ市長ニ預ケ置ク場合ニ施用スヘキ手續ヲ履行シタルコトヲ認め得ヘキモノナレハ其適式ノ送達ヲ爲シタルモノナルヲ明瞭ニシテ呼出狀ノ送達ナシト云フヲ得ス從テ原判決違法ノ點ナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十年五月七日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

〇竊盜ノ件

明治三十年第三八〇號
明治三十年五月十日宣告

〇判決要旨

(判旨第二點) 法律適用ニ付裁判所ニ於テ檢事ノ意見ヲ求メタル上ハ檢事其意見ヲ陳述セサルモ不法ニアラス

(參照) 證憑調濟ノ後檢事ハ事實及ヒ法律適用ニ付意見ヲ陳述スヘシ(刑事訴訟法第二百二十條第一項)

(判旨第三點) 竊盜罪ヲ數回ニ犯シタル場合ニアリテモ連續犯ト認メタル以上

ハ一罪トシテ處斷ス

(同) 上) 連續犯ハ分割スヘカラス從テ最初ノ犯行丁年未滿ナレハトテ之ヲ分割シテ刑法第八十一條ヲ適用スルコトヲ得ス

(參照) 罪ヲ犯ス時滿十六歲以上二十歲ニ滿タサル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス(刑法第八條)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 中村稻吉 辯護人 花井卓藏

右竊盜被告事件ニ付明治三十年四月十三日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告趣旨ノ第一點ハ被告ハ原院ノ認メタル第一及ヒ第二ノ罪ヲ犯シタルコトナシ而シテ其物件ハ委託品又ハ所持品ニ屬スル事實ハ參考人ノ供述ニ依ルモ明ナリ然ルニ何等ノ證據ナク漫然惡意ヲ推測シ竊盜罪ニ問擬シタルハ不法ナリト云フニ在テ

〇原承審官ノ職權ニ存スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサレハ上告ノ理由トナル可キモノニアラス

同第二點ハ原院ニ於テ檢事ハ單ニ控訴棄却ノ意見ヲ陳述シタルニ止マリ第一及ヒ第二ノ被告事件ニ付法律適用ノ意見ヲ陳述シタル事跡アルヲ見ス是即チ違法ナリト云フニ在レトモ

〇原

檢事ノ意見〇數回ノ竊盜〇連續犯ノ宥恕減輕

院ノ公判始末書ヲ查閱スルニ檢事ハ云々原判決ハ全部相當ニシテ被告人ノ控訴ハ理由ナク棄却アリ度ト陳述セラレタリト記載シテ即チ檢事ハ第一審判決ノ事實ノ認定及ヒ法律ノ適用等總テ相當ナリトノ意見ヲ陳述シタルニ外ナラザルハ法律適用ニ付意見ヲ陳述セスト云フコトヲ得ス又假ニ檢事カ法律適用ノ意見ヲ陳述セザリシモハトスルモ原院ニ於テ其意見ヲ求メタル上ハ檢事カ意見ヲ陳述セザリシヲ以テ原判決ヲ不法ナリト論スルコトヲ得ス故ニ本論旨ハ到底相立タサルモノトス

判旨第二點

辯護人花井卓藏カ擴張論旨ノ第一點ハ原院ハ第二被告事件ニ付明治二十九年十月上旬頃ヨリ同年十二月二十日迄ノ間ニ云々數回ニ云々竊取シタリト判定セリ而シテ被告ハ明治九年十月上旬頃ニ生ナレハ明治二十九年十月上旬ノ當時ハ十九歳十一月ニシテ未タ丁年ニ達セサルモノナリ然ルニ刑法第八十一條ヲ適用セス丁年者トシテ處罰シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ〇原判文ヲ查閱スルニ第二ハ竊盜罪ハ明治二十九年十月上旬頃ヨリ同年十二月二十日迄ノ間ニ數回ニ犯シタルモノニシテ即チ之ヲ連續犯ト認メ一罪トシテ處斷シタル上ハ其一罪ヲ分割ス可カラサルカ故ニ縱令被告ハ明治二十九年十月中旬ニ在テハ未タ丁年ニ至ラサルモ其當時ハ所爲ニ對シ之ヲ分割シテ刑法第八十一條ヲ適用スルコトヲ得ス因テ原院カ同條ヲ適用セスシテ處斷シタルハ決シテ不法ニアラサルナリ

判旨第三點

同第二點ハ本件ニ付被告及ヒ辯護人ハ利益トナル可キ證據トシテ人證ヲ請求シタルニ原院ニ於テ之ヲ採用セサルハ刑事訴訟法第九十八條ニ背戾スルモノナリト云フニ在レトモ〇同條

ニ其利益ト爲ル可キ證據ヲ差出スヲ得ヘキコトヲ告知ス可シトアルハ要スルニ裁判長ニ於テ被告ニ對シ其告知ヲ爲ス可シトノ旨ヲ規定シタルニ過キスシテ其告知ニ從ヒ被告カ利益ノ證據ヲ差出スニ付其必要アルヤ否ヤヲ判別シテ之ヲ許否スルコトヲ得ルハ乃チ承審官ノ職權ニ存スルモノナレハ右同條ノ規定ヲ以テ全然被告ニ其提出ヲ許シタルモノト論スルコトヲ得ス故ニ原院ニ於テ證人喚問ノ申請ヲ採用セザリシモ違法ニアラサルナリ
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案ノ上告ハ之ヲ棄却ス
明治三十年五月十日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

〇故殺未遂ノ件

明治三十年第三八四號
明治三十年五月十三日宣告

〇判決要旨

判決書ニ兩腕ノ幾部及ヒ手指ハ其機能ヲ失フニ至リタルモノナリトアルハ兩腕及ヒ手指ヲ廢疾ニ致シタル事實ヲ明示シタルモノトス

機能ノ喪失

(参照) 其一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折リ其他身體ヲ殘虧シ廢疾ニ致シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス(刑法第三百)

第一審 宇都宮地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 湯澤藤次郎 辯護人 佐久間 長四郎

右故殺未遂被告事件ニ付明治三十年四月十七日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
上告趣旨ハ被告ハ當時酒ヲ飲ミ知覺精神ヲ喪失シ居タルニ付石川由松ニ負傷シタリトコト
ハ之ヲ知ラサルナリ然ルニ原院ニ於テ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在テ
○原承
審官ノ職權ニ存スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサレハ上告ノ理由トナル可キモノニアラス
辯護人佐久間長四郎ノ擴張論旨ハ原判文ニ兩腕ノ幾部及ヒ手指ハ其機能ヲ失フニ至リタルモ
ノナリトアレトモ兩腕ノ幾部トハ何レノ場合ヲ指シタルモノナルヤ又手指トハ左右兩指何レ
ノ指カ其機能ヲ失フニ至リタルモノナルヤ其事實理由ヲ明示セサルハ不法ナリト云フニ在レ
トモ○要スルニ原判文ニ兩腕ハ幾部及ヒ手指ハ其機能ヲ失フニ至リタルモノハナリトアルハ即
チ兩腕及ヒ手指ヲ廢疾ニ致シタリトハ事實ヲ明示シタルモノハ外ナラス已ニ其廢疾ニ致シタ
リトノ事實ヲ明示シアル上ハ之カ局部等ニ關シ逐一其事實ヲ明示スルコトヲ要セス故ニ原判
決ハ事實理由ノ明示ヲ欠キタルモノト認ムルコトヲ得サルナリ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却ス
明治三十年五月十三日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○私書偽造行使ノ件

明治三十年第四三三號
明治三十年五月十四日宣告

○判決要旨

偽造ノ預リ金證書ニシテ印紙ノ貼用ヲ欠クトキハ裁判上直チニ採テ證據ト爲
スコトヲ得スト雖モ受領者ヲシテ真正ノ證書ト信認セシメタルトキハ證書偽
造行使罪ヲ構成ス

第一審 金澤地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 米山 磯右衛門
吉川

右私書偽造行使被告事件ニ付明治三十年四月八日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ服セス
被告等ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如
印紙ノ貼用ナキ偽造證書

被告米山ミツノ上告趣意ハ被告ハ相被告吉川磯右衛門ト共謀シテ本案ノ證書ヲ偽造行使シタルコトナキニ原院カ單ニ西豐吉郎名下ノ印影カ其實印ト相違スルトノ同人ノ陳述ヲ取テ被告ハ證書偽造行使罪ヲ犯シタリト認定シタルハ違法ナリト云フニ在リテ○原院ノ職權ニ屬スル事實ノ論定探證ノ當否ヲ批難スルニ過キサルヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス○被告吉川磯右衛門ノ上告趣意第一點ハ預リ金證書ハ相當ノ證券印紙ヲ貼用セザレハ法律上證據力ヲ有セス既ニ證據力ヲ有セサルモノハ之ヲ偽造行使スルモ其犯罪ヲ構成セス然ルニ原判決ニ被告等カ偽造行使シタリト認定シタル金五千圓ノ預リ證書ニ相當印紙貼用アリタルヤ否ヤ之ヲ説明セサルハ違法ナリト云フニ在レトモ○凡ソ預リ金證書ハ如キ必シモ裁判上證據力ヲ有スル證書ヲ偽造行使シテ始メテ偽造行使罪ノ成立スルモノニアラス印紙ハ貼用ヲ欠クカ爲メ裁許上直ニ探テ證據ト爲スヲ得サルモノト雖モ之ヲ受取ル者ヲシテ其證書ノ記名カ義務ヲ負擔スル真正ノ證書ナリト信認セシムルトキハ即預リ金證書ハ偽造行使罪ノ成立スルモノトス故ニ原判決ニ本案ノ預リ金證書ニ印紙ノ貼付アリタルヤ否ヤヲ明示セサルモ犯罪構成ニ必要ナル事實ノ理由ヲ欠キタル違法アルコトナシ○第二點ハ本件ノ事實ハ假令證書ノ偽造行使ナリトスルモ被告等ニ於テ其證書ノ證據力ヲ利用シタルモノト謂フヲ得サルニ依リ犯罪ハ構成セス然ルニ原院カ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○原判決ノ認定ニ據レハ被告兩名ハ被告ミツカ松山捨松ヨリ借用シタル金圓ノ返濟ヲ延ヘンカ爲メ西豐吉郎カミツノ負債ヲ

引受クルト詐言シ豐吉郎ヨリ捨松ニ宛タル金五千圓ノ預リ金證書ヲ偽造シ之ヲ捨松ニ交付シタル事實ナシハ即其所爲ハ權利義務ニ關スル證書偽造行使罪ヲ構成スルコト勿論ナルヲ以テ上告論旨ハ其理由ナシ○第三點ハ原判決ニ被告ハ湯邊茂助方ニ至ル云々捨松ハ偽造證書ヲ交付シタリトアルノミニテ茂助ノ住所ヲ明示セス即犯罪ノ場所ヲ明示セサル違法アリト云フニ在レトモ○湯邊茂助ノ住居ハ金澤市下堤町ナルコト原判決説明ノ前段ニ明示スル所ナルヲ以テ上告論旨ハ其理由ナシ○辯明書ハ緩々陳辯スル所アルモ要スルニ被告ハ本案ノ預リ金證書ヲミツト共謀シテ偽造行使シタルコトナシト謂フニ過キス○即原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルモノナルヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治三十年五月十四日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○官吏收賄ノ件

明治三十年第三九〇號
明治三十年五月十七日宣告

○判決要旨

官吏收賄罪ヲ構成スルニハ官吏其職務上ニ關シ囑託ヲ受ケタル事實アルコト

官吏收賄罪ノ成立

ヲ必要トス而シテ囑託ヲ受ケタル事實ニシテ其職權内ニ屬スルヤ否ノ理由ヲ明示セサル判決ハ不法ナリ

第一審 新潟地方裁判所新發田支部 第二審 東京控訴院

被告人 伊藤 實 辯護人 山口 憲

右官吏收賄被告事件ニ付明治三十年四月十四日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
辯護人山口憲カ上告趣意擴張ノ前段論旨ハ官吏收賄罪アリトセンニハ其囑託事項ノ職務權限内ニ屬スルモノタラサル可カラサルハ疑ヲ容レズ然ルニ原判決ハ冒頭ニ於テ被告ハ森林監守ノ職ヲ奉シ云々ト明示シ其末段ニ至リ暗ニ將來拂下ノ便宜ヲ與ヘラレンコトヲ囑託シテ金二十圓ヲ差出シタル處被告ハ其意ヲ了シ名ヲ貸借ニ藉リ遂ニ該金員ヲ領受シテ費消シタルモノナリトアルノミニシテ官林拂下ハ被告ノ職權内ニ屬スルトノ理由ヲ缺ケリ殊ニ森林監守ナルモノハ明治二十六年十月勅令第四百四十六號ノ第十一條ニ於テ命セラル、如ク單ニ官林保護ノ任ニ當ルノミニシテ官林拂下ヲ爲ス可キ職權ナクハ森林監守ノ職ヲ奉シトノ明示ノミニテハ官林拂下ハ被告ノ職權内ニ屬スルトノ理由ト爲シ得ヘキモノニアラス故ニ原判決ハ犯罪成立ニ必要ナル理由ヲ欠キタル不法ノ判決ナリト云フニ在リ○右論旨ノ如ク官吏收賄罪ヲ構成スルニハ官吏其職務上ニ關シ囑託ヲ受ケタルコトヲ要スルハ勿論ナリ然ルニ原判決ハ查閱スルニ被告ハ森林監守ノ職ヲ奉シ云々其受持部内岩船郡川品村大字湯澤地内荒澤官林ニ於テ明治二十九年年度ハ雜木拂下豫算調ヲ爲シタル後云々トアルトモ明治二十六年勅令第四百四十七號大小林區區官制ニ照ラスニ其第十一條ニ森林監守ハ云々上官ハ指揮ヲ承ケ官林ハ保護ニ從事ストアルハミナレハ何故ニ被告ハ明治二十九年年度ハ雜木拂下豫算調ヲ爲シタルモノナルヤ之カ理由ヲ明示セサルニ付果シテ被告ハ職務上雜木拂下ニ關シ豫算調ヲ爲シタルモノナルヤ否ヤ之ヲ知ルニ由ナク隨テ疑律ハ當否ヲ監査スルコト能ハス即チ理由ハ明示ヲ欠キタル不法ノ判決タルヲ免カレズ因テ此點ニ付原判決ヲ破毀ス可キモノト認ムルヲ以テ其他ノ論旨ニ對シテハ逐一說明ヲ與フルコトヲ要セサルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ原判決ヲ破毀シ本件ヲ宮城控訴院ニ移ス

明治三十年五月十七日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○監守盜ノ件

明治三十年第三九五號
明治三十年五月十八日宣告

○判決要旨

巡查其職務上遺失物ヲ領収シ之ヲ當該官署ニ送致スル間ハ當然監守ノ責任ヲ有ス從テ該物件ヲ竊取シタルトキハ監守盜罪ヲ構成ス

第一審 高知地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 三谷 曉勇 辯護人 青柳 正喜

右曉勇カ監守盜被告事件ニ付明治三十年四月八日大阪控訴院ニ於テ高知地方裁判所カ被告曉勇ヲ輕懲役六年ニ處ス云々公訴費用金ノ全部ハ被告人ノ負擔トスト言渡シタル判決ニ對スル被告ヨリノ控訴ヲ審理シ本件控訴ハ之ヲ棄却スト判決シタルヲ不法トシ被告ハ上告ヲ爲シ原院檢察長林誠一ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ辯護士青柳正喜ノ辯論立會檢察官野新平ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

上告要旨ノ第一點ハ原判文ヲ閱スルニ「前各」増田梅次ヨリ遺失物ヲ拾得セリトテ届出タル金八十錢參厘在中ノ黒皮巾着一個ヲ領収シナカラ云々トアリテ其領収シタル事實及ヒ理由ヲ明示セサルハ刑事訴訟法第二百六十九條第九項ニ該ル違法ノ判決ナリ「同第二點ハ原判文ニ「前各」金八十錢參厘在中ノ黒皮巾着一個ヲ領収シナカラ之ヲ本屬警察署ヘ送致ノ手續ヲナサス竊カニ盜取シタルモノナリトアリテ竊取ノ方法手段ヲ明示セサルハ不當ノ判決ナリト云フニ在レト

モ○原判決ニ依ルニ被告カ遺失物ヲ領収シタル事實又ハ之ヲ本屬警察署ヘ送致ノ手續ヲナサスシテ竊取シタルノ事實ハ明カニ判示シアルヲ以テ其他領収ノ理由及ヒ竊取ノ方法手段ノ如キハ之ヲ判示スルヲ要セス因テ第一第二論點共上告適法ノ理由ナシ「同第三點ハ第一回上告辯明書第三點ノ說明ニ讓ルヲ以テ就テ了解スヘシ「同第四點ハ原判文ニ證人(中畧)岡井直次郎岡井萬吉云々トアリ其直次及ヒ萬吉ハ刑事訴訟法第二百二十三條ヲ適用セスシテ證人トシテ判決シタルハ不法ニ法則ヲ適用シタル違法ノ裁判ナリト云フニアレトモ○右兩名ノ豫審調書ヲ查スルニ孰レモ被告人曉勇トノ間刑事訴訟法第二百二十三條ノ關係ナキヤ否ヤヲ問查シ宣誓セシメタル旨明記シアリテ上告論旨ノ如キ違法アルコトナシ「同第五點ハ原判文ヲ檢スルニ證人有田楠平小松幾馬岡井直次岡井萬吉増田梅次各豫審調書云々トアリテ其増田梅次ハ刑事訴訟法第二百二十四條第六項ニ該當シ證人ノ資格ナキコトハ明瞭ナリ然ルニ原院ニ於テハ如何ナル法則ヲ適用シテ證人トナシタルカ分明ナラス是亦法則ヲ適用セサル違法ノ判決ナリト云フニアレトモ○原判文ヲ查スルニ證憑列記ノ部ニ「以上ノ事實ハ證人有田楠平小松幾馬岡井直次岡井萬吉參考人増田梅次ノ各豫審調書云々トアリテ増田梅次ノ陳述ハ證人ノ證言トシテ採用シタルニアラサルコト明カナリ而シテ同人ハ本件ニ付曾テ訴ヲ受ケ其證憑十分ナラストシテ免訴ノ言渡ヲ受ケタルモノナレハ其證人タルノ資格ナキハ勿論ナルモ其調書ヲ參考人ノ供述トシテ採用テ採テ斷罪ノ資料ニ供スルハ違法ニアラサルヲ以テ上告論旨ハ其理由ナシ「同第六點ハ原判文ニ公訴費用ニ關シテハ刑法第四十五條ニ據リ被告ノ負擔トストアリテ刑事訴訟法第二百一條

ヲ適示セサルハ法則ヲ適用セサル違法ノ判決ナリト云フニアレトモ○刑法第四十五條ヲ適用シタル以上ハ更ニ刑事訴訟法第二百一條ヲ明示スルヲ要セサルノミナラス裁判費用ノ負擔ハ刑ノ言渡シニアラサルヲ以テ法律ノ理由ヲ付スルニ及ハサルモノナリ因テ本論旨モ亦其理由ナシ第一回上告辯明書ノ第一點ハ青柳辯護士ノ擴張論旨ニ對スル説明ニ讓ルヲ以テ就テ了解スヘシ同第二點同第五點同第六點ハ上告第二點同五點同第六點ノ論旨ヲ反覆陳辯スルニ過キサルヲ以テ重子ヲ説明ヲ與ヘス同第三點ハ原院カ有田楠平ノ豫審調書ヲ有罪ノ證據トシテ指示セラレタルモ同人ハ刑事訴訟法第二百二十四條第六項ノ該當者タル増田梅次ノ親屬ナルコトハ一件書類ニ徴シテ明瞭ナルニモ拘ラス豫審廷ニ於テ刑事訴訟法第二百二十三條第二項ヲ適用シ證人トシテ取調ヘ其供述ヲ採テ確實ナル證據トシテ有罪ト斷定シタルハ前條ヲ不當ニ適用シテ被告ニ不利益ヲ與ヘタル違法ノ裁判ナリト云フニアレトモ○刑事訴訟法第二百二十四條第六項ハ其明文ノ如ク現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ニ付キ曾テ訴ヲ受ケ其證憑十分ナラサルニ因リ免訴ノ言渡シヲ受ケタル者ハ證人トナルコトヲ許サルノ規定ニシテ其免訴トナリタル者ノ親屬マテナ包含セシムヘキ法意ニアラサルナリ本件ノ訴訟記録ヲ查閱スルニ證人有田楠平ハ曾テ本件ノ被告人トシテ訴ヲ受ケ免訴トナリタル増田梅次ノ親屬タルニ過キスシテ自カラ被告トナリタルモノニアラサルナリ去レハ豫審判事カ右ノ楠平ヲ本件ノ證人トシテ訊問シタルハ違法ニアラサルヲ以テ原院カ該調書ヲ採テ斷罪ノ證ニ供シタルハ相當ナリトス同第四點同第八點ハ前項即チ第三點論旨ト准其親屬ノ氏名ヲ異ニスルノミニシテ其趣旨ハ同一ニ歸ス

ルヲ以テ第三點ニ對スル説明ニテ了解スヘシ同第七點ハ原院カ第一審ニ於テ三谷長ノ豫審調書ヲ唯一ノ證據トシテ斷罪ノ資トナシタルヲ相當ノ裁判トシテ判決シタルハ刑事訴訟法第二百二十三條ニ違背シタル不法ノ裁判ナリトス何トナレハ三谷長ハ豫審廷ニ於テ被告ノ妻タルヲ以テ證人トナス參考人トシテ取調ヲ爲シタルニモ拘ラス第一審カ同人ノ供述ヲシテ直ニ採テ斷罪ノ證據トシタルハ前第二百二十三條ニ違背シ且探證法ヲ誤リタル不法ノ判決ナルコト明瞭ナリト云フニアレトモ○第一審判決ヲ查スルニ其證憑ハ證人云々參考人三谷長云々ノ豫審調書トアリテ證人ノ調書トシテ採リタルニアラサルコト明白ナリ而シテ參考人ノ調書ヲ採テ罪證ニ供スルハ違法ニアラサルヲ以テ原院カ第一審判決ヲ是認シタルハ不當ナリト云フヲ得ス同第九點ハ第一審判文ヲ閱スルニ訴訟費用ニ關シ刑事訴訟法第二百一條ノミヲ適用シテ刑法第四十五條ヲ適示セサルハ刑事訴訟法第二百六十八條第二項ニ依リ法則ヲ適用セサル違法ノ判決ナリト云フニ在リテ○單ニ第一審ノ判決ヲ批難スルニ過キサルハ上告適法ノ理由トナスヲ得ス同第十點ハ同辯明書ノ第三乃至第五及ヒ第七第八ノ論旨ヲ反覆陳辯スルニ過キサルヲ以テ重子ヲ説明ヲ與フルノ要ナシ第二回辯明書ノ第一點ハ第一審判文ヲ閱スルニ明治二十九年十二月二十一日第一審公廷ニ於テ判事田中誠夫ハ陪席判事トナリ有罪ノ判決ヲナシタレトモ同判事ハ本件ニ付豫審廷ニ於テ三谷長ヲ參考人トシテ取調ヲ爲シタルコト明瞭ナルニモ拘ラス本案ノ陪席判事トナリ被告ニ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ刑事訴訟法第四十條ニ依リ本判決ハ無効ナルニ原院ニ於テモ違法ノ裁判タルコトヲ確認シナカラ第一審判決ヲ認可シ被告

ノ控訴ヲ棄却シタルハ同條ノ第四ニ違背スル不當ノ裁判タルヲ免レスト云フニアレトモ○訴
 訟記録ヲ査スルニ本件ノ陪席判事タリシ田中誠夫カ豫審廷ニ於テ參考人三谷長ヲ訊問シタル
 事跡アルコトハ上告人所論ノ如クナルモ刑事訴訟法第四十條第四項ハ判事其事件ノ豫審終結
 ニ關與シタルトキト明記シアレハ其事件ノ豫審終結ニ關與セサルモノハ本條項ニ依リ職務ノ
 執行ヨリ除外セラルヘキモノニアラス故ニ判事田中誠夫カ本件ノ陪席判事トシテ其審判ニ立
 會タルハ違法ニアラサルヲ以テ原院カ第一審判決ヲ認可シタルハ不法ニアラス
 青柳辯護士上告擴張ノ要旨ハ凡ソ監守盜罪ノ成立スルニハ自ラ監守スル職責アル官吏カ其金
 穀物件ヲ竊取スルヲ要ス若シ監守ノ職責ナカラシテ他ノ犯罪ノ成立スルハ格別所謂監守盜罪
 ノ成立スルナキナリ蓋シ一般ノ逕査ハ遺失物ヲ監守スルノ職責ナク其人民ヨリ遺失物拾得ノ
 届出アルニ方リテハ之ヲ監守スルノ職責アル當該官吏ニ之ヲ取次クニ過キサルモノナレハ假
 令其遺失物ヲ竊取スルモ直ニ監守盜ナル罪名ヲ以テ論スヘキニアラサルナリ若シ夫レ被告職
 勇ニシテ監守スルノ職責アリトセンカ須ラク判文ニ其職務上監守ノ責アル理由ヲ明示セサル
 ヘカラサル筋合ナルニ原院判決ハ唯被告職勇ハ高知縣逕査ノ職ヲ奉シ云々之ヲ本屬警察署ニ
 送致ノ手續ヲ爲サス竊カニ盜取シタルモノナリトアリテ果シテ監守ノ職責アリヤ否ヲ知ル能
 ハス之レ理由不備ノ判決ニアラサレハ則擬律ニ錯誤アルヲ免レサルモノナリト云フニアレト
 モ○逕査ニ於テ職務上遺失物ヲ領收シ之ヲ當該官署ニ送致スルマテハ間ハ其物件ニ對シ監守
 ハ責任アルハ當然ナルニ依リ判文上殊ナク其職責アル理由ヲ明記スルヲ要セハ故ニ原院判

決ハ理由ニ不備且擬律ニ錯誤ノ點アルコトナシ因テ擴張論旨ハ上告適法ノ理由ナシ
 右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス
 明治三十年五月十八日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢察岩野新平立會宣告ス

○詐欺破産等ノ件 明治三十年第四〇〇號
 明治三十年五月十八日宣告

○判決要旨

(判旨第三點) 會社ノ業務擔當社員ヲ詐欺破産ノ刑ニ處スルニ當リ商法第千五
 十二條ヲ適用セサル判決ハ擬律錯誤ノ不法アリ

(參照) 前二條ノ罰則ハ商事會社ノ業務擔當ノ任アル社員若クハ取締役及ヒ清算人ニ
 モ之ヲ適用シ又第千五十條ノ罰則ハ破産管財人及ヒ有罪行為ヲ行フ際犯者ヲ助ケ又
 ハ有罪行為ヲ破産者ノ利益ノ爲メニ行ヒタル者ニモ之ヲ適用ス(商法第千
 (判旨第三點) 會社ノ書記ハ會社ノ雇人ニシテ業務擔當社員ノ雇人ニアラス

第一審 岡山地方裁判所 第二審 大阪控訴院
 業務擔當社員ノ詐欺破産罪ノ擬律○會社ノ書記

被告人 吉本保 辯護人 守屋此助

右吉本保カ詐欺破産過怠破産詐欺被告事件ニ付明治三十年四月八日大阪控訴院ニ於テ岡山地方裁判所ノ判決ニ對スル被告ノ控訴ヲ審判シ原判決ヲ取消シ更ニ被告保ヲ重禁錮三年ニ處ス押收ノ帳簿書類ハ各差出人ニ還付ス公訴裁判費用ハ岡野莞爾ト連帶負擔スヘシト言渡シタル第二審ノ判決ニ服セス被告人ハ上告ヲ爲シタルニ因リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ被告辯護人守屋此助ノ辯論及ヒ立會檢事岩野新平ノ意見ヲ聽キ審理ヲ遂クル處
 上告ノ要旨ハ第一原判決ハ擬律ノ錯誤アル不法ノ判決ナリ抑モ保險事業ナルモノハ商法第六百二十五條ニ明示スル所ニシテ此契約ニ必要ナル條件ハ保險者カ被保險者ヨリ保險料ヲ受クル代リニ或ル場合ニ於テ被保險者ニ賠償ヲ爲ス義務ヲ負擔スルニ在リ然ルニ上告人ノ爲シタル事業ハ原院ノ認メタル如ク其保險者ト稱スル上告人ハ被保險者ト稱スル團員ヨリ保險料ヲ受ルコトナク又保險金ヲ負擔スルコトナク單ニ團員中ニ或ル事故ノ發生スルモノアル毎ニ他ノ團員ヨリ金員ヲ醜集シテ之ヲ交付スキヘ義務ヲ負擔スルニ過キスシテ團員各自保險者トナリ又被保險者トモナリテ上告人ハ其中間ニ立テ手数料ヲ受ケテ其周旋ヲ爲スモノナレハ上告人ハ保險事業ヲ營ミタルニ非スシテ恰モ一種ノ取退キ無盡講ノ如キモノヲ企テ其世話人トナシタルニ異ナラス然ラハ則チ上告人ノ所爲ハ保險契約ニ必要ノ條件一モ具備スル所ナキヲ以テ決シテ保險事業トナスコトヲ得サルヤ明カナリ果シテ保險事業ニ非ストモハ別ニ他ノ商業ト看做スヘキ廉ナキモノナルニ上告人ハ之ヲ以テ保險業ト誤認シテ商法ニ從ヒ登記ヲ受ケル

手續ヲ爲シ裁判所モ亦保險業ト誤認シ登記公告ノ手續ヲ爲シ又其支拂ヲ停止スルニ至リ裁判所ハ商業ニ非サル上告人ノ所爲ヲ商業取引上ノ支拂停止トシ破産ノ決定ヲ爲シタルハ何レモ誤認タルヲ免カレス其誤認ノ爲メニ上告人ノ所爲カ法律上商業ト看做サルヘキノ理ナシ而シテ商法第二百六十二條第五十條ハ尙レモ商事會社若クハ商人ニ適用スヘキ法律ニシテ非商業者ニ適用スヘキモノニ非ス故ニ原院カ保險業ニモ非ス又他ノ商業ニモ非サル上告人ノ所爲ヲ認メナカラ右法條等ニ間擬シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○保險契約ハ特ニ商法第六百二十五條ニ記載シタル條件ノミニ限ルモノニ非スシテ其社員相互ノ保險ヲ目的トシテ設立シタルモノモ亦保險會社ト認メサルヘカラス本件被告カ設立シタル會社ノ如キハ即チ社員相互ノ保險ヲ目的トシタルモノナレハ純然タル保險會社ニシテ之ヲ保險ノ業ニ非ス又他ノ商業ニモ非スト云フヲ得サルヤ論ヲ俟タス原判決ニ於テ被告ノ所爲ヲ以テ商法ノ規定ニ違反シタル犯罪ナリトシ商法第二百六十二條同第五十條ヲ適用シ處斷シタルハ相當ニシテ毫モ違法ノ點ナキモノトス」第二原判決第一ノ事實理由中被告保險人ヨリ申込ノ際甲乙二種ノ區別ニ從ヒ一定ノ手数料ヲ支拂ハシムル事團員ノ出金中ヨリ幾分ヲ會社ニ収ムル事及ヒ團員中出金セサル者アルトキ會社ヨリ之ヲ補充スル事ノ三點ハ第一審判決ノ認メサル事實ニシテ原院ノ新ニ認定シタル所ナレハ第一審ノ事實認定ニ誤謬アリトスルトキハ之ヲ取消サハルヘカラサルモノナルニ原院ハ第一審判決中第三ノ所爲ニ對スル法律適用ヲ不法ナリトシ單ニ此點ヲ取消シ第一ノ事實認定雙方異ナル所アルニ拘ハラヌ之ヲ不問ニ付シタルハ法則ヲ適用セサ

ル不法ノ判決ナリ又一方ヨリ論スレハ理由ノ齟齬ヲ免レス何トナレハ前陳ノ如ク第一ノ事實ニ付第一審ト其認定ヲ異ニスルニモ拘ハラス原判文ニ原裁判所カ前記ノ事實ヲ認メ前記ノ法條ヲ適用シタルハ相當ナルモ云々ト判定シ第一ノ事實理由雙方同一ナルカ如ク判定シタルハナリト云フニ在レトモ

○原判文ニ記載シタル第一ノ事實ハ第一審判文ニ書畧シタル點ヲ詳記スルニ過キスシテ其事實ノ認定ヲ異ニシタルモノニ非ス且被告カ設立シタル會社組織ノ方法如何ノ如キハ本件犯罪ノ成立ニ影響ナキモノナレハ其事實ニ詳畧ノ差異アルモ之ヲ以テ第一審判決ヲ取消スノ理由ト爲スコトヲ得サルモノトス要スルニ原判決ハ理由齟齬等違法ノ點アルモノニ非ス

第三上告人ニ對シ商法第千五十條其他ノ法律ヲ適用シテ詐欺破産ノ刑ニ處スルニハ商法第千五十二條ヲ適用セサルヘカラス何トナレハ第千五十條ハ普通ノ商人ヲ罰スヘキ法條ニシテ之ヲ會社ノ業務擔當社員若クハ取締役ニ適用スルハ第千五十二條ノ定ムル處ナレハナリ然ルニ原判決カ右法條ヲ適用セサルハ不法ナリト云フニ在リテ

○本論旨ハ正當ノ理由アルモノニシテ原判決ニ於テ商法第千五十二條ヲ適用セザリシハ疑律ハ錯誤アル違法ハ判決タルカ免カレサルモノトス其擴張書ノ要旨ハ原院ニ於テ平野龍男ノ證言ヲ採用セラレシハ不法ナリ龍男ハ被告カ業務ヲ擔當スル元岡山簡易保險合資會社ノ書記ニシテ即チ被告ノ雇人タルコトハ其擴張書ニ明記スル所ナレハ法律上證人タルノ資格ナキ者ナルニ之ヲ證人ト爲シ且其陳述ヲ採用セシハ共ニ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ

○會社ハ書記ハ會社ハ雇人ナルモ其業務擔當社員タル被告ハ雇人ニ非サルハ論テ候タス故ニ平野龍男ヲ證人ト爲シ其證言ヲ採用シテ斷罪ノ資料ニ供シタルハ相當ナリ依テ上告第三點ノ外總テ適法ノ理由ナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第百八十六條第百八十七條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

判旨第三點

判旨第四點

吉 本 保

原判決ニ明示シタル事實ニ依リ之ヲ法律ニ照スニ第一第二ノ所爲ハ共ニ商法第百六十二條第二ニ該リ第三ノ所爲ハ同第千五十條第千五十二條及ヒ明治二十三年法律第百一號第一ニ該ル處原諒スヘキ情狀アルヲ以テ刑法第八十九條第九十條ニ照ラシ各本刑ニ一等ヲ減シ數罪俱發スルヲ以テ同第百條ニ照シ一ノ重キ第三ノ罪ニ從ヒ被告人ヲ重禁錮三年ニ處ス押収書類選付及ヒ裁判費用負擔ノ言渡ハ原判決ノ通りタルヘシ

明治三十年五月十八日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○官文書變造行使ノ件

明治三十年第四一三號
明治三十年五月十八日宣告

○判決要旨

前審ノ裁判〇監視票ノ性質

(判旨第一點) 關席判決ハ故障ヲ申立タル裁判ノ前審ニアラス
(判旨第五點) 監視票ハ官文書ナリ

第一審 山口地方裁判所 第二審 廣島控訴院

被告人 福山久藏

右久藏カ官文書變造行使被告事件ニ付明治三十年四月十六日廣島控訴院ニ於テ山口地方裁判所ノ判決ニ對スル被告ヨリノ控訴ヲ審理シ本件控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタル判決ヲ不法ナリトシ被告ハ上告ヲ爲シ原院檢事ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告要旨ノ第二點ハ抑モ本件第一審ノ裁判ハ刑事訴訟法第四十條第四項ニ違背シタル不法ノ裁判ナリ何トナレハ山口地方裁判所判事大宅伊敏ハ本件第一審裁判ノ副席判事ナリ然ルニ同判事ハ蓋ニ明治二十九年十一月二十四日日本件ノ關席裁判ニ干與シタルニモ拘ラス其故障ヲ受理シタル裁判ニモ亦干與シタルモノナレハ第一審裁判ハ法律ニ違背シタル判決ナリ然ルニ原院ニ於テ第一審判決ヲ相當ナリトセラレタルハ刑事訴訟法第二百六十九條第二項ニ相當スル上告ノ理由アリト思考スト云フニ在レトモ ○關席判決ハ其故障ヲ申立タル裁判ハ前審ト稱スヘキモノニアラサルヲ以テ大宅判事カ本件ハ關席判決ト其故障ヲ受理シタル對審判決トニ干與シタルハ法律ニ違背シタル者ト云フヲ得サルヲ以テ原院カ第一審判決ト是認シタルハ違法ニ非ス同第二點ハ要スルニ第二審判決ニ於テ被告ハ豫テ赤間關警察署ヨリ下附セラレタル監

判旨第一點

監視票ヲ變造シタルモノト認定セラレタルモ其何レノ日時何レノ場所ニ於テ變造シタルモノナルヤノ明示ナシ之レ所謂事實理由ノ不備ナル不法ノ判決ニシテ刑事訴訟法第二百六十九條ノ第九ニ該當スル上告ノ理由アリト思考スト云フニアレトモ ○本件ノ如キ官文書ノ變造ハ之ヲ行使ニ依テ其罪ヲ罰スルモノナリ而シテ原判決ニハ其之ヲ行使シタル日時場所ヲ明カニ判示シアルヲ以テ事實ノ理由ニ不備アルト云フヲ得ス同第三點ハ原判決ハ本件監視票ノ裏面初年八月上欄ニ十五日ノ文字ヲ記入シ之ヲ三年八月十五日ニ充テ行使シタリトアルモ之レ事實ニアラス殊ニ行使ノ有無ハ本件有罪無罪ノ決スル處ナレハ輕卒ニ看過スヘカラサルモコト事實ニ屬シ上告ノ理由トナラサルヲ以テ假リニ原院認定ノ如クナリトスルモ決シテ罪ヲ構成セス何トナレハ監視票裏面初年ハ二十七年ニシテ三年ハ二十九年ナリ然ルニ原院ハ初年八月上欄ヲ三年八月上欄ニ充テ行使シタリト判定セラレタレトモ廿七年八月ノ欄ヲ廿九年八月ノ欄ニ行使ス可カラサルハ尙ホ木ニ倚リテ魚ヲ求ムルノ理由ニシテ到底爲シ能ハサル不能ノ所爲タルコト明カナリ抑モ該所爲タル二十七年ト二十九年トハ年號文字ノ異ナルノミナラ實際ノ監視票ニ就テ之ヲ見ルモ二十七年ト二十九年トノ間ニハ二十八年度ノ欄ヲ狹ミ居リ殊ニ二十七年八月ハ上告人カ蓋キニ手形偽造罪ノ本刑執行中ニシテ監視ノ期限外ナリ故ニ二十七年八月上欄ニ十五日ノ文字ヲ記入シ之ヲ二十九年八月ニ充テ行使シタルハ刑法第二百三條第一項ニ該ルトノ原判決ハ未タ審理ヲ盡ササル裁判ニシテ疑律錯誤ノ著明ナルモノナリト云フニアレトモ ○原判決ニ依レハ(前略)右監視票ノ一部ヲ變造シテ監視規則違犯ノ罪ヲ免レント企テ前顯

初年八月上欄ノ認印ヲ抹消シタル墨線ヲ摺消シ其傍ラニ十五日ノ三字ヲ記入シ以テ之ヲ明治二十九年八月十五日出頭ノ認印ノ如ク變造シ云々トアリ而シテ其變造ノ文字個所及ヒ年月日ヲ認定スルカ如キハ即チ承審官ノ職權ニ屬スルモノナルヲ以テ上告論旨ハ要スルニ原院ノ職權ニ特任セル事實認定ノ當否ヲ論難スルモノニ外ナラサルヲ以テ上告適法ノ理由ナシ同第四點ハ要スルニ監視票ハ毎月二回之ニ檢印ヲ受クヘキモノナレハ月ノ上下二欄ニ檢印アリテ始メテ監視ヲ了シタリト云フヲ得ヘキモ本案ノ如ク上欄空欄ナルトキハ其下欄ノミヲ變造スルモ何等ノ効力ヲ生スヘキモノニアラス故ニ被告ノ所爲ハ無効犯ナリト云フニアレトヒ○監視ノ檢印ハ一回毎ニ其効ヲ生スルハ固ヨリ論ヲ俟タス況ンヤ本件ノ如キハ明治二十九年八月十五日ノ檢印ハ初年八月上欄ニ之ヲ受ケン如ク變造シタリトノ事實ヲ認定シアレハ空欄ナリト云フヲ得ヘカラサルニ於テヤ因テ本論旨モ亦上告適法ノ理由ナシ同第五點ハ要スルニ監視票ハ官文書ノ性質ヲ有スル文書ナルモ本件變造行使ノ所爲タル決シテ刑法第二百三條第一項ヲ適用スヘキモノニアラス何トナレハ警察署ニハ官文書ナル監視票張アリテ被監視人カ出頭ノ都度該帳簿ニ依リ調査スルモノニシテ監視票ヲ主トスルニアラサルヲ以テ監視途犯罪ヲ免レンカ爲メ監視票ヲ變造スルモ亦何ノ効カアラン殊ニ監視票ナルモノハ被監視人ト警察署ノ間ニ往復スル文書ニシテ之ヲ以テ他人ヲ欺クノ用ニ供スル途ナシ而シテ警察署ハ常ニ監視票帳ニ因リ其處分ヲナスモノナレハ監視表ヲ變造スルノ極之カ効用ヲ警察署ニ對シ試ミント欲スルモ得ヘカラサル所爲ニシテ不能犯ニ歸スルヤ明カナリ故ニ監視票ヲ變造スルモ官文書變

判旨第五點

造罪ヲ構成スヘキモノニアラス然ルニ第一二審共之ヲ有罪トセラレタルハ擬律錯誤ノ甚クシキモノナリト云フニ在レトモ○抑モ監視票ナルモノハ法律ノ規定ニ依リ所轄警察署ヨリ被監視人ニ下付シ以テ監視執行ノ濟否ヲ検査スルニ必要ナル文書トナシタルモノナレハ即チ官文書ナルヲ以テ之ヲ變造スレハ官文書變造罪ヲ構成スルハ勿論ニシテ上告論旨ハ其理由ナシ上告聲明書ハ之ヲ數項ニ分チ縷々論述シアルモ要スルニ檢事ノ答辯ヲ辯駁シ上告論旨ヲ反覆敷衍スルニ過キササルヲ以テ重子テ説明ヲ與ヘス以上ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ從ヒ本件上告ヘ之ヲ棄却ス明治三十年五月十八日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○取引所法違犯ノ件

明治三十年第四二九號
明治三十年五月二十一日宣告

○判決要旨

甲者ノ被告事件ニ付適法ニ成立シタル證人訊問調書ハ爾後ニ至リ訴追セラレタル乙者ノ被告事件ニ對シテモ仍ホ證據力ヲ有ス(明治二十九年第一二七七號
證人訊問調書ノ効力)

第一審 大阪地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 鍛冶田松之助 辯護人 花井卓藏

右松之助カ取引所法違犯被告事件ニ付明治三十年四月十七日大阪控訴院ニ於テ大阪地方裁判所カ裁告松之助ヲ罰金百五十圓ニ處ス押收ノ書類ハ差出人ニ還付スト言渡シタル判決ニ關スル被告ヨリノ控訴ヲ審理シ本件控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタル判決ヲ不法ナリトシ被告ハ上告ヲ爲シ原院檢察ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ辯護士花井卓藏ノ辯論立會檢察安居修藏ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

上告要旨ノ第一點原判決ハ本件ニ付被告人ニ於テ果シテ密賣買ノ意思アリヤ否ヤノ理由ヲ明示セズ抑モ意思ハ犯罪成立ノ要件ナレハ設令取引所外ニ於テ取引ヲ爲スモ其意思ニシテ密賣買ニ出サル以上ハ犯罪ヲ構成スヘキモノニアラス之ヲ要スルニ意思ノ存否ハ罪ノ成否ヲ定ムヘキ唯一ノ標準ナリ然ルニ原判決ハ一言ノ意思ノ有無ニ及ヘルヲ見ス夫レ所爲ハ意思ヲ以テ推測ストハ今日ノ法理ニアラサルナリ故ニ取引所外ニ於テ賣買ヲ爲シタリトノ事實ハ未タ以テ被告人ニ密賣買ノ意思アリト推測スルニ足ラストセハ須ク判決ニ密賣買ヲ爲ス意思ノ有無ヲ明示スルコトヲ要ス然ルニ原判決ニ其明示ナキハ裁判ニ理由ヲ附セサル不法アリト云ヒ同第二點原判決ハ買方タル被告人ニ於テ密賣買ノ意思ナシトノ事實ヲ認メタルカ故ニ意思ノ有

無テ表彰セサリシモノト假定セン乎之レ明カニ犯罪成立ノ條件ヲ缺如セルモノナリ果シテ然ラハ刑事訴訟法第二百二十四條ノ法則ニ基キ無罪ヲ言渡サ、ル可カラス然ルニ原院ノ處措茲ニ出サルハ擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ナリト云フニアレトモ○明治二十六年法律第五號取引所法第二十五條ヲ案スルニ同條ニハ、取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲スヲ得ストアリ茲ニ原判決ヲ查スルニ、被告英一松之助ハ云々被告英一ノ仲買店タル大阪北區堂島濱通一丁目百七十四番屋敷即チ取引所外ニ於テ取引所ノ取引ニ類似ノ方法ヲ以テ米一萬四千石ヲ數十度ニ賣買シタリトノ事實ヲ明示シアレハ犯罪ノ意思アルコトハ明瞭ナルヲ以テ原院判決ハ理由不備且擬律ニ錯誤ナキニ因リ總テ上告適法ノ理由ナシト上告擴張書ハ喋々辯述シアルモ要スルニ上告第一二點ノ趣意ヲ反駁陳辯スルニ外ナラサルヲ以テ重子テ説明ヲ與ヘス

花井辯護士上告擴張書要旨ノ第一點ハ原院ノ公判始末書ヲ查閱スルニ印願ノ輪廓ノ如キ影跡アルモ文字不明ニシテ果シテ所屬廳ノ官印ナリト認ムルコト能ハス從テ其結果廳印ヲ欠如スルト同一ニ歸着セサルヘカラス抑モ公判始末書ハ公判中ノ總テノ關係ヲ審明スヘキ唯一ノ記録ナリ然ルニ該公判始末書ニシテ斯ル欠點アル以上ハ其裁判所ノ構成並ニ審理手續ノ當否等ヲ鑑査スルニ由ナク原判決ハ爰點ニ於テ破毀ノ原由アルモノト信スト云フニアレトモ○原院公判始末書ヲ查スルニ其末葉ニ押捺シアル印影ハ本按第二審ノ判決ヲ爲シタル大阪控訴院ノ印章ナルコトハ其印跡ニ徴シ認メ得ヘキニ依リ上告論旨ハ其理由ナシ同第二點ハ原判決ハ證人

證人訊問調書ノ効力

阪根正夫ノ豫審調書ヲ以テ斷罪ノ資料ニ供セリ然ルニ同人ノ豫審調書ヲ査閱スルニ被告荒木英一ニ對スル證人資格ノ有無ヲ訊問シタルノミニシテ且其宣誓書アル耳ナリ而シテ鍛冶田松之助トノ關係ニ至テハ絶テ之ヲ問查セサルノミナラス宣誓チモナサシメサルナリ果シテ然ラハ同人ノ證人トシテノ豫審調書ハ鍛冶田松之助ニ對シ何等ノ効力ナキニモ拘ラス輒スク探テ斷罪ノ證ニ供シタルハ不法ナリト云フニアレヒ○訴訟記録ヲ査スルニ本件ノ證人タル坂根正夫カ荒木英一ノ取引所法違犯被告事件ニ付證人トシテ豫審判事ノ訊問ヲ受ケタルハ明治二十年九月十九日ナルコトハ其調書ニ徴シ明カナリ而シテ上告人松之助カ同事件ノ證人トシテ豫審判事ノ訊問ヲ受ケ證人調書ヲ作成セラレ又上告人松之助ニ取引所法違犯ノ罪アリトシテ檢事ヨリ起訴アリタルモ亦同日ナリ然レトモ坂根正夫カ英一ノ證人トシテ訊問ヲ受ケル際ニハ上告人松之助ハ未タ本件ノ被告人トナリ居ラザリシコトハ證人坂根正夫ノ豫審調書中豫審判事カ證人ト荒木英一トノ身分上ノ關係ノミヲ問查シ同人ノ證人トシテ訊問スル旨ヲ告ケ宣誓セシメタル上ニテ訊問シタルコトヲ明記シアレハ坂根正夫カ證人タル點ニ於テ毫モ缺カレ處アルコトナシ去レハ正夫カ右ノ訊問ヲ受ケタル後ニ於テ上告人松之助カ英一ハ共犯人トシテ訴訟セラレタレハトテ其以前ニ於テ正當ニ作成セラレタル證人調書ハ効力ヲ失スルモハニテハ然ラズ以テ原院カ坂根正夫ノ豫審調書ヲ證人ノ調書トシテ探テ本件斷罪ノ資料ニ供シタルハ違法ニアラス○同第三點ハ原判決ハ被告ノ所爲ヲ大阪米穀取引所ノ相場ヲ標準トシ數十度ニ賣買シタルモノナリト認定シ此事實ヲ以テ取引所法第二十五條ニ違背シタルモノト説明セ

ラレタリ然レトモ同條ニハ「取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得スト」アリ而シテ原院カ認定シタル大阪米穀取引所ノ相場ヲ標準トシ數十度ニ賣買シタル所爲ハ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ト云フヲ得スシテ唯其相場ノ標準チ同クシタリト云フニ過キス則チ原判決ハ爰點ニ於テ事實ノ理由ト法律ノ適用ト互ニ相齟齬スル不法アリト云フニアレトモ○原判文ニ依レハ「被告等ハ米穀取引所外ナル荒木英一ノ仲賣店ニ於テ英一ハ賣方トナリ被告ハ買方トナリ被告ヨリハ證據金トシテ普通證據金ノ凡ソ半額ニ相當スルモノヲ英一ニ交付シ意思繼續シテ八月限り米一萬四千石ヲ大阪米穀取引所ノ相場ヲ標準トシ數十度ニ賣買シタルモノナリトアリテ其認メタル事實ハ取引所法第二十五條ニ所謂取引所ノ取引ニ類似ノ方法ナルコトハ勿論ナルニ付上告論旨ハ要スルニ原院ノ職權ニ屬スル事實認定ノ批難ニ外ナラサルヲ以テ上告適法ノ理由トナスヲ得ス

以上ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ則リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

但明治十九年勅令第四十六號ニ依リ上告豫納金ノ半額ヲ沒收ス

明治三十年五月二十一日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○取引所法違犯ノ件

明治三十年第四三四號
明治三十年五月二十一日宣告

○判決要旨

(判旨第三點) 仲買人ト雖モ取引所外ニ於テ賣買取引ヲ爲シタルトキハ當然取引所法第二十五條ノ違犯者トシテ制裁ヲ科セラルヘキモノトス

(參照) 取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス(取引所法第二十五條)

(判旨第五點) 取引所法ニ依リ處斷スヘキ犯罪ニシテ二人共犯ニ係ルトキハ刑

法總則ニ從フヘキモノナレハ同法第五條第二項ヲ適用スヘキモノトス

(參照) 若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサルモノハ此刑法ノ總則ニ從フ(刑法第五條第二項)

第一審 大阪地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 美濃川 榮助 辯護人 上田昇一郎

右兩名カ取引所法違犯被告事件ニ付明治三十年四月十三日大阪控訴院ニ於テ大阪地方裁判所ノ判決ニ對スル被告人ノ控訴ヲ審理シ原判決中被告榮助ニ對スル部分ヲ取消シ更ニ被告榮助ヲ罰金二百五十圓ニ處ス被告善作ノ控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタル第二審ノ判決ニ服セス被

告兩名ハ上告ヲ爲シタルニ因リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ被告辯護人上田昇一郎ノ辯論及ヒ立會檢察事岩野新平ノ意見ヲ聽キ審理ヲ遂ケル處
被告兩名カ上告ノ要旨ハ第一原判決ニ被告善作榮助ハ共謀シト記載アルノミニテ如何ナル事ヲ何レノ場所ニ於テ共謀セシヤチ明記セス元來犯罪ノ成立ニ就テハ一定ノ場所及ヒ其方法等ハ必要ノ要素ニシテ場所方法ナクシテ單ニ共謀ノ事實アルヘキ理由ナキノミナラス善作自店ニ於テ其意思ヲ繼續實行ノ場所等チ明記セシモ其前共謀ノ事實ニ付方法場所等ノ記載ナキハ理由不備ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判文ニ被告兩名共謀シ云々ノ事ヲ爲シタリトアリテ其下文ニ記載シアル行爲ヲ共謀シタルモノナルヤ明瞭ナリ而シテ犯罪實行ノ方法場所等チ明記シタル上ハ其前共謀ノ場所等ハ之ヲ舉示スルノ必要ナキモノトス(第二原判決第一乃至第四ノ行爲ハ景山磯吉ヨリ山陽鐵道株其他ノ鐵道株ヲ買受ケ第五ノ行爲ハ鐵道株ヲ磯吉ニ賣渡シトアルモ右ハ如何ナル書類及ヒ何人ノ申立ニ依リ如此事實ヲ掲ケラレシヤ實ニ誤認ノ甚シキモノナリ本件ノ取引ハ被告ト景山ト直接ノ賣買ニ非スシテ被告ハ景山ノ依託ヲ取扱ヒタルニ過キサルコトハ明瞭ニシテ若シ被告ノ行爲上受託取扱ヒノ事實ナキニ於テハ賣買成立セサルモノナレハ賣買取扱ノ事實ナキニ歸ス被告ハ賣買取扱ヲ正當ニ履行セシモ原院ニ於テ取扱ヒナキモノト認定セラレ全然取扱ヒノ事實ナキモノナルニ取引所法第二十五條ヲ適用セラレタルハ失當ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○要スルニ裁判官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キスシテ適法ノ理由ナキモノトス(第三取引所法第二十五條ノ精神ハ被告善作ノ如キ取引所外ノ賣買取引○取引所法違犯ノ共犯

判旨第三點

正當仲買人ヲ支配スヘキモノニ非スシテ仲買人以外ノ者カ仲買人ノ爲スヘキ株式賣買取引ヲ爲シタル場合ヲ制裁セシモノニ外ナラス取引所ノ定期取引仲買人カ正ニ爲スヘキ行爲ニシテ仲買人ナクシテ取引所ノ定期取引成立スヘキ理由ナシ故ニ仲買人ナル被告善作ニ對シ該條ヲ適用セシハ不法ナリト云フニ在レトモ〇取引所法第二十五條ニ取引所外ニ於テ云々賣買取引ヲ爲スコトヲ得ストアリテ取引所内ノ取引ハ仲買人ノ爲スヘキ業務ナルモ取引所外ニ於テ之ヲ爲シタルトキハ當然同條ノ制裁ヲ受クヘキモノナルヲ論テ俟タス故ニ被告等ノ所爲ニ對シ同條ニ違背スルモノト斷定シタルハ相當ノ判決ナリ第四原判決ニ說明セラル、第一乃至第五ノ所爲ハ取引所法第二十五條ニ違背セル所爲ナリヤ否ヤ被告カ鐵道株券ヲ景山磯吉ト賣買ノ合意ヲ爲シタリトテ合意カ何故ニ右第二十五條ニ違背スルカ此合意ハ法律ノ禁制スル行爲ニ非サルナリ此行爲ヲモ禁制スルモノトセハ期限ヲ付シテ株券ノ賣買ヲ爲シタルモノハ皆同條ニ違背スルト云ハサルヘカラス危險モ亦甚シカラスヤ同條ハ同法第十九條ニ基ケル勅令ノ方法ニヨリテ取引所外ニ於テ取引スル事ヲ禁スルモノタルニ外ナラス左レハ原判決ノ說明スル事實ニ於テハ被告ハ犯罪行爲アラサルニ同法第三十二條ヲ適用シタルハ疑律ノ錯誤ナリ第五若シ被告ノ所爲ハ犯罪行爲アリトセンニハ其第一乃至第五ノ所爲何レノ點カ取引所ノ定期取引ニ類似スルヤナ説明セサルヘカス然ルニ其事實ノ理由ヲ闕キタルハ不法ノ判決ナリト云ニ在レトモ〇被告等カ大阪株式取引所ノ定期株式賣買相場ヲ標準トシ取引所外即チ被告自店ニ於テ同取引所ノ取引ニ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲シタル事實ハ原判決文ニ明示スル所ナレ

判旨第五點

ハ其行爲ハ取引所法第二十五條ニ違背シタモノナルヲ論テ俟タス而シテ鐵道株券五月限リ又ハ六月限リノ賣買ヲ爲シタルハ即チ定期取引類似ノ取引ナレハ既ニ此事實ヲ記載シアル上ハ犯罪成立ノ理由明白ニシテ其他別ニ定期取引類似ヲ説明スルノ必要ナシ要スルニ原判決ハ疑律錯誤若クハ理由ヲ付セサルノ不法アルコトナキモノトス其上古據張書ノ要旨ハ原判決ノ法律適用ニ刑法第五條第二項ヲ引用セラレシモ同條ニハ第二項ナキノミナラス同條ハ教唆者ニ對スル法文ナレハ疑律ノ錯誤タルヲ明瞭ナリト云フニ在リ〇依テ之ヲ審按スルニ本件ハ取引所法ニ從テ處斷スヘキ犯罪ナルモ二人共犯ナルヲ以テ仍ホ刑法ノ總則ニ從フヘキモノナレハ刑法第五條第二項ヲ適用スルハ相當ナリトス然ルニ第五條ヲ適用シタルハ疑律ノ錯誤タルヲ免カレサルモノニシテ本論旨ハ適法ノ理由アルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條第二百八十七條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

美 濃 善 作
瀧 川 榮 助

原判決ニ明示シタル事實ニ依リ被告兩名ノ所爲ハ明治二十六年法律第五號取引所法第二十五條ニ違背シ同第三十二條ニ該當スルモ二人共犯ナルヲ以テ刑法第五條第二項同第四百四條ニ照シ被告兩名ヲ各罰金二百五十圓ニ處ス押收ノ書類ハ差出人ニ還付ス

明治三十年五月二十一日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

取引所外ノ賣買取引〇取引所法違犯ノ共犯

〇私印盗用等ノ件

明治三十年第四三九號
明治三十年五月二十一日宣告

〇判決要旨

(判旨第二點) 誣告罪ニ共犯アリ(明治三十年第四卷第二二二號誣告教唆ノ件第三輯第四卷五十一丁登載參看)

(判旨第五點) 同一ノ目的ヲ以テ同時ニ二通ノ證書ヲ偽造シ之ヲ同一ノ場所ニ

於テ同時ニ行使シタル所爲ハ一所爲ニシテ二所爲ニアラス

第一審 福島地方裁判所若松支部 第二審 宮城控訴院

被告人 中島庄次郎 辯護人 小島重太郎 岸本辰雄

右庄次郎カ私印盗用私書偽造行使及ヒ誣告被告事件ニ付明治三十年四月十日宮城控訴院ニ於テ福島地方裁判所若松支部ノ判決ニ對スル被告ヨリノ控訴ヲ審理シ原判決ハ之ヲ取消ス被告庄次郎ヲ重禁錮六月ニ處シ罰金四圓ヲ附加スト言渡シタル判決ヲ不法ナリトシ被告ハ上告ヲ爲シ原院檢事ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ辯護士小島重太郎同岸本辰雄ノ辯論立會檢事岩野新平ノ意見ヲ聽キ審理ヲ遂ケル處

被告カ上告第一點ハ原判決ハ被告ニ對シ私印盗用ノ所爲アリト認定セラレタレトモ被告カ其印ヲ盗用シタリトノ事實ハ明示ナク唯星善三郎ナル者カ其印ヲ盗用シタル點アルヲ以テ被告ニ盗用ノ所爲アリトセラレタルハ不當ナリト云フニアレトモ〇原判決ニ依レハ被告等ハ共謀上善三郎ヲ中島卯太郎方ニ遣ハシ同人ノ實印ヲ借受ケ其承諾ヲ得スシテ偽造ハ詭證二通ノ卯太郎ノ名下其他ノ要部ニ該印ヲ盜捺シ云々ト判示シアレハ被告ニ於テ自カラ其印ヲ押捺セサルモ私印盗用ノ所爲ナシト論争スルヲ得サルモノトス同第二點ハ喋々論述シアレモ要マルニ原院ハ被告ニ私書偽造ノ所爲アリト判定セラレタレトモ然ラス右ハ卯太郎平吉吉次郎善三郎等四名ノ間ニ成立セシ詭證ヲ以テ被告ニ對シ私印盗用私書偽造行使ノ罪アリト判決セラレタルハ不當ナリ同第三點ハ要スルニ原院ハ被告ニ誣告ハ所爲アリト判決セラレタレトモ被告ニ若シ誣告ハ所爲アリトセハ圓次ヘ對シ民事上賠償ノ責任及ヒ刑事上ノ責任アル吉次郎ハ處分セラルハコソ正當ナルニ之ニ反シ吉次郎ハ意思ヲ表示シタル委任狀ヲ受ケ殊ニ吉次郎ハ意思以外ニ一言一句不實ヲ告訴狀ニ記載セシ事ナキ訴外人ナル庄次郎ニ對シ誣告ハ所爲アリト判定セラレタルハ不法ナリ同第四點ハ要スルニ原院ハ被告ハ吉次郎ノ民事々件ノ敗訴ノ情ヲ知リツト代人ヲ爲シタリト認定セラレタルモ他ノ民事訴訟事件ト共ニ其情ヲ知ラスシテ引受ケタルモノナリ然ルニ原判決ノ理由中ニ六歩ノ謝金ニ迷ヒ代理シタリト爲シ伊關義衛ト被告庄次郎トノ兩名ニ對スル謝金ヲ被告一名ニテ受取ルモノトシテ認定セラレタルハ不當ナリ同第六點ハ中島卯太郎ハ愚直ニシテ欺キ易キヲ以テ云々ト判定セラレタルモ愚直ナル者ハ實印及

誣告罪ノ共犯〇偽造證書二通ノ行使

判旨第二點

金錢等ハ殊ニ大切ニスルモノナレハ容易ニ實印ヲ渡スモノニ之ナク故ニ合意上調印シタルモノト信スト云フニアレトモ〇右論旨中第三點ハ被告等共謀上不實ハ告訴狀ヲ作り誣告ヲ爲シタルハ事實ヲ認めアルヲ以テ誣告ノ所爲ナシト云フヲ得ス其他ノ論旨ハ孰レモ原院ノ職權ニ特任セル證據ノ取捨事實ノ認定ニ對シ徒ニ批難ヲ試ムルモノニ過キサルヲ以テ上告適法ノ理由ナシ同第五點ハ元相被告人タル平吉ハ民事原告人星吉次郎ノ弟タルヲ以テ刑事訴訟法第百二十三條第二項ニ依リ證人ノ資格ナキモノナレハ偽造罪成立セストシテ無罪ヲ言渡サレ之ニ反シ吉次郎ハ同法同條第一項ニ違背スルニモ拘ラス其證言カ偽證ナリトシテ偽造罪ヲ以テ處分セラレ其結果無責任ナル庄次郎ヲ誣告罪ニ處セラレ責任アル吉次郎ヲ無罪トセラレタル不法ノ第一審判決ヲ原院ニ於テ維持セラレ有罪ノ判決アリシハ最モ不當ナリト云フニアレトモ〇原判決ニ依レハ被告人カ人ヲ陷害スルノ目的ヲ以テ誣告ヲ爲シタルノ事實ハ明示シアルヲ以テ誣告罪ナシト云フヲ得ス同第七點ハ圓次ニ對スル告訴狀ノ第二號證即チ田部榮吉ヨリ中島庄次郎ニ宛タル端書ハ若松區裁判所ノ登記臺帳ノ寫ニシテ正確ナルモノニ付證據トシテ差出シタルニ原院ニ於テ該證據物ニ對シ理由ヲ付セサルハ失當ノ判決ナリト云フニアレトモ〇證據物件ニ付テハ判文上之レカ理由ヲ付スルヲ要セス況ンヤ該端書ハ原判決ニハ證據トシテ採用シアラサルニ於テチヤ因テ上告論旨ハ其理由ナシ

被告カ第一二回ノ上告趣意擴張書ハ據々陳述シアルモ要スルニ上告論旨チ敷衍シ結局被告ハ無罪ナルニ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ不當ナリト云フニ外ナラサルヲ以テ重子ヲ說明ヲ爲スノ

要ナシ

岸本小島兩辯護士上告擴張ノ第一點ハ原判決ニ依レハ上告人ノ證書ノ偽造ハ證書ニ通リ偽造シタルトスルモ其證書ハ同一證書ニシテ一ハ年月日ヲ記入シ一ハ其記入ナキノ差アルノミ而シテ其之ヲ偽造スルノ犯意實行共ニ一事實タルモノナレハ二罪ヲ組成シタルモノニアラス換言スレハ恰モ一時ニ數箇ノ紙幣ヲ偽造シ若クハ一時ニ數箇ノ物品ヲ竊取シタルト同シク二通ノ證書ヲ偽造シタルハ全ク一罪ノミチ成立シタルニ過キス若シ之ヲ以テ二個ノ偽造罪ヲ成立セシモノトセハ是レニ關聯スル私印盜用モ亦二ケノ盜用罪アリシモノト云ハサル可ラス然ルニ原院ハ之ヲ二罪ニ間疑シ各重禁錮四月云々ト言渡シタルハ不當ナリト云フニアリ〇因テ原判決ヲ查スルニ(前畧)依頼者平吉ト相謀リ中島外太郎ハ惡直ニシテ欺キ易キチ奇貨トシ同人ヨリ吉次郎代人星平吉宛ノ御諾證書ト題スル書面ヲ作り其文中云々ノ謝辭ヲ記シタル明治二十七年十月付ノ分ト月日ナキ分ト兩通ヲ偽造シ云々其明治二十七年月日付ノ諾證寫一通ヲ不實ノ事ヲ記載シタル告訴狀及ヒ吉次郎ノ告訴委任狀等ニ相添ヘ被告ヨリ若松支部檢事ニ告訴シタリ而シテ圓次ハ爲メニ詐欺取財犯トシテ訴追セラレ其豫審中同年二月四日吉次郎カ該件ノ證人トシテ同裁判所ヘ出廷ノ際右諾證寫二通ヲ同人ニ託シ豫審判事ニ差出サシメ以テ之ヲ行使シタルトアリテ該二通ハ偽造證書ハ同一ハ目的ヲ以テ同時ニ之ヲ偽造シ又同時ニ之ヲ同一ハ場所ニ行使シタルハ事實ヲ認めアルハ即チ一所爲ニシテ二所爲ニアラス然ルニ原院ニ於テ之ヲ二罪トナシ各自ニ法律ヲ適用シタルハ要スルニ上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判タルヲ免レ

判旨第五點

誣告罪ノ共犯〇偽造證書ニ通ル行使

ナルモノトス同第二點ハ原院ニ於テ偽造ノ証書ニ通ハ同法第四十三條第四十四條ニ依リ官ニ
 没收シ云々ト判示シタルモ其第四十三條第何號ニ據リタルヤテ明示セサルハ法律上ノ理由ヲ
 明示セサルモノニシテ刑事訴訟法第二百三條ニ違背シタル不法アルモノナリト云フニアレト
 モ○偽造証書ハ法律ニ於テ禁制シタル物件ナルヲ以テ刑法第四十三條第一項ニ依リタルモノ
 ナルトハ認め得可キニ因リ其第何項ト判示セサルモ違法ナリト云フヲ得ス同第三點ハ刑事訴
 訟法第九十五條ニ裁判所書記ハ訊問及ヒ供述ヲ錄取シ被告人ニ之ヲ讀聞スヘシ豫審判事ハ被
 告人ニ其供述ノ相違ナキヤ否ヤテ問ヒ署名捺印セシムヘシトアリ然ルニ星吉次郎ノ豫審調書
 ニハ其之ヲ讀聞ケタルコトナク又其相違ナキヤ否ヤテ問ヒタルコトナシ故ニ該調書ハ違法ニ
 シテ信ヲ措クヲ得ヘキモノニアラス然ルニ原院カ之ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナリ
 ト云フニアリ○因テ星吉次郎ノ豫審調書ヲ查スルニ其第一回調書ノ末尾ニ書記之ヲ讀聞セ又
 其相違ナキヤ否ヤテ問ヒタルノ記載ナキコトハ上告論旨ノ如クナルモ被告人氏名ノ傍ラニ無
 印無筆ニ付捺印セシムト附記シ被告人ニ於テ捺印シアルヲ以テ觀レハ其供述ヲ讀聞ラレ其相
 違ナキヲ認め捺印シタルモノナルコトハ明カナルヲ以テ該調書ヲ無効ナリト云フヲ得ス因テ
 原院カ之ヲ採テ罪證ニ供シタルハ違法ニアラス
 以上ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十六條同第二百八十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ本
 院ニ於テ判決スルコト左ノ如シ

中島庄次郎

原院ノ認めタル事實ニ依リ之ヲ法律ニ照スニ被告カ証書ノ所爲ハ刑法第三百五十五條ニ依リ
 同第二百二十條第二號ヲ適用シ重禁錮六月附加罰金四圓ニ該證ヲ偽造行使シタル所爲ハ同法
 第二百十條第二項同第二百十二條ヲ適用シ重禁錮四月附加罰金四圓監視六月ニ印影盗用ノ所
 爲ハ同法第二百八條第二項ニ依リ其第一項ノ刑ヨリ一等ヲ減シ尙ホ同第二百十二條ニ依リ重
 禁錮五月附加罰金四圓監視六月ニ處スヘキ處數罪俱發ニ係ルヲ以テ同法第百條末項ニ照シ一
 ノ重キ証書ノ罪ニ從ヒ處斷スヘク偽造ノ證書ニ通ハ同法第四十三條第一號同第四十四條ニ依
 リ没收シ其他ノ押收書類ハ刑事訴訟法第二百二條ニ依リ各差出人ニ還付スヘキモノトス因テ
 被告庄次郎ヲ重禁錮六月ニ處シ罰金四圓ヲ附加ス偽造ニ係ル證書ニ通ハ之ヲ没收シ其他ノ押
 收書類ハ各差出人ニ還付ス

明治三十年五月二十一日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○阿片烟所有ノ件

明治三十年第三二八號
明治三十年五月二十四日宣告

○判決要旨

被告人國語ニ通セスシテ通事ヲ命シタル場合ニアリテハ豫審訊問調書ニ被告

國語ニ通セサル被告人ノ調書

人ノ署名捺印ヲ闕如スルコトアルモ通事ノ署名捺印アルヲ以テ足ル

(参照) 裁判所書記ハ訊問及ヒ供述ヲ録取シ被告人ニ之ヲ讀開スヘシ豫審判事ハ被告

人ニ其供述ノ相違ナキヤ否ヲ問ヒ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハ

サルトキハ其旨ヲ附記ス可シ(刑事訴訟法第九十五條)

被告人又ハ對質人暨ナルトキハ書面ヲ以テ問ヒ啞ナルトキハ書面ヲ以テ答ヘシム若

シ暨者啞者文字ヲ知ラサルトキハ通事ヲ命ス可シ被告人又ハ對質人國語ニ通セサル

トキ亦同シ(刑事訴訟法第九十五條)

第一審 横濱地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 馬 辯護人 高木益太郎

右馬錫ニ對スル阿片烟所有被告事件ニ付明治三十年三月三十一日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ

被告錫上告趣意ハ原院ハ本件審理ノ際必要ナル證據書類ヲ一々朗讀シテ說示シタル事ナシ即チ口頭審理ノ原則ニ違背スル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原公判始末書ヲ查閱スルニ證據書類ハ被告等ニ於テ異議ナキヲ以テ其朗讀ヲ省畧シ證據物件ハ之ヲ示シ總テ其辯解ヲ促シタル事跡判然ナルヲ以テ原判決ハ本論旨ノ如キ不法ノ廉アルコトナシ

被告辯護人高木益太郎辯明ノ第一ハ被告ノ控訴ニ係ル第一審判決主文ニ「押收ニ係ル阿片烟四半斤入ノ一罐ハ之ヲ沒收ス」ト掲ケアリト雖トモ法律上ノ禁制物タルハ阿片烟ニシテ其容器ニアラス是故ニ第一審判決カ刑法第四十三條第一號ニ依リ阿片烟ト共ニ其罐ヲモ沒收シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタル裁判ナリト隨テ此判決ニ對スル被告ノ控訴ハ其理由アルニモ不拘原院カ之ヲ棄却シタルハ違法ノ裁判ナリト云ヒ其第二ハ第一審判決ノ理由ニ依レハ押收物件全部ノ沒收ヲ爲スヘキ事ヲ掲ケ第二審判決ノ理由ニ依レハ押收物件中阿片烟ノミヲ沒收スヘキモノトモリ左スレハ第一審判決ト第二審判決トハ其理由ヲ異ニスルモノナルニ付原院ハ第一審判決ヲ廢棄シテ更ニ相當ノ判定ヲ下スヘキ譯合ナルニ事爰ニ出テス其判決主文ニ被告ノ控訴ヲ棄却スト掲ケタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○阿片烟ノ容器タル罐ハ阿片烟ノ從物ナレハ阿片烟ヲ沒收スレハ其罐モ沒收スヘキコト當然ナレハ第一審判決カ罐ヲ沒收シタルコト當然ニシテ原院カ沒收スヘキ物件ヲ表示スルニ押收ニ係ル阿片烟ト云フモ第一審判決ニ押收ニ係ル阿片烟四斤程入ノ一罐ト表示セシモノト同一ニシテ一ハ容器タル罐ヲ包含シ一ハ之ヲ包含セサルモノトスルカ如キハ特更ニ判決文ヲ曲解シテ辭ヲ弄スルニ外ナラスシテ上告ノ理由トナラス其第三ハ被告人馬錫ノ豫審調書ヲ視ルニ同人ノ署名捺印ヲ欠キ又之ヲ欠キタル理由ノ附記モナシ即チ刑事訴訟法第九十五條ニ違反シタル無効ノ調書ナルニ原判決カ之ヲ斷罪ノ具トナシタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○記録ヲ閱スルニ被告人ハ清國人ニシテ國語ニ通セサル者ナレハ刑事訴訟法第百條第二項ニ依リ通事ヲ命シ其調書ヲ承認セシム

ルニ普通ノ場合ニ適用スヘキ第九十五條第二項ノ代リニ第一百一條第二項ヲ特ニ規定シタルモハナレハ本被告豫審調書ニ被告ノ署名捺印ナキモ通事ヲ命セラレタル榎本師美ニ於テ署名捺印シアルヲ以テ之ヲ無効ト云フヲ得ス隨テ之ヲ斷罪ノ資料ニ供スルモ之ヲ不當ト云フヘカラス其第四ハ原公判始末書中通譯人黃漢ハ檢事ノ辯論ヲ通譯シテ被告ニ申聞ケタリトノ記載アレトモ辯護士ノ辯論ヲ通譯セシメ被告ニ告知シタル事述ナシ凡ソ國語ニ通セサル被告人ヲ審判スル場合ニハ訴訟關係人ノ陳述ハ總テ通譯セシメ之ヲ被告ヘ告知スヘキモノナルニ原院ノ措置爰ニ出テサリシハ違法ニシテ如此違法ノ審理ニ基ク原判決ハ破毀セラルヘキモノナリト云フニ在レトモ○被告人ニ對スル辯論等ハ被告人ニ告知シテ防禦ノ機會ヲ與フルハ當然ナルヘキモ辯護士カ被告人ノ爲メニスル辯論ノ如キハ審理判決スル上ニ於テ之ヲ被告人ニ知悉セシムルノ必要アルヘカラス故ニ本論旨モ亦上告適法ノ理由ナシ

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十年五月二十四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○故殺ノ件

明治三十年五月二十八日五號
明治三十年五月二十四日宣告

○判決要旨

殺害ノ發意ハ分娩前ニアリト雖モ其意思ニシテ殺害當時マテ繼續スルトキハ故殺罪ヲ成立ス

第一審 前橋地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 萩原タツ 辯護人 磯部四郎

右タツニ對スル故殺被告事件ニ付明治三十年四月十六日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ

被告辯護人磯部四郎上告趣意ハ原判決ハ事實上理由ヲ闕シ原院認定ノ事實ヲ按スルニ被告カ本件行爲ヲ爲スニ至リタル原因ハ産兒ヲ殺シ流産ノ體ニ仕散スニ如カスト決意シタリト云フニ在リテ判決書ニ之ヲ明示セラレタリ而シテ長女センカ分娩シタル男子ヲ死ニ致シタルハ明治二十九年十月五日分娩ノ即時此所爲ヲ爲シタルモノナル事ハ亦判決書ニ之ヲ明示セリ然レハ原院認定ノ事實ハ須ク刑法第三百三十一條ヲ適用スヘキモノナリ何トナレハ私權ノ享有ノ出生ニ始マルハ民法ノ法則ナルカ如ク苟モ生存ノ時間ヲ有シタル人ニ非サルヨリハ刑法上亦タ殺人ノ目的ト爲ルヘキニ非ス然ルニ原院認定ノ事實ハ分娩シタル男兒ヲ即時ニ死ニ致シタ

嬰兒ノ故殺

リト云フモノナレハ刑法第二百九十四條ノ規定ニ該當スルモノニ非ス若シ分娩ノ瞬間ニテ既ニ此規定ノ目的ト爲レモントセシ乎被告カ之ヲ死ニ致サントスルノ故意ヲ判決書ニ明示スルヲ要ス然ルニ原院判決ハ流産ノ體ニ仕做スノ意ヲ有シタル事ヲ記載シタルノミニシテ分娩ノ後ニ於テ被告カ致死ニ關スル意思ヲ如何ニ有シタルヤヲ明示セシ所ナシ故ニ原判決ハ疑律ノ錯誤ト理由ノ不備ト二者孰レカ其一ニ居ル違法ノ裁判ト信スト云フニ在レトモ○原判決ヲ閱スルニ(前略)センハ月滿チタル男子ヲ分娩シタルヲ以テ被告ハ直チニ其場ニ於テ濫殺ヲ以テ産兒ノ面部ヲ包ミ窒息セシメ遂ニ之ヲ死ニ致シタルモノナリトアリテ男兒ノ分娩シタル後死ニ致シタルマテノ間假令少時間ナリト雖トモ生存シタルコトヲ認メタルコト明カナレハ此産兒ノ刑法第二百九十四條ノ目的トナリシハ疑フヘキ處ナシ又原判決書ヲ見ルニ(前略)セント相謀リ寧ロ産兒ヲ殺シ流産ノ體ニ仕做スニ如カスト決意シ云々トアレハ殺害ノ發意ハ分娩前ニ在リト雖トモ其殺意ハ殺害ハ當時マテ繼續シタルモノト認メタルコト明カナリ故ニ原判決ハ本論旨ハ如ク懸律錯誤又ハ理由不備ハ不法アルコトナシ

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十年五月二十四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○私印盜用私書偽造行使ノ件

明治三十年第四〇六號
明治三十年五月二十四日宣告

○判決要旨

偽造證書ヲ提出シ裁判所ヲシテ支拂命令ヲ發セシメタル所爲ハ其證書ノ提出ヲ要スル場合ナルト否トニ拘ラズ證書偽造行使罪ヲ構成ス

第一審 長野地方裁判所飯田支部 第二審 東京控訴院

被告人 齋藤長吉 辯護人 岡崎正也

明治三十年四月十四日東京控訴院ニ於テ右長吉カ私印盜用私書偽造行使被告事件ノ控訴ヲ審理シ原判決中控訴ニ係ル部分ヲ取消シ更ニ被告ヲ重禁錮六月附加罰金拾圓監視六月ニ處ス押收ノ書類ハ各差出人ヘ還付ス公訴費用金二圓八拾錢ハ被告ノ負擔トスト言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理ヲ遂クル處被告カ上告ノ要旨ハ原裁判ニ於テ被告ハ金五百圓ノ證書ヲ偽造シ之ヲ行使セシモノト判定セラレタリ然ルニ右五百圓ノ證書ハ被害者市瀬金吉ノ自ラ署名捺印セシモノニシテ現ニ右金吉ノ告訴狀ニモ自ラ署名捺印シタル申立ニ相成居且第一審ニ於ケル鑑定人ノ鑑定書ニ據ルモ同シク被害者本人ノ自筆ナリトアリテ各相符合スルニ拘ハラズ自筆ニアラス偽造ナリト判定シ

偽造證書ニ基ク支拂命令

タルハ條理ニ背キ不法ニ事實ヲ認定シタル不當ノ裁判ナリト云フニ在リテ○原裁判官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キヌシテ上告適法ノ理由トナラス
 辯護人岡崎正也カ上告擴張ノ要旨ハ原裁判ニ於テハ被告カ本件ノ偽造證書ヲ支拂命令ノ申請ニ付裁判所ニ提供シタリトノ點ヲ以テ偽造證書ノ行使トナルヘキモノ、如ク判決セラレタルトモ支拂命令申請及ヒ下付ノ手續ハ民事訴訟法第三百八十二條乃至第三百八十六條ノ規定ニ從ヒ發セラルヘキモノニシテ證書ノ提出ヲ必要トセサルハ勿論裁判所モ亦右數條ノ手續ニヨリ申請者ノ口頭又ハ書面上ノ陳述ニ基キ命令ヲ發スヘキヲ要スルモノニテ其事實ノ證據ニ付キ取調ヲ爲スヘキ筋合ノモノニアラス依テ此場合ニ於テ被告カ偶々證書ヲ提出シタル事實アリトスルモ爲ニ證書ノ行使トナルヘキ道理ナシ依テ原判決ハ理由不備ニシテ且法則ニ反スル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判文ニ認ムル如ク被告ハ市瀬金三郎外一名々義ノ金額借用證書ヲ偽造シ其偽造證書ヲ證據トシテ提供シ以テ裁判所ヲ其支拂命令ヲ發セシメル以上ハ其證書ノ提出ヲ要スル場合ナルト否トニ係ハラヌ證書偽造行使罪ハ成立スヘキモノナリ故ニ原裁判證書偽造行使罪ニ間疑シタルハ相當ナルヲ以テ之レヲ不法ナリトノ上告ハ其理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ判決スルコト左ノ如シ
 本案上告ハ之ヲ棄却ス
 治三十年五月二十四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○官吏侮辱ノ件

明治三十年第四一二號
明治三十年五月二十四日宣告

○判決要旨

官吏ノ職務ニ對シテ侮辱シタル以上ハ事實ノ眞否ヲ問ハス官吏侮辱罪ヲ構成ス

(參照) 官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其目前ニアラスト雖モ刊行ノ文書圖畫又ハ公然ノ演説ヲ以テ侮辱シタル者亦同シ(刑法第百四十一條)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 遠藤安太郎 加納亥太郎

辯護人

藤利齋 鈴木光 藤二 木充 松四郎 美部

右官吏侮辱被告事件ニ付明治三十年四月二十日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告兩名ハ上告ヲ爲シタリ

官吏侮辱罪ノ構成

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
 上告趣旨ハ原判決ハ單ニ新聞紙上ニ掲ケタル文章ハ當時ノ國務大臣ヲ侮辱スルニ足ルモノナ
 リトノ事實ヲ認定シ被告カ之ヲ編輯シ若クハ發行スル際ニ於ケル意思ノ如何ニ付判斷ヲ爲ス
 コトナク刑法第四百一一條ヲ適用シタルハ不當ニ事實ヲ確定シタル違法ノ判決ナリト云フニ
 在レトモ○原判文ニ被告安五郎ハ東京新聞ノ發行兼印刷人被告玄太郎ハ其編輯人ニシテ同新
 聞第八百四十六號紙上ニ松方内閣ノ三大鐵案ト題シ故ラニ内閣大臣ヲ侮辱スルノ記事ヲ掲ケ
 而シテ之ヲ發行シタリトノ事實ヲ明示シアル上ハ其侮辱スルノ意思ニ出テタルコト固ヨリ論
 ナ俟タス故ニ原判文ニ特ニ惡意ニ出テタリトノ文字ヲ掲ケサルモ之ヲ以テ意思ノ如何ニ付判
 斷ヲ下サスト論スルコトヲ得ス因テ本論旨ハ適法ノ理由ナキモノトス
 辯護人齋藤二郎利光鶴松鈴木充美磯部四郎ノ擴張論旨第一點ハ原判文ニ掲ケタル東京新聞第
 八百四十六號紙上雜報欄内ニ記載セシ松方内閣ノ三大鐵案ト題スル項ハ事實果シテ存在スル
 モノナルヤ將々被告等ノ捏造シテ記載シタルモノナルヤ之ヲ判定セスシテ有罪ト爲シタルハ
 不法ナリ何トナレハ則若シ眞實ノ事實ナレハ官吏侮辱ヲ構成セザレハナリト云フニ在レトモ
 ○官吏侮辱罪ヲ構成スルニハ其侮辱シタル事項ハ眞實ナルト否トヲ問フコトヲ要セス故ニ權
 令眞實ナル事項ト雖トモ苟モ官吏ハ職務ニ對シテ之ヲ侮辱シタル上ハ必チ官吏侮辱罪ナルヲ
 免カレサルニ付其侮辱シタル事項ハ眞實ナルヤ否ヤニ關シテ之ヲ判定ヲ爲スコトヲ要セス因
 テ本論旨モ亦相立タサルモノトス

同第二點ハ右新聞紙ニ記載シタル事項ハ普通人民ノ常ニ唱道スル所ニシテ即チ記事其モノハ
 官吏侮辱トナル可キモノニアラス然ルニ有罪ト爲シタルハ不法ナリト云フニ在テ○本論旨ハ
 要スルニ原承審官ノ職權ニ存スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キササルモノナレハ上告ノ理由ト
 爲スコトヲ得ス

同第三點ハ本件ノ新聞紙ニシテ犯罪ノ用ニ供シタルモノナレハ沒收シ然ラサレハ差出人ニ還
 付セサル可カラス然ルニ原院ハ其孰レナルヤヲ判定セスシテ差出人ニアラサル警視廳ニ還付
 スト言渡シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判文ニ押收ノ新聞紙ハ刑事訴訟法第二百二
 條ニ依リ差出人ニ還付ス可キモノトストアルハ即チ其還付ス可キモノナルコトヲ判定シタル
 モノナリ又右新聞紙ハ警部岡田信典ヨリ證據品トシテ提出シタルモノナルコトハ其告發書ニ
 徴シテ明瞭ナレハ原院ニ於テ第一審裁判所カ押收セル東京新聞一枚ハ警視廳ニ還付スト言渡
 シタル其言渡ヲ認可シタルハ固ヨリ當然ナリトス
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案ノ上告ハ之ヲ棄却ス
 明治三十年五月二十四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治三十年第二四〇號
明治三十年五月二十五日宣告

○判決要旨

冒認販賣罪ノ被害者ハ所有者ト買得者ナリ

第一審 福井地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 福田 東

右詐欺取財被告事件ニ付明治三十年二月二十四日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ同院檢察長林誠一ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル處

上告ノ趣意ハ原判決ニ認メタル事實ハ被告東ハ擅ニ父權兵衛所有ノ杉立木十本ヲ自己ノ所有ナリトシテ上田力藏ニ賣却シタルモノナリトス而シテ冒認罪ハ他人ノ所有物件ヲ自己ノモノトシ更ニ他ニ販賣スル所爲ナレハ假令被告ト權兵衛ハ父子ノ間柄ナルモ第三者タル被害者上田力藏ニ對シテハ同人ヲ欺罔シ金員ヲ騙取シタル所爲アルヲ以テ刑法第三百九十三條ニ基キ同第三百九十四條第三百九十四條ニ依リ處斷スヘキモノナルニ原判決茲ニ出テス單ニ被告ト父權兵衛トノ間ニ於ケル所爲ヲ論シ被告ニ對シ無罪ノ判決ヲ爲シタルハ違法ナリト云フニ在リ
○依テ原判決ヲ查閱スルニ原院ノ認定シタル事實ハ上告論旨ノ冒頭ニ掲載シタル如クナリト

ス而シテ他人ノ財産ヲ冒認シテ之ヲ販賣スル所爲ハ其財産ヲ冒認セラレタル者ト冒認者ハ欺罔ニ依リ之ヲ買受ケタル者トニ對スル犯罪ナリ然レハ原判決ニ認定シタル被告ノ所爲ハ即刑法第三百九十三條ノ犯罪ヲ構成スルモノナルニ原院カ被告ニ對シ刑法第三百九十八條ヲ適用シテ無罪ヲ言渡シタルハ疑律錯誤ニシテ破毀ノ原由アリトス依テ刑事訴訟法第二百八十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決スル左ノ如シ

福田 東

原院ノ認定シタル事實ニ依リ之ヲ法律ニ照スニ被告ノ所爲ハ刑法第三百九十四條ニ該當スルモノトス因テ被告東ヲ重禁錮二月ニ處シ罰金四圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス
明治三十年五月二十五日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○私書偽造行使詐欺取財ノ件

明治三十年第四三五號
明治三十年五月二十五日宣告

○判決要旨

被告人ノ亡妻ノ兄ハ證人タルノ資格ナシ

亡妻ノ兄ノ證人資格

(參照) 左ニ記載シタル者ハ證人ト爲ルコトヲ許サス但宣誓ヲ爲サシメスシテ事實參考ノ爲メ其供述ヲ聽クコトヲ得(刑事訴訟法第百二十三條)

第二 民事原告人及ヒ被告人ノ親屬但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ(同條第)

第一審 大阪地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 鈴木 謙 辯護人 磯部 四郎

明治三十年四月十七日大阪控訴院ニ於テ右謙ニ對スル私書偽造行使詐欺取財被告事件ノ控訴ヲ審理シ原判決ヲ取消シ更ニ被告ヲ重禁錮一年六月ニ處シ罰金十圓監視六月ヲ附加ス偽造ノ委任狀六通改印届書一通ハ之ヲ沒収シ其他ノ押收書類ハ各差出人ニ還付スト旨渡シタル判決ヲ不當トシ被告ハ上告ヲ爲シ原院檢察長林誠一ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理判決スル左ノ如シ

被告謙上告趣意擴張書第一點及ヒ辯護士磯部四郎擴張書第四點ハ三枚得昇カ被告謙亡妻ノ兄ナルコトハ得昇ノ豫審調書第一審公判始末書ニ明カニシテ殊ニ原判決ノ事實ニモ記載スル所ナリ而シテ刑事訴訟法第二百二十三條第二號ニ於テ民事原告人及被告人ノ親屬但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シト明記シアレハ右得昇ハ證人タルノ資格ナキモノナルニモ拘ラス原院ニ於テ證人ノ證言トシテ同人ノ豫審調書ヲ採用シタルハ違法ナリト云フニ在リ

○因テ訴訟記録ヲ檢スルニ上告論旨ノ如ク得昇ハ被告謙亡妻ノ兄ナルコト記録上明確ハ事實ナレハ同人ハ證人タルノ資格ヲ有セサルモハナルニモ拘ハラズ原院ニ於テ證人調書トシテ同人ノ豫審調書ヲ採用シタルハ違法ニシテ其裁判ハ破毀ヲ免カレサルモハトス已ニ此點ニ付キ原判決全部破毀スヘキモノト認ムル上ハ他ハ一々説明ヲ要セス

以上ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ本件ヲ名古屋控訴院ニ移

○公文書偽造行使等ノ件

明治三十年第二五五號
明治三十年五月二十八日宣告

○判決要旨

第一審辯護人ノ控訴ニ基キ開廷シタル第二審ニ於テ被告人ノ出頭セザルトキハ其判決ハ闕席判決ナリ

第二審ノ闕席判決ニ對シテハ故障ヲ爲サスシテ直ニ上告スルヲ得ス

辯護人ノ控訴○闕席判決ノ上告

第一審 神戸地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 吉田傳五郎 辯護人 大槻貞夫

明治三十年三月六日大阪控訴院ニ於テ右傳次郎ニ係ル公文書偽造行使公印盗用私書偽造行使私印盗用詐欺取財被告事件ハ欠席判決ニ對スル辯護人ノ控訴ヲ審理シ本件控訴ハ受理セスト言渡タル判決ヲ不當トシ辯護人大槻貞夫ハ上告ヲ爲シ原院檢察長林誠一ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スル左ノ如シ

第二審判決ハ第一審辯護人大槻貞夫カ爲シタル控訴ニ基キ與ヘタルモハナルモ現ニ被告本人タル吉田傳次郎カ欠席シタル上ハ其判決ハ尙ホ之ヲ欠席判決ト云ハサルヘカラス而シテ第二審ハ欠席判決ニ付テハ故障ヲ經スシテ直ニ上告スルヲ得サルモハナルヲ以テ辯護人カ直ニ爲シタル本上告ハ不合法ニシテ成立セズ右ノ如ク説明スル上ハ上告人カ陳辯スル原判決ニ對スル攻撃ニ付テハ説明ヲ與フルノ必要ナシ

以上ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十年五月二十八日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢察安居修藏立會宣告ス

〇詐欺取財ノ件

明治三十年第四五二號
明治三十年五月二十八日宣告

〇判決要旨

同一ノ人ニ對シ同一ノ目的ヲ以テ其意思間斷ナク繼續シテ數度ニ詐欺取財罪ヲ犯シタルトキハ一罪トシテ處斷ス

第一審 奈良地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 喜多忠平 辯護人 花井卓藏

右詐欺取財被告事件ニ付明治三十年四月十六日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ辯護士花井卓藏ノ辯論檢察岩野新平ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告趣意書ハ原判決ハ法律ニ違背シタル不法ノ裁判ナリト云フノミニテ〇其不法ノ點ヲ指摘セサルニ依リ上告ノ理由トナラス辯護士ノ擴張論旨第一點ハ本件第一乃至第三ノ詐欺取財罪ハ各別個ノ犯罪ニシテ繼續犯罪ニアラサルニ原判決ニ數罪俱發ノ法條ヲ適用セザリシハ違法ナリト云フニ在レトモ〇原判決ノ認定ニ據レハ被告カ本件第一乃至第三ノ所爲ハ同一ノ人ニ對シ同一ノ目的ヲ以テ其意思間斷ナク繼續シテ犯シタル詐欺取財罪ナルニ依リ原院カ之ヲ一罪トシテ處斷シタルハ當然ナリ第二點ハ原院公判始末書第二百九十三葉ト第二九十四葉トノ間明確ナル契印ナキヲ以テ該公判始末書ハ無効ナリ從テ之ニ基キタル原判決ハ違法ナリト

數回ノ詐欺取財

云フニ在レトモ ○公判始末書ヲ査閱スルニ右上古論旨ニ謂フ所ノ綴目ニハ其前後ト同シク該始末書ヲ作製シタル書記ノ官印ヲ以テ契印ヲ爲シアルニ依リ上古論旨ハ其理由ナシトス右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上古ハ之ヲ棄却ス
 明治三十年五月二十八日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○監守盜ノ件

明治三十年第四〇七號
 明治三十年五月三十一日宣告

○判決要旨

第一審ノ認メタル二所爲ノ中一所爲ヲ以テ事後ノ所爲トナシ犯罪成立セサル
 モノト認メナカラ第一審判決ヲ取消サ、ルハ不法ノ裁判ナリ

第一審 長野地方裁判所

第二審 東京控訴院

被告人 小澤慶太郎

辯護人

飯田宏作
 飯井卓藏
 高木益太郎

右監守盜被告事件ニ付明治三十年四月七日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ
 上古ヲ爲シタリ依テ本院ハ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

辯護人飯田宏作上古趣旨擴張書第二點ノ要ハ第一審判決ニ「登記名刺中ニ貼用シアル五圓(中畧)二錢等ノ種類ノ消印アル登記印紙員數二百十六個ヲ剝取り尙ホ其消印ナキ壹圓(中畧)五錢等ノ各種ノ登記印紙員數九十三個金額合計四十八圓四十錢ニ該當スルモノヲ剝取り竊取シ」トアリ
 テ五圓以下各種ノ印紙ト壹圓以下ノ各印紙トヲ竊取シタリト認メラレタルヲ第二審判決ハ壹圓以下各種ノ登記印紙員數九十三個金額合計四十八圓四十錢ニ該當スルモノトミテ竊取シタリト認定シ第一審判決事實ノ認定ヲ誤リタルニモ拘ハラズ控訴ヲ棄却シタルハ不法ナリト云フニ在リ ○依テ第一二審判文ヲ對照スルニ第一審判決ニ於テハ登記名刺中ニ貼用シアル五圓以下各種ノ消印アル登記印紙ト消印ナキ壹圓以下各種ノ登記印紙トヲ共ニ竊取シタルモノト認メアリ而シテ第二審判決ニ於テハ消印ナキ壹圓以下各種ノ登記印紙ヲ竊取シタル犯跡ヲ撤ハシカ爲メ五圓以下各種ノ消印アル登記印紙ヲ剝取り其幾分ヲ既ニ自己カ印紙ヲ剝取り竊取セシ處ハ登記名刺ニ貼付シ置キタルモノト認メアリテ之ヲ事後ノ所爲トナシ犯罪成立ノ行爲ト認メサリシ第一二審ノ判決ニシテ斯ク其事實ノ認定ヲ異ニシ五圓以下各種ノ消印アル登記印紙ヲ剝取りタル所爲ニ付有無罪ノ意見同一ニ歸セサル上ハ原院ハ須ク第一審ハ判決ヲ取消シ更ニ判決ヲ與フヘキ筋合ナルニ原判決茲ニ出テス第一審判決ヲ認可シ從テ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ辯護士所論ハ如ク原判決ハ不法ノ判決タルヲ免カルヘカヲサルモハトス既ニ此點ニ付破毀ノ原由アルモノト認ムル上ハ其他ノ上古論旨ニ對シ更ニ説明スルノ要ナシ
 右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ更ニ審判ヲ爲サシムル爲メ本

件ヲ名古屋控訴院ニ移スモノナリ

明治三十年五月三十一日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○詐欺取財等ノ件

明治三十年第四一七號
明治三十年五月三十一日宣告

○判決要旨

身分詐稱罪ニ付其犯時ヲ明示セサル判決ハ不法ナリ

第一審 新潟地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 島山新次郎

右詐欺取財及ヒ住所氏名詐稱被告事件ニ付明治三十年四月二十六日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ本院ハ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
上告ノ趣旨ハ原判決カ第二ノ所爲トシテ認メラレタル住所氏名詐稱ノ事實ニ付テハ其行爲ノアリタル年月日ヲ明示セラレサルハ不法ナリト云フニ在リ○依テ原判文ヲ閱スルニ住所氏名詐稱ノ所爲ニ付テハ單ニ前項ニ示シタル地所抵當ノ登記ヲ受クルニ當リトノミアリテ其前項

ニハ被告カ被害者本間善四郎ヘ交付スヘキ金員ヲ取得シタル年月日ヲ明治二十九年十一月三十日ノ夜ト揭記シアルモ登記ヲ受ケタル年月日ニ至テハ何等ノ記載アルコトナシ然ハ則住所氏名詐稱ノ犯時ハ果シテ何年何月ナルカ知ルニ由ナクシテ原判決ハ上告論旨ノ如ク不法ノ判決タルヲ免カルヘカラサルモノトス既ニ此點ニ付破毀スヘキモノト認ムル上ハ其他ノ論旨ニ對シ一々説明ヲ要セス

右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ更ニ審判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ宮城控訴院ヘ移スモノナリ

明治三十年五月三十一日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

大審院刑事判決錄

大審院刑事判決錄

第三輯

第六卷

○監守盜ノ件

明治三十年第四四六號
明治三十年六月一日宣告

○判決要旨

郵便局雇員ニシテ小包郵便ニ關スル事務ヲ擔任シ金員ヲ封入セル小包郵便物ヲ受取リ其封包ヲ開披シ金員ヲ竊取シタルトキハ其所爲ハ監守盜ナリトス

(參照) 己レニ屬セサル郵便物ヲ開封シ或ハ毀損汚穢シ或ハ私用賣却抑留隱匿拋棄シ若クハ之ヲ受取人ニアラサル者ニ交付シ及其情ヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲナシタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス郵便事務ヲ奉スル者自ラ犯シタルトキハ官吏傭人約定人ヲ論セス本刑ニ一等ヲ加フ(郵便條例第二)
小包郵便物ノ竊取

小包郵便物ノ竊取

官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ス(刑法第二百八十九條第一項)

第一審 名古屋地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 石原芳太郎 辯護人 原 嘉道

右監守盜事件ニ付明治三十年四月二十八日名古屋控訴院ニ於テ控訴棄却ノ旨渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シ原院檢察長加納謙ハ答辯書ヲ差出シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ檢察安居修藏辯護士原嘉道ノ辯明ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
上告趣意ヲ要スルニ第一ハ原判決ニ認メタル所ニ依レハ本件三十圓ノ金員ハ被告ニ於テ計算ノ責ニ任シテ保監守護シタルモノニ非ス唯小包郵便トシテ送付ノ事務ヲ取扱ヒタルニ止マルモノナレハ明治二十五年十二月布告郵便條例第二百三十四條ニ依リ處斷スヘキニ監守盜ノ罪ニ擬シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○郵便條例第二百三十四條ニ郵便物ヲ私用等シタル官吏傭人等ヲ罰スルハ規定アルモコハ郵便物ニ對スル刑法ニ於テ罰スル監守盜ヲモ包含スルモノニ非ス而シテ本件ハ被告ハ郵便電信局雇員ニシテ小包郵便等ノ交付差出到着及配達ノ事務擔當中同局ニ於テ星野達次郎ヨリ三百圓在中ハ小包郵便物ヲ受取り之ヲ居先ニ送付スヘキ事務ヲ掌理スルニ當リ擅ニ封皮ヲ開キ在中ハ三十圓ヲ竊取シタルモノナレハ其竊取シタル物件ハ被告ハ職務上監守スル所ハモハナルヲ以テ原院カ刑法第二百八十九條第一項ヲ適用シタルハ相當ナリトス○第二ハ假リニ被告ハ郵便物ヲ監守スルモノトスルモ其監守スルハ小包郵便物其物ニシテ其内ニ包入シアル金員ヲ監守スルモノ非サルヲ以テ之ヲ竊取スル

モ監守物ヲ竊取シタルモノニ非ス然ルニ刑法第二百八十九條第一項ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○小包郵便物ヲ監守スル以上ハ其内ニ包入シアル物モ亦自ラ監守スル所ノモノナルヲ以テ之ヲ竊取シタルノ所爲ハ監守盜ヲ構成シ原判決ノ擬律ハ相當ナリ○第三ハ原判決證據選列記ノ部ニ押收書類ニ徴シトノミアリテ如何ナル書類ナルカテ明示セサルハ證據ヲ明示セサル違法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○押收書類ト揭舉シアレハ押收目録ニ依リ如何ナル書類ナルヲ識別スルコトヲ得ヘキヲ以テ證據ノ明示ナキ判決ト云フヲ得ス要スルニ上告ハ其理由ナキモノトス
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治三十年六月一日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢察安居修藏立會宣告ス

○拐帶及詐欺取財ノ件

明治三十年第三九三號
明治三十年六月七日宣告

○判決要旨

適式ニ構成セサル裁判所ニ於テ言渡シタル裁判ハ不法ナリ

第一審 水戸地方裁判所 第二審 東京控訴院

裁判所ノ構成

公訴上告人 青山吉松
公訴私訴上告人 渡邊重次郎
私訴被上告人 藤咲傳左衛門

辯護人 花井卓藏

右吉松外一名ニ對スル拐帶及詐欺取財被告事件ニ付明治三十年四月十六日東京控訴院ニ於テ言渡シタル公訴私訴ノ判決ニ服セス被告吉松ハ公訴ニ付重次郎ハ公訴私訴ニ付共ニ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ

被告二名辯護人花井卓藏上告趣意擴張ノ公訴私訴ニ對スル趣旨ハ原院ノ公判始末書ヲ看ルニ本件公訴私訴ノ判決ヲ言渡スニ當リ審理ニ干與シタル判事ノ列席シタル記事アルコトナシ單ニ刑事第三部法廷ニ於テ納村實藏判事列席云々トアルニ止マリ如何ナル氏名ノ判事幾名立會ヒタルヤ到底之ヲ看取スルニ由ナシ又納村實藏ナル判事ナシ要スルニ原判決ハ適式ナル裁判所ノ構成ナクシテ言渡シタル不法アリト云フニ在リ○依テ原院ハ公判始末書ヲ閱スルニ明治三十年四月十六日東京控訴院刑事第三部法廷ニ於テ納村實藏判事列席檢事小宮三保松裁判所書記納村實藏立會公開ストアリテ原院ハ裁判構成ハ適式ナリシヲ認ムルニ由ナシ即チ原判決ハ適式ニ構成シタル裁判所ハ言渡シタルモハト認ムルコト能ハサルヲ以テ到底破毀ヲ免カレサルモハトス既ニ此點ニ於テ原判決ノ全部ヲ破毀スヘキモノト認ムル以上ハ他ノ上告論旨ハ一々説明スルノ要ナシ

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十六條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ

本件公訴私訴ノ原判決ハ全部之ヲ破毀シ更ニ審判セシムル爲メ本件ヲ宮城控訴院ニ移送ス

明治三十年六月七日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○官印偽造ノ件

明治三十年第五〇〇號
明治三十年六月七日宣告

○判決要旨

大麻ヲ頒布スルハ神宮司應ニシテ神宮敎院ニアラス

大麻ニ押用スル印章ハ官印ナリ

第一審 新潟地方裁判所相川支部 第二審 東京控訴院

被告人 島山正司 辯護人 瀨下清通

右官印偽造被告事件ニ付明治三十年五月十日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ本院ハ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ上告趣旨ハ原院カ本件審理ノ際必要ナル證據書類ヲ一々朗讀シテ之カ取調ヲ爲シタルコトナシ即チ刑事訴訟法第二百十九條ニ違反スル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原公判始末書ヲ査閱スルニ被告ニ於テ記錄ノ朗讀ヲ省畧スルニ異存ナシト申立又證據物并ニ記錄ニ付辯解

大麻ノ頒布○大麻ノ印章

井ニ反證トシテ差出スヘキモノナシト申立タルコトヲ明載アレハ其證據書類ノ朗讀ナキト云フヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

辯護人瀨下清通ノ上告趣旨擴張ノ要旨第一ハ被告カ偽造頒布セル所ノ大麻ハ神宮教院ヨリ頒布スル所ノモノニシテ同院ハ官署ニアラサルヲ以テ從テ右大麻ニ押捺セル所ノ印章モ亦官印ナリト云フヲ得ス然ルニ原院カ刑法第九十五條ヲ適用セラレタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○大麻ハ神宮司廳ノ頒布スル處ハモハナルコトハ神宮職制中ニ明載スル處ニシテ神宮教院ヨリ頒布スルモノニアラス故ニ右大麻ニ押捺スル印章ハ官印タルコト言テ疑ハサルナリ然ルカ故ニ原院ニ於テ右印類偽造ノ所爲ヲ官印偽造罪トナシ刑法第九十五條ヲ適用シタルハ相當ノ判決ニシテ毫モ違法ト云フヘキモノニ非ス其第二ハ假リニ原院ノ認メシ如ク大神宮司ト記スル印章ハ官印ナリトスルモ所謂官印タルノ事實ヲ知ラスシテ爲シタルモノナレハ刑法第七十七條第二項及第三項ヲ適用セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○其事實ヲ知リタルヤ否ヤハ全ク事實ノ認定ニ屬スルモノナレハ其認定ニ對スル論難ハ適法上告ノ理由トナルヘキモノニアラス其第三ハ普通犯罪ノ構成ニハ惡意及被害ノ存在ヲ要スルモノナルニ本件被告ニ惡意ナク且ツ本件ニハ被害者ナルモノナキニモ拘ハラヌ原院力之ニ對シテ刑ノ言渡シヲ爲シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○原判決文ヲ查閱スルニ本件ノ事實ハ被告カ使用ノ意ヲ以テ大神宮司ノ印トアル印類ヲ偽造シ之ヲ使用シタルモノナレハ犯罪構成ノ要素タルヘキ惡意アリシコト明白ナリ故ニ本論旨ハ上告ノ理由ナシ其第四ハ假リニ被告ニ偽造ノ犯罪アリトス

ルモ大麻ノ如キモノハ官文書ト云フヘキモノニアラス故ニ本件ノ事實ニ付テ刑法第九十六條第二項ニアル書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ云々ヲ適用スヘキモノナルニ原院カ此條ヲ適用セスシテ刑法第九十五條ヲ適用セラレシハ不法ナリト云フニ在レトモ○其偽造ノ印類ニシテ既ニ官印タル上ハ原院カ刑法第九十五條ヲ適用シタルハ相當ニ付原判決ハ不法ニアラス

右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十年六月七日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○印影盜用等ノ件

明治三十年第二九二號
明治三十年六月八日宣告

○判決要旨

詐欺取財ヲ爲スニ因リ文書ヲ偽造行使シタル所爲ハ實質上ノ一罪ナリトス從テ一罪ノ一部ニ對シ上訴アリタル場合ト雖モ其一罪ノ全部確定セサルモノナ

一罪一部ノ上訴

ルヲ以テ全部ニ對シ相當ノ判決ヲ與ヘサルヘカラス

(參照) 入ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス因テ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處罰ス(刑三法十條九)

第一審 名古屋地方裁判所岡崎支部 第二審 名古屋控訴院

被告人 鈴木新造
住新造
武政松次

右印影盗用證書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治三十年三月十九日名古屋控訴院ニ於テ第一審判決中被告新作及ヒ檢事ノ控訴ニ係ル部分ハ之ヲ取消シ新作ヲ重禁錮二年罰金二十圓監視一年ニ處シ新作カ偽造證書ヲ相被告松次ニ對シテ行使シタリトノ事件及ヒ新作カ天野濱次郎ヨリ樺樹ヲ騙取セントシタリトノ事件ハ何レモ無罪トス被告新造松次カ偽造證書ヲ行使シタリトノ事件ハ免訴ス被告松次カ爲シタル附帶控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタル判決ニ對シ被告井ニ原院檢事長ヨリ上告ヲ爲シ該檢事長ハ被告ノ上告ニ對シ答辯書ヲ差出シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

被告新作ノ上告趣意ヲ要スルニ第一ハ原院ニ於テ判決謄本ノ下付ニ對シ論難スルモノニシテ原判決ニ對スル上告ノ理由ト爲ラス第二ハ相被告松次新造ニ對シ檢事ヨリ共犯トシテ豫審ヲ

請求シタルノ事跡ナケレハ同人等ニ對スル豫審調書ハ無効ナルニ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○松次新造ニ對シ共同被告トシテ檢事ヨリ豫審請求アリタルコトハ明治二十九年五月十九日附ノ豫審請求書ニ依リ明瞭ナレハ論旨ノ如キ違法ナシ擴張書第一ハ原判決ノ主文ニ如何ナル罪ニ依リ刑ニ處スルカヲ明示セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○犯罪ノ事實及ヒ罪名ハ判決ノ理由ニ依リテ明瞭ナルヲ以テ之ヲ判決主文ニ掲擧スルノ必要ナシ第二ハ立木資渡證明書ハ權利義務ニ關スル證書ニ非サルヲ以テ刑法第二百十條第一項ニ依リ處斷シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ認メル事實ニ依レハ本件ノ證明書ハ立木ヲ資渡シタルコト事實相違ナキ旨ヲ記載シ濱次郎ヨリ新作ニ宛テタルモノナレハ買賣ヨリ生スル權利義務ニ關スル證書ニシテ之ヲ偽造シタル事實ニ對シ刑法第二百十條第一項ヲ適用シタルハ相當ナリ第三ハ原判決ニ於テ公訴裁判費用ノ負擔ニ付法條ヲ明示セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○公訴裁判費用ノ負擔ハ刑ノ言渡ニ非サルヲ以テ法條ヲ判文ニ明示セサルモ違法ニ非ス要スルニ上告ハ其理由ナキモノトス
原院檢事長ノ上告ハ被告新造松次ニ對スルモノニシテ其要旨ハ文書偽造詐欺取財ヲ以テ實質上ノ一罪トスルハ二個共ニ有罪ノ場合ニ止マリ必スシモ分離裁判ヲ禁シタルモノニアラス故ニ一ヲ有罪トシテ一ヲ無罪トスルハ固ヨリ裁判官ノ職權ニ屬シ從テ其裁判ニ對シ檢事又ハ被告入カ各其一部ニ付上訴ヲ爲シ得ルハ當然ナリ然ラハ其上訴アリタルトキハ有無罪ヲ斷定シ相當ノ處分ヲ爲ス可キ答ナルニ本按檢事ノ控訴ニ付文書偽造詐欺取財ハ同一事件ナルヲ以テ

其有罪ノ部分確定シタル上ハ無罪ノ言渡ヲ爲シタル部分ニ對シ更ニ處刑ヲ爲スヲ得スト云ヒ
 確定判決ニ對シ再ヒ審理ヲ求ムルモノト同視シ免訴ヲ言渡シタルハ不當ノ判決ナリ假リニ本
 件ハ分離裁判ヲ下スヘキモノニ非ストスルモ既ニ分離裁判ヲ爲シタルモノニ對シ控訴アリタ
 ル以上ハ該事件ハ上訴中ニ屬シ不確定タルハ論ヲ俟タス上訴中原判決獨リ自ラ確定スル謂ア
 ルヲナシ其ノ原判決カ之ヲ引離シ其一半ヲ有罪トシ他ノ一半ヲ無罪トシタルハ不適當ナルニ
 モセヨ又之ニ對スル檢事ノ控訴カ不適當ナルニモセヨ同一事件ナリトノ論旨ヲ貫カントスル
 ニハ一部分ノ控訴ト稱スルモ事實上全部ノ控訴ナリトシ本按全體ニ付判決ヲ與フヘキニ事茲
 ニ出テス上訴ハ成立スルモ判決ハ確定セリトノ理由ヲ以テ免訴ヲ言渡シタルハ前後矛盾ノ判
 決ナリト云フニ在リ○依テ審按スルニ第一審判決ハ被告新造松次カ偽造ノ梓樹賣渡證書及證
 明書ヲ相被告新作ヨリ受取リ之ヲ利用シ梓樹ヲ騙取セントシテ遂ケ得サリシ行爲ヲ處罰シ右
 賣渡證書及證明書ノ行使ニ付新作ト意思ノ通謀アリト認ムヘキ證據ナリトシテ此點ニ對シテ
 ハ無罪ヲ言渡シタルニ依リ第一審裁判所檢事ハ其無罪ノ部分ニ付控訴ヲ爲シ原院ハ被告兩名
 カ右賣渡證書證明書ニ付私印盗用及私書偽造行使ニ加功シタル各所爲ハ處罰スヘキモノニシ
 テ私書偽造行使ヲ以テ一ノ重キモノト認メタリ然ルニ詐欺取財ヲ爲スニ因リ文書ヲ偽造行使
 シタル者ニ在リテハ其詐欺取財文書偽造行使ハ實質上一罪ナルヲ以テ其中ハ一所爲ニ對シ
 上訴アリタルトキハ其一罪ノ全部未確定ニシテ上訴ヲ受ケタル裁判所ハ右二所爲ニ對シ相當
 ハ判決ヲ與ヘカハハカテ本件ニ付テハ原院ハ詐欺取財ニ對シテモ判決ヲ爲シ文書偽造

ト詐欺取財トノ關係ニ於テハ刑法第三百九十條第二項ヲ適用シ處斷スヘキニ事茲ニ出ス文書
 偽造ニ對シテノミ控訴アリシヲ以テ一罪ノ一部タル詐欺取財ニ對スル第一審判決ハ既ニ確定
 シタルモノト爲シ隨テ詐欺取財ニ對シ判決ヲ與ヘス私文書偽造行使ニ付テハ元ト第一審裁判
 所カ無罪ノ言渡ヲ爲シタルモ有罪ノ言渡ヲ爲シタルモ同一ノ事件ナレハ更ニ此事件ニ付テ處
 刑ヲ爲スコトヲ得スト說明シ事件ハ確定判決ヲ經タルモノトシ刑事訴訟法第六十五條ニ照
 シ免訴ヲ言渡シ且ツ被告松次ノ附帶控訴ハ判決確定シタル部分ニ對スルモノナリトシテ之ヲ
 棄却シタルハ法則ヲ適用セサル失當ノ判決ニシテ本上告ハ結局其理由アルモノトス既ニ此點
 ニ於テ被告新造松次ニ對スル判決ヲ破毀スヘキヲ以テ同人等ノ上告ニ對シ別ニ説明ヲ與ヘス
 被告新作ノ第二擴張論旨ハ原判決ニ明治二十九年二月十日付新作名義ノ賣渡證書ト揭擧シア
 ルモ該日付ノ證書ハ被告カ認メサルモノニシテ且ツ一件書類中ニ存在セスは無實ノ事實ヲ構
 造シタル不法ノ判決ナリト云フニ在リテ○要スルニ本論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定
 採證ノ當否ヲ論難スルモノニシテ上告適法ノ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ被告新作ノ上告ハ之ヲ棄却シ被告新造
 松次ニ對スル原判決ハ同法第二百八十六條ニ依リ之ヲ破毀シ事件ヲ大阪控訴院ニ移ス
 明治三十年六月八日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○證書偽造行使詐欺取財ノ件

明治三十年第四七〇號
明治三十年六月八日宣告

○判決要旨

押收ニ係ル證據書類ノ全部ヲ證據トシテ採用シナカラ單ニ一部ノミヲ示シテ
辯解ヲ徴シタルニ止マリ全部ニ及ハサルハ證據調ノ法則ヲ適用セサル不法ア
リ

第一審 和歌山地方裁判所 第二審 大阪控訴院

公訴私訴上告人 押治龜三郎 辯護人 原嘉道

私訴被上告人 下郷傳平 岡崎榮次郎

右證書偽造行使詐欺取財被告事件及ヒ之ニ附帶スル私訴ニ付明治三十年四月二十六日大阪控
訴院ニ於テ言渡シタル公訴及私訴ノ判決ニ對シ被告兩名ヨリ上告ヲ爲シタルニ付刑事訴訟法
第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ辯護士原嘉道花井卓藏ノ辯論檢事岩野新平ノ意見ヲ聽キ判決
スル左ノ如シ

辯護士原嘉道ノ公訴上告趣意擴張第三點及ヒ花井卓藏ノ同擴張第一點ハ原判決ニ本件一切ノ
押收證據書類ヲ證據トシテ採用シナカラ之ヲ被告ニ示シ辯解ヲ爲サシメタル事跡ナキヲ以テ

原判決ノ違法ナリト云フニ在リ○依テ原判決ヲ查閱スルニ其證據列記中ニ押收ノ證據書類ト
記載シアリ然レハ本件ノ押收證據書類ハ一切之ヲ採用シタルモノト解釋セサルハカラ然
ルニ公判始末書ニハ本件多數ノ押收證據書類中保險證書二通ヲ被告ニ示シ辯解ヲ爲サシメ
ルコトノ記載アルノミニテ其他ノ書類ヲ示シ辯解ヲ爲サシメタル事跡ハ見ルヘキナキヲ以テ
原判決ハ證據調ノ規定ニ違背シタル不法ニ依リ破毀スヘキ理由アリトス既ニ此點ニ於テ公訴
判決全部ヲ破毀スヘキモノト認メタルニ依リ他ノ上告論旨ニ對シテハ一々説明ヲ要セス又私
訴判決ハ公訴判決ノ理由ニ基キタルモノナルヲ以テ公訴判決ニ破毀ノ理由アルコト前説明ノ
如クナル上ハ私訴判決モ共ニ破毀スヘキモノトス
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ原判決ヲ破毀シ本件ヲ名古屋控訴院ニ
移ス

明治三十年六月八日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治三十年第四七五號
明治三十年六月八日宣告

○判決要旨

返還若クハ賠償ノ請求

民事原告人私訴トシテ或ル實物ノ返還ヲ請求シ若シ實物存在セサルトキハ金
圓ノ賠償ヲ請求スル旨ノ申立ヲ爲スモ不確定ノ請求ナシタルモノト云フナ
得ス

第一審、京都地方裁判所 第二審、大阪控訴院

公訴私訴上告人 河村俊二郎 辯護人 花井卓藏

私訴被上告人 室谷與彌作

右俊二郎カ詐欺取財被告事件ニ付明治三十年四月二十四日及ヒ同月三十日ノ兩度ニ大阪控訴
院ニ於テ京都地方裁判所カ言渡シタル公訴私訴ノ判決ニ對スル被告ヨリノ控訴ヲ審理シ公訴
私訴ノ控訴ハ共ニ之ヲ棄却スト言渡シタル判決ヲ不法ナリトシ被告ハ上告ヲ爲シ原院檢事長
林誠一ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ辯護士ノ辯論立
會檢事安居修藏ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

被告カ上告要旨ノ第一點ハ詐欺取財トハ人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取ス
ルノ所爲ナ云フナリ而シテ欺罔トナルニハ一定ノ欺計ヲ施シ人ヲシテ承諾テ阻却スヘキ性質
ノ錯誤ニ陷ラシメタル事實ナカル可ラス蓋シ詐欺ハ之ニ因テ人ヲ錯誤ニ陷ラシメサレハ承諾
ノ瑕疵并ニ阻却ノ原因トナラス自分モ斯ク刀劍ヲ好ミ購求シタキモ鑑定ノ上取極ムルニ付一
時貸與レヨトノ申込ミニ就キ之ヲ貸與シタルハ被害者任意ノ處置ニシテ其承諾ハ瑕疵ナク亦

阻却サルヘキモノニアラス然ラハ則刑事上ノ責任ヲ負フノ道理ナシ故ニ無罪ノ判決アルヘキ
答ナルニ原院ノ處措茲ニ出スシテ刑法第三百九十條ニ間擬セラレタルハ疑律ノ錯誤ナリト云
フニアレトモ○原判決ノ認ムル處ニヨレハ被告ハ被害者所持ノ刀劍ヲ詐取セントノ惡意ヲ生
シ詐欺手段ニ因リ該刀劍ヲ騙取シタルノ事實ヲ明示シアリテ本罪構成ノ要素ニ欠ク處アルコ
トナシ因テ上告論旨ハ其理由ナシ

同第二點原判決ハ被告カ被害者室谷與彌作ト相識リトナリシハ明治二十八年十二月上旬頃ト
云ヒ而シテ被告カ犯罪ノ日時ハ其後同月十日ナリト云フ抑上旬トハ八月ノ第一日ヨリ十日間
ヲ云フモノナレハ第十日ハ尙上旬ナリ此第十日ノ其後同月十日トハ果シテ何日ヲ指シタルモ
ノナルヤ一ヶ月中十日ノ再來スヘキモノニアラス故ニ原判決ノ示ス犯罪ノ日時ハ曖昧ニシテ
明瞭ヲ欠クノ嫌アリ之レ理由不備ノ不法アルヲ免レスト云フニアレトモ○原判決ヲ查スルニ
其前段ハ明治二十八年十二月上旬ナルコトハ認メタルモ其日時審カナラサルヨリ上旬頃ト記
シ其後段ハ日時分明ナルヨリ同月十日ト明記シタルモノニシテ前段ニ上旬トアルハ後段犯罪
ノ當日タル同月十日以前ナルコトハ判文上認メ得キニ依リ原院判決ハ理由ニ不備ノ點アル
コトナシ

辯護士花井卓藏ノ上告擴張ノ第一點ハ原判決法律適用ノ部ヲ見ルニ「押收ノ兼定作刀劍ハ刑事
訴訟法第二百二條公訴裁判費用ハ刑法第四十五條刑事訴訟法第二百一條ニ依リ處分スヘキモ
ノトス」トアリ而シテ第一審判決ハ單ニ刀劍ハ差出入ニ還付シ證人ノ旅費日當ハ被告ノ負擔タ

ルヘキ旨ヲ言渡シタルニ止マリ此點ニ關スル法律ノ適用ナシ果シテ然ラハ原判決ハ此點ニ於テ第一審裁判ノ不備ヲ補正シタルモノト云ハサルヘカラス然ルニ被告ノ控訴ヲ理由ナシトシテ棄却シタルハ不法ナリト云フニアレトモ○押收品ノ還付及ヒ證人ノ旅費日常負擔ノ言渡シノ如キハ刑ノ言渡ニアラサルヲ以テ必スシモ法條ヲ指示スルヲ要セス故ニ原院カ右ノ事項ニ對シ法條ノ指示ナキ第一審判決ヲ是認シ控訴棄却ノ言渡シヲ爲シタルハ違法ニアラス同第二點ハ第一審公判始末書ヲ見ルニ裁判長ハ證據物件タル刀劍ヲ被告人ニ示シ其辯解ヲ徵シタル事跡ナシ而シテ直ニ之ヲ以テ斷罪ノ資料ニ供シタル不法アリ之ヲ換言スレハ第一審判決ハ法廷ニ顯ハレサル證據ヲ採容シタル瑕疵アルモノナリ果シテ然ラハ被告ノ控訴ハ此點ニ於テ理由アルニ拘ハラス之ヲ棄却シタルハ不法ナリ同第三點ハ又第一審裁判所ハ利益ノ證據ヲ差出スヘキ旨ノ告知ヲ爲シタル事跡ナシ果シテ然ラハ第一審ノ訴訟手續ハ此點ニ於テ法則ヲ適用セサル不法アルモノナリ然ルニ原院ニ於テ之ヲ看過シ被告ノ控訴ヲ理由ナシトシテ棄却シタル不法ナリト云フニ在レトモ○第一審裁判所ニ於テ公判ノ手續ニ違背シタル廉アリトスルモ其瑕疵ハ以テ第二審判決ノ當否ニ影響ヲ及ホスヘキモノニアラサルヲ以テ原院カ第一審判決ヲ認可シ控訴ヲ棄却シタルハ違法ニアラス因テ第二第三論旨共上告適法ノ理由ナシ被告カ私訴上告ノ趣旨ハ原判決ハ上告人カ銀一振ヲ騙取シタルコトハ公訴ノ判決ニ於テ已ニ認定スル所ノ如クナルヲ以テ自カラ被上告人ニ損害ヲ加ヘタルコト明瞭ナリト云フニアルモ公訴判決ハ不法ニシテ現ニ上告申ナルヲ以テ卒ニ破毀ヲ免レサルモノナレハ其公訴判決ノ認

定テ唯一ノ理由トスル私訴判決ハ亦不法ニ歸着スト云フニアレトモ○上告人カ被上告人ノ刀劍ヲ騙取シタルノ事實ハ原院公訴判決ノ認ムル所ニシテ其公訴ノ上告不成立以上ハ公訴ノ判決不法ナレハ其理由ニ基キタル私訴判決モ亦不法ナリトノ論旨ハ其理由ナキモノトス花井辯護士私訴上告擴張ノ第一點ハ上告趣意書ニ盡サレル點ハ凡テ公訴ニ關スル上告趣意書並ニ擴張書ニ依リ判斷ヲ乞フト云フニアリテ○更ニ其趣旨ヲ辯明セサルヲ以テ本論旨ハ總テ公訴上告ニ關スル説明ニ依リ了解スヘシ同第二點ハ第一審公判始末書ヲ見ルニ被上告人ハ私訴狀記載ノ如ク和泉守兼定ノ刀一本若シ現品ナキトキハ金十三圓ヲ被告ヨリ賠償ヲ受取云々ノ申立ヲ爲シタル記事アリ然レトモ此申立ハ確定シタル一定ノ請求ノ事物ナキモノニシテ法律上一定ノ申立トシテ採容スヘキモノニアラス然ルニ第一審裁判所ハ其判決主文ニ於テ「民事被告人ハ民事原告人ニ對シ金十三圓ヲ速ニ賠償スヘシ」ト言渡シ不確定ナル一定ノ申立ニヨリ判斷ヲ爲シタル不法アリ而シテ原院又之ヲ襲踏シテ控訴ヲ棄却シタルハ法則ニ違反セリ同第三點ハ前點ノ如ク不確定ナル二個ノ申立アルニ拘ハラス又何等ノ理由ヲ付セス直ニ他ノ申立ニ付判斷ヲ爲シタルハ理由不備ノ不法アルモノナリト云フニアレトモ○第一審公判廷ニ於ケル民事原告人ハ請求ハ上告人所論ノ如クナルモ其請求ハ現品存在スレハ現品其現品ナキトキハ金十三圓ハ賠償ヲ求ムルニ在レハ不確定ハ請求ヲ爲シタルモノト云フヲ得ス而シテ第一審ニ於テハ其現品ナキヨリ之カ代價ヲ被告ニ賠償セシムルノ言渡シヲ爲シタルモノナルコトハ其判旨ニ徴シ明カナルヲ以テ原院カ第一審判決ヲ認可シタルハ相當ニシテ第二第三論旨ノ如

キ不法アルコトナシ
右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ從ヒ本件公訴私訴上告ハ共ニ之ヲ棄却ス

私訴上告費用ハ上告人ノ負擔タルヘシ

明治三十年六月八日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○受寄物騙取ノ件

明治三十年第四九八號
明治三十年六月八日宣告

○判決要旨

詐欺ノ手段ヲ以テ受託ノ物件ヲ騙取シタルトキハ其發意ノ受託前ナルト受託後ナルトヲ論セス刑法第三百九十五條末段ニ所謂詐欺的受託物費消罪ヲ構成ス而シテ既ニ詐欺ヲ以テ論斷スル以上ハ其物品ヲ費消シタルト否トハ之ヲ問フヲ要セス

(參照) 受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受タル金額物件ヲ費消シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ騙取携帶其他詐欺ノ所爲アル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス(刑法第三百九十五條)

第一審 德島地方裁判所 脇町支部 第二審 大阪控訴院

被告人 堀江源五郎 辯護人 中村忠雄 高木益太郎

右源五郎カ受寄物騙取被告事件ニ付明治三十年四月三十日大阪控訴院ニ於テ德島地方裁判所脇町支部ノ判決ニ對スル檢事ヨリノ控訴ヲ審理シ原判決ノ全部ヲ取消シ被告源五郎ヲ重禁錮二月罰金四圓監視六月ニ處ス云々ト言渡シタル判決ヲ不法トシ被告及ヒ其辯護人中村忠雄ハ各上告ヲ爲シ原院檢事長林誠一ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
上告趣旨ノ第一點ハ原院ニ於テ被告ハ煙草ヲ騙取シタルモノトシテ有罪ノ判決ヲ與ヘラレタレトモ被告ニ騙取ノ所爲ナキコトハ原院ノ認メラレタル事實ニ依テ明カナリ被告ハ該煙草ヲ入テ其所有主タル阿部兵八ニ送り届ケントノ意思ニテ之ヲ預リタルモノナレハ假令原院ノ認ムル如ク其後所有主ニ還付スルノ意思ヲ變シタルモノトスルモ之レカ爲メ前ノ民法上ノ占有ヲ變シテ刑法上ノ騙取トナスコトヲ得サルハ勿論ニシテ原院カ騙取ト認メラレタルハ其所有主ニ送り届ケントノ意思ヲ變シ兵八ノ問答ニ對シ毫モ與リ知ラサル旨ヲ回答シタル點ニ在テ即チ受託物ヲ自己ノ有ニ歸セシメントシタルモノニシテ之レ騙取ナリトスルニアルモ騙取ト

ハ占有ヲ犯スノ所爲ニシテ被告ノ占有中ニ係ル物件ニ對シ之ヲ自己ノ有ニ歸セシメントノ意
 思ヲ發シタルハトテ之レ單ニ心意上ノ發作ニ止マリ刑法上ノ制裁ヲ受クヘキ騙取ノ所爲ナリ
 ト謂フ可ラス原判決ハ此點ニ於テ不法アルヲ免レスト云ヒ同第二點ハ原院ニ於テ被告ノ所爲
 ハ刑法第三百九十五條末段同第三百九十條第一項同第三百九十四條ニ該當スル犯罪ナリトセ
 ラレタレトモ刑法第三百九十五條ハ委託ヲ受ケタル物件ヲ賣消シタル者ヲ罰スル法條ニシテ
 現ニ其煙草入ヲ所持シ曾テ賣消シタル事實ナキコトハ原院ノ認メラル、所ナルニモ拘ラス同
 法ヲ適用セラレタルハ擬律ノ錯誤アル不法ノ判決ナリト云フニアレトモ○原判決ニ依レハ被
 告ハ他人カ他家ニ置忘レタル煙草入ヲ其所有主ニ送リ届ケノ委託ヲ受ケ該品ヲ預リ歸村ノ後
 之ヲ騙取シテ自己ノ有ニ歸セシメントノ惡意ヲ發シ所有主ヨリ此事ノ問合セテ受ケタルニモ
 拘ハラズ毫モ預リ知ラサル旨ヲ回答シ該煙草入ヲ騙取シタルモノナリト判示シアリテ被告カ
 受托ノ物品ヲ詐欺ノ手段ニ因リ騙取シタルハ事實ヲ認メアルハ其發意ハ受托ハ前ナルト後ナ
 ルトニ論ナク刑法第三百九十五條ハ末段ニ所謂詐欺取財罪ヲ構成シタルモノニシテ同法第三
 百九十條第一項ニ依リ處分スヘキモノナリ己ニ詐欺取財罪ヲ以テ論斷スル以上ハ其物品ヲ賣
 消スルト否トハ之ヲ問フヲ要セサルモノナルヲ以テ原院カ本件ニ對シ右ノ各法條ヲ適用處斷
 シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ總テ其理由ナシ

高木辯護士上告辯明ノ趣旨ハ前二項ノ論旨ヲ敷衍スルニ過キサレテ以テ重子ヲ説明ヲ與ヘス
 本件第二審裁判所ノ辯護人中村忠雄ハ明治三十年五月三日上告申立ヲ爲シ次テ上告趣意書ヲ

差出シアルモ被告本人ニ於テモ右同日付ヲ以テ上告申立ヲ爲シ趣意書ヲ差出シアリ抑モ辯護
 人ハ法律上被告人ニ代リ上訴ヲ爲スコトヲ得ルト雖トモ被告本人ニ於テ上告申立ヲ爲シタル
 上ハ辯護人ノ代理資格ハ自然消滅スヘキモノナリ故ニ辯護人ノ爲シタル上告ハ成立セザルモ
 ノトス

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス
 明治三十年六月八日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○竊盜等ノ件

明治三十年第五一八號
明治三十年六月十日宣告

○判決要旨

三等郵便局ハ官署ニシテ其局長ハ官吏ナリ

(參照) 郵便及電信局ヲ分テ一等郵便電信局二等郵便電信局二等郵便局二等電信局三
 等郵便電信局及三等郵便局トス(官制第二條)
 三等郵便電信局長及三等郵便局長ハ判任トス上官ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌理ス(郵
 三等郵便局長ノ資格)

第一審 新潟地方裁判所 第二審 東京控訴院
被告人 鈴木民七 辯護人 高木益太郎

右竊盜郵便印紙再貼用官印盜用官文書偽造官私文書毀棄被告事件ニ付明治三十年五月二十一日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ本院ハ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告ノ趣旨ハ原院ハ本件ニ關シ檢察力未タ何等ノ陳述ヲ爲ササルニ被告ヲ訊問審理セラレタルハ刑事訴訟法第二百五十八條第二百十八條ニ違反スル不法アルモノナリト云フニ在レトモ
○控訴ノ裁判ニ付テハ其控訴者ノ檢察ナルト被告ナルトニ從ヒ先ツ其控訴ノ趣旨ヲ聽キ被告ヲ訊問スヘキモノナレハ其控訴ニシテ被告ナルトキハ其訊問ニ先タチ檢察力被告事件ヲ陳述スルノ要ナシ而シテ刑事訴訟法第二百五十八條ノ規定ハ第一審ニ關スル規定ニシテ控訴ノ裁判ニ適用シ得ラルヘキモノナリト適用スヘシトノ律意ナリ然ハ則原院ニ於テ檢察力被告事件ノ陳述ナキニ被告ニ訊問シタルハ相當ノ措置ニシテ決シテ違法ト云フヘキモノニアラス
同辯明書ノ第一ハ原院ハ被告カ果シテ官文書ヲ毀棄シタリト認ムヘキ證據ナキニ濫リニ刑法第二百三條第二項ヲ適用シタルハ事實ノ認定ヲ濫用シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ
○事實ノ認定ハ原承審官ノ職權ニ專屬スルモノナレハ其認定ニ對スル論難ハ適法上告ノ理由ナシ「眞第二ハ官文書偽造ノ罪ハ必ス記錄者ノ資格ヲ屬リタル事實ナクンハ其犯罪ヲ組織スル

コトナシ今ヤ本按被告ニ在リテハ其記錄者ノ資格ヲ屬リタルコトナシ何トナレハ自分ハ即チ三條郵便局ニ職ヲ奉スルノ雇員ニシテ回答文書等ヲ作成スルハ日常ノ勤務ナリトス既ニ日常ノ勤務ナリトセハ文書ヲ作成スルコト其權内ニ屬スルヲ以テ記錄者タル資格ハ雇員タルト同時ニ當然伴フヘキノ資格ナリトス然ルチ原院ニ於テ被告ノ所爲ヲ刑法第二百三條第一項ニ關シテラレシハ疑律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ
○右ノ論旨ハ雇員タルノ資格ト一個人タルノ資格トヲ混交セシノ謬見ニ坐スルノミ其作成スル處ノ文書ニシテ其同一人ノ作成ニ係ルモノトスルモ雇員タルノ資格ヲ以テセハ官文書タルノ效ヲ有シ一個人タルノ資格ヲ以テセハ其偽造タルチ免ルチ得ス故ニ原院カ被告ノ所爲ニ對シ刑法第二百三條第一項ヲ適用シタルハ疑律ノ錯誤ニアラス其第三ハ三等郵便局ナルモノハ一ノ官署ノ業務ヲ受負スル公署ニシテ官署ニアス隨テ其局長ナルモノハ公吏ニ屬シテ官吏ニ非サルコトハ明哲ナリ故ニ本按被告カ偽造セリト云フ文書ハ之レヲ公文書トイフヘクシテ官文書ト云フヘキモノニアラス又被告カ盜用セリト云フ印形ハ是レ官印ニアラスシテ公署ノ印ナリ然ルチ原院ニ於テ被告ノ所爲ヲ刑法第二百三條第一項同法第二百六條ニ關シテ疑律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ
○三等郵便局ノ官署タルコト及ヒ其局長ハ官吏タルコトハ明治二十六年勅令第五百五十二號郵便及電信局官制第二條及ヒ第十條ニ明載セラレハ所ハモハニシテ從テ其文書ハ官文書タルコト其印章ハ官印タルコトハ言ハ俟カサルナリ
辯護人高木益太郎辯明書ノ趣旨ハ照會書及小包送票毀棄ノ所爲ハ郵便條例第二百三十四條ニ

該當スヘキモノニシテ普通刑法ニ據リ處分スヘキモノニアラス故ニ原判決カ刑法第二百三條ヲ適用シタルハ疑律ノ錯誤アル裁判ナリト云フニ在レトモ○原判文ノ認ムル所ニ據レハ右照會書及ヒ送票ハ上田郵便電信局ヨリ三條郵便電信局ヘ宛テ郵送シ受信局ニ於テ之ヲ受取リタルモノナレハ其文書自體ハ既ニ郵便物ト云フヲ得ス故ニ之ヲ毀棄シタルノ所爲ハ刑法第二百三條第二項ニ問擬スヘキモノニシテ郵便條例ノ適否如何ヲ問フノ要ナシ然ルカ故ニ原院カ同條ヲ適用シタルハ相當ナリ

右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十年六月十日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事藤堂融立會宣告ス

○強盜ノ件

明治三十年第四九七號
明治三十年六月十一日宣告

○判決要旨

強盜人ヲ傷ケタルトキハ其毆傷ハ強奪ヲ遂クル爲メナルト逮捕ヲ免カル、爲メナルトナ問ハス強盜傷人罪刑法第三百八十條ヲ構成ス

(參照) 強盜人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス(刑法第三)

第一審 神戸地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 平島正二郎 辯護人 名和淺吉

右強盜被告事件ニ付明治三十年五月十一日大阪控訴院ニ於テ控訴棄却ノ旨渡シテ爲シタル判決ニ對シ原院檢事長林誠一ハ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ檢事岩野新平辯護士名和淺吉ノ辯明ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

上告ノ要旨ハ原院ノ認ムル如ク被告カ毆打シテ創傷ヲ負ハシメタルハ捕ヲ免レン爲メニ出タリトスルモ其毆傷シタルハ未タ強盜繼續中而カモ現場ニ在リテ犯シタルモノニ付強盜ト毆傷トノ所爲ハ分ツヘカラサルモノニシテ財物ヲ強取シタルト否トニ拘ラス強盜傷人ノ罪ヲ構成スルモノナリ若シ此場合強盜ヲ爲シタリトセハ恐クハ強盜強姦ノ罪成立セストノ論ナカルヘシ尙歩ヲ進テ論セハ竊盜財ヲ得テ其取還ヲ拒ム爲メ臨時暴行脅迫ノ際人ヲ傷ケタルトキスラ強盜傷人ヲ以テ論スルニ非スヤ然ルニ本按ハ初ヨリ強盜ノ目的ニテ其所爲繼續中毆傷シタル場合ナルニ却テ同罪ヲ構成セサルモノトスルニ於テハ不權衡モ太シトス其妻シテ毆傷シタルハ己ニ逃走セントノ念ヲ起シ強盜ノ意思絶ヘシモノトセハ之ヲ分ツヘキモ惣助ニ對スル所爲ハ分ツヘカラサルモノニシテ判文上只捕ヲ免レントシテ毆打シタリトノミ揭ケ強盜ノ意思繼續シタルヤ否ニ至リテハ之ヲ見ルヘキ說明ヲ與ヘス然ラハ原判決ハ疑律ノ錯誤及事實理由ノ不備ナル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ○依テ審按スルニ原判決ニ認メタル事實ニ依リ

ハ被害者惣介方與坐敷ニ押入、同人妻シカヨリ告メラレタル以後該家ヲ立去ル迄被告ハ強盜ニ外ナラス苟モ強盜ニシテ人ヲ傷ケタルトキハ其毆傷ハ強奪ヲ遂ケルカ爲メナルト捕ヲ免カレハ爲メナルトハ問ハス總テ刑法第三百八十條ハ強盜傷人ハ罪ヲ成スモハトス故ニ被告カ惣介及シテ傷ケタルハ其目的捕ヲ免カレルニ在リト雖トモ強盜中ノ行爲ナルヲ以テ本條ニ據リ處斷スルヲ相當ナリトス然ルニ原判決ハ本件ヲ持兇器強盜未遂毆打創傷ノ三罪俱發ナリトシテ處斷シタルハ失當ニシテ上告ハ其理由アルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ本院ニ於テ判決スル左ノ如シ

右

平 島 正 二 郎

原判決ニ認メタル事實ニ依リ被告カ行爲ハ刑法第三百八十條ニ該當ス所犯原諒ス可キ情狀アルヲ以テ同法第八十九條同法第九十條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ有期徒刑十五年ニ處ス他ハ原判決ノ通

明治三十年六月十一日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○私印私書偽造行使詐欺取財ノ件

明治三十年第六四五號
明治三十年六月十四日宣告

○判決要旨

出來合印ヲ押捺使用シタル所爲ハ法律上罪トナラス

第一審 熊本地方裁判所 第二審 長崎控訴院

被告人 安岡綱雄

右私印私書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治三十年五月六日長崎控訴院ニ於テ審理ノ末本控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シ原判決ノ破毀ヲ要求シ相手方原院檢事長大島貞敏ハ上告理由ナキ旨ノ答辯書ヲ差出シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告ノ要旨第一點第二點ハ原判決ニ於テ被告カ偽造シタリト認メタル印ハ菴モ田代正雄ノ實印ニ類似セス而カモ出來合印ニシテ殊更ニ彫刻シタルモノニ非サレハ其押捺ノ一事ヲ以テ偽造ト爲ス可キニ非ス然ルニ私印偽造トシテ處斷シタルハ違法ナリト云フニ在リ○因テ原判決ヲ查閱スルニ被告ハ田代正雄名義ハ地所建物賣渡證書及其謄本并ニ賣買登記委任狀ヲ造リ正雄ハ非戸主ニシテ未ダ實印ハ届出ナキヨリ豫テ買求メ置キシ出來合印ヲ其證書及謄本并ニ委任狀ハ正雄名下證書印紙消印ハ部等ニ押捺シ云々トアリテ被告カ押捺使用シタル印ハ出來合印ナルコトヲ認メタルニ止マリ被告ニ於テ其印ヲ偽造シ若クハ偽印タルハ情ヲ知テ之ヲ押捺

出來合印ノ押捺

使用シタル事實ヲ認め、アラス、然ルニ其出來合印ヲ押捺使用シタル所爲ニ對シ、刑法第二百八條第一項、第二百十二條ヲ適用シタルハ、法律上罪トナラサル所爲ヲ罰シタル失當ハ、判決ニシテ此論旨ハ結局其理由アルモノトス。同第三點ハ、刑法第百條ヲ適用シナカラ其第一項ナリヤ第二項若クハ第三項ナリヤヲ明示セサルハ、法律ノ理由ナクキタル違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ。

○本件ハ數個ノ輕罪俱發ナルコトハ、原判決事實理由ノ明示スル所ナレハ殊更ニ第百條ノ何項ヲ適用スルヤヲ示サ、ルモ法律ノ理由ナクキタルモノト謂フヘカラス。同第四點ハ、登記委任狀ノ偽造行使ヲ刑法第二百十條第二項ニ間擬シタルハ、違法ナリト云フニ在リテ。

○此論旨ハ結局被告ノ不利益ニ歸スヘキモノナレハ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス。同第五點ハ、賣渡證書ヲ沒收スルニ付刑法第四十三條第一號ヲ適用シタルハ、違法ナリト云フニ在レトモ。

○偽造證書ハ即チ法律ニ於テ禁制シタル物件ナレハ、原判決ノ擬律ハ相當ニシテ此論旨ハ相立タス。

以上説明シタル如ク上告論旨第三點乃至第五點ハ、執レモ其理由ナキモ其第一點第二點ハ、其理由アルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條、第二百八十七條ニ則リ之ニ關スル原判決擬律ノ部分ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決スルコト左ノ如シ。

右

安岡鋼雄

原判決ノ認めタル被告カ田代正雄ノ私印ヲ偽造使用シタリトノ點ハ、刑事訴訟法第二百二十四條ニ依リ無罪餘ハ原判決ノ通り

明治三十年六月十四日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事藤堂融立會宣合ス

○私印私書偽造行使等ノ件

明治三十年第五〇八號
明治三十年六月十四日宣告

○判決要旨

(判旨第一點) 民事訴訟ヲ提起スルニ當リ利益ノ證據ニ供スル爲メ偽造證書ヲ辯護士ニ交付シタル所爲ハ私書偽造行使罪ヲ構成ス (第三輯第三卷三十八號丁登載ノ件參看)

(判旨第二點) 偽證ヲナサ、ル以前ノ證人訊問調書ハ證言タルノ効力ヲ有ス

(判旨第八點) 登記取消ハ不動産ヲ回復スルヲ目的トスルモノニシテ贓物返還

ノ一方法ナリ

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 竹内奎彌 辯護人 磯部四郎

右私印私書手形偽造行使私印盜用詐欺取財等被告事件ニ付明治三十年四月二十九日東京控訴

私書偽造行使罪ノ構成○偽證前ノ證言○登記取消ノ請求

院ニ於テ言渡シタル公訴及ヒ私訴ノ判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シ又右私訴ノ判決ニ對シ私訴控訴人片桐榮一耶ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

被告カ公訴ノ上告趣意ハ被告ニ於テ落合頁二ヨリ貫受ケタル櫻井伊兵衛ノ認印押捺シアル白紙ヲ用ヒ假爲取替證ヲ偽造行使シタリト認メタレトモ偽造罪ナルモノハ其偽造證書ヲ裁判所ニ提供スルカ或ハ執達吏ニ示サレハ行使ニアラス故ニ原判文ニ辯護士丸山名政ニ交付シタリトアレトモ同人ハ相手方ニアラス又該偽造證書ヲ以テ民事訴訟ノ證據物ニ供シタルニモアラサレハ之ヲ以テ行使トナル可キモノニアラス且伊兵衛ニ於テモ被告ハ勿論何人ヨリモ右偽造證書ヲ示サレタリトノ供述ヲ爲シタルコトナシ然ルニ原院カ私書偽造行使罪ト爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判文ヲ查閱スルニ被告カ水橋清次耶杉本惣三耶ニ對スル不法行為ヲ掩蔽シ併テ伊兵衛ヨリ商業資本金ヲ借出サントノ目的ヲ以テ伊兵衛ハ認印ヲ押捺シアル白紙ヲ用ヒ前掲ノ假爲取替證ト題スル證書ヲ偽造シ而シテ被告自ラ其偽造證書ヲ伊兵衛ニ示シテ示談ヲ申込ミタルハミナラズ惣三耶カ辯護士丸山名政ヲ以テ伊兵衛ニ係リ民事訴訟ヲ提起スルニ當リ惣三耶ハ利益ノ證據ニ供スル爲メ右偽造證書ヲ名政ニ交付シタリトノ事實ヲ認定シアルニ付總令裁判所ニ提供セサルモ執達吏ニ差出サイルモ行使ノ事實充分明確ナリトス故ニ原院カ私書偽造行使罪トシテ處斷シタルハ當然ナリ而シテ伊兵衛ノ供述云々ノ論旨ノ如キハ事實ニ準ルヲ以テ固ヨリ採ルニ足ラス

判旨第一點

判旨第二點

第一擴張費ノ第一論旨ハ證人落合頁二ハ被告ニ對シ偽證ヲ爲シタルニ付偽證罪ノ被告人トシテ豫審ニ付セラレタル者ナルニ原院カ之ヲ證人トシテ斷罪ノ資料ニ供シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○訴訟記録ヲ查閱スルニ第一審公廷ニ於テ立會檢事ハ證人落合頁二カ偽證ヲ爲シタルモノト認メ刑事訴訟ヲ爲スニ付本件ハ公判ヲ中止セシメテ請求シタル旨其公判始末書ニ記載シアレトモ原院カ斷罪ノ資料ニ供シタルハ同人ハ豫審調書ナリ然ラハ則同人カ未カ偽證ヲ爲サイル以前ニ係ル豫審調書ヲ以テ證言ノ効アルモノト爲シ之ヲ斷罪ノ資料ニ供スルモ決シテ不法ニアラサルナリ

同第二ノ論旨ハ第一審ニ於テ櫻井伊兵衛ノ資格證明願書ヲ偽造行使シタルモノト認メ刑法第二百十條第二項ヲ適用シタルニ原院ニ於テ同法第三百九十條第二項ニ依リ處斷シタルハ即チ被告ノ不利益ニ第一審判決ヲ變更シタルモノナリト云フニ在レトモ○原院ニ於テモ亦第一審判決ト同シク資格證明願書ヲ偽造行使シタル所爲ニ付刑法第二百十條第二項同第二百十二條ヲ適用シテモ第一審判決ヲ變更セサルコト原判文ニ照シテ明ナリトス而シテ刑法第三百九十九條第二項ヲ適用シタルハ右等ノ私書偽造行使ノ所爲ト詐欺取財ノ所爲ト其輕重ヲ比較シ其重キニ從ヒ一罪トシテ處斷スルノ判旨ナルコト是亦第一二審ノ判決共ニ毫モ異ナルコトナシ要スルニ本論旨ハ被告ノ誤解ニ外ナラサルナリ

第二擴張費ノ論旨ハ數罪俱發ナルモノハ數罪同時ニ發シタルモノヲ以テ處斷ス可キハ論ヲ候タス然ルニ原院ニ於テ二個ノ詐欺取財ト第三第四ノ文書偽造罪ヲ除キ其他ノ犯罪ニ對シテハ

數罪俱發ナリトシテ處斷シタルモ後段ニ至リ第一ノ私印偽造行使ノ罪ニ依テ處斷シタルハ理由ノ顯赫ナリト云フニ在レトモ○原判決ハ刑法第三百九十條第二項ニ依リ文書偽造行使ノ所爲ト比較シテ其重シト認メタル第三第四ノ詐欺取財ノ罪ト其他ノ罪ト數罪俱發ニ係ルヲ以テ刑法第百條ニ依リ一ノ重キ第一ノ私印偽造使用ノ罪ニ從ヒ處斷シタルモノナレハ毫モ不法ノ點アルコトナシ要スルニ本論旨ハ其趣旨ノ存スル所何レノ點ニ在ルヤ到底之ヲ了解スルニ出ナキモノトス

辯明書ノ第一論旨ハ原判文ノ第一ニ明治二十七年六月七日頃時日場所不詳百壽ト彫刻シアル伊兵衛ノ認印ニ摸擬シタル印ヲ偽造シ云々トアレトモ水橋清次郎ニ對スル件ニ付採用シタル印ハ被告カ偽造シタルモノト假定スルモ日時場所不詳ト云フヲ得サルコトハ落合良二カ偽證被告事件ニ關スル証人西泰十郎等ノ供述ニ依ルニ明ナリト云フニ在レトモ○本論旨ハ原承審官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサレハ上告ノ理由トナル可キモノニアラス

同第二ノ論旨ハ原判文第三第四ノ件ニ付採用シタル印ト第一ノ水橋清次郎ニ對スル件ニ付採用シタル印トハ同一ノ如ク認メタレトモ全ク異ナルモノナリ故ニ伊藤庄次郎ヲ證人トシテ喚問ヲ請求シタルニ之ヲ棄却シタレトモ右證人ヲ喚問スルハ判然スルナラン又第三第四ノ件ニ付採用シタル印ハ庄次郎ニ依賴シ日本橋區室町ノ板木師某ニ彫刻サセタル印ト同一ノ如ク被告ハ認メタリ然ルニ前掲ノ如ク原院ニ於テ第一第三第四共ニ同一ノ印ノ如ク認定シタルハ理由ノ顯赫ナリト云フニ在レトモ○名ヲ理由ノ顯赫ニ藉リ是亦原承審官ノ職權ニ存スル事實ノ

認定ヲ非難スルモノナレハ固ヨリ上告ノ理由トナル可キモノニアラス

辯護人磯部四郎ノ擴張論旨ハ原判文第二及ヒ第三ノ私書ヲ偽造スルニ付如何ナル印影ヲ使用シタルヤ事實ノ明示ナシ但原判文ニ前第一ニ記スル如ク伊兵衛名下其他要部ニ偽造印ヲ押捺シテアレトモ是レ證書作成ノ様態ヲ示シタル理由ト見ルノ外ナシ其偽造印ノ如何ナルモノナルヤチ明示セサルハ即チ理由ヲ付セサル違法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判決ノ第二及ヒ第三ニ前第一ニ記スル如ク伊兵衛名下其他要部ニ偽造印ヲ押捺シテ云々トアルハ即チ第一ニ明示シタル明治二十七年六月七日頃時日場所不詳百壽ト彫刻シアル伊兵衛ノ認印ニ摸擬シタル印ヲ偽造シタル理由ヲ指シ其偽造印ヲ押捺シタリトノ判旨ナルコト明白ナレハ決シテ理由ノ明示チ欠キタルモノニアラス

私訴ノ上告趣旨ハ假ニ被告ノ所爲ヲ有罪トスルモ登記取消ノ如キハ贓物ノ返還ニモアラサルニ原院ニ於テ控訴ヲ棄却シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○登記取消ハ不動産ヲ回復スル即チ贓物返還ノ一方法タルニ過キカレハ原院カ控訴ヲ棄却シタルハ相當ナリ

私訴上告人片桐榮一郎ノ上告趣旨ハ原院ニ於テ被告上告人カ上告人ヨリ返還ヲ求ムル明治二十八年一月二十二日付金二千七百七十二圓ノ地所抵當債權證書ハ竹内空彌カ被告上告人ヨリ騙取シタルモノト認メタリ而シテ證據ノ取捨及ヒ事實ノ認定ハ裁判官ノ職權ニ屬スト雖モ其認定ヲ爲スニハ何等ノ證據ニ依テ爲シタルヤノ事實理由ヲ示サ、ル可カラサルニ原判決爰ニ出テサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○被告空彌ニ對スル公訴判文ニ明示シタル各證憑ニ依リ二

千七百七十二圓ノ地所抵當債權證書ハ左彌カ羽根田省教等ヨリ騙取シタルモノト認定シタル
 モノニシテ其認定シタル理由ヲ明示シアル上ハ原判決ヲ不法ナリト爲スコトヲ得ス
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案公訴及ヒ私訴ノ上告ハ之ヲ棄却ス
 但上告ニ係ル私訴々訟費用ハ上告人兩名ノ負擔タル可シ

明治三十年六月十四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○毆打致死等ノ件

明治三十年第五二一號
 明治三十年六月十四日宣告

○判決要旨

證人ニ對シ民事原告人ノ法律上代理人トノ身分上ノ關係ヲ有スルヤ否ヲ問查
 シタルノミニシテ民事原告人本人トノ關係ヲ問查セサル調書ハ證人調書タル
 ノ効力ヲ有セス

(參照) 左ニ記載シタル者ハ證人トナルコトヲ許サス但宣誓ヲナサシメスシテ事實參
 考ノ爲メ其供述ヲ聽クコトヲ得(刑事訴訟法第百二十三條)

第一 民事原告人(同條)

第一審 甲府地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 渡邊和一郎 辯護人 高木益太郎
 小林信次郎 花井卓藏

右和一郎外一名カ毆打致死及ヒ信一郎ニ對スル毆打創傷被告事件ニ付明治三十年三月五日東
 京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告等上告ヲ爲シタルニ依リ本院ハ刑事訴訟法第二百
 八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

被告渡邊和一郎辯護人高木益太郎辯明書ノ要ハ證人渡邊美ノ陳述ヲ錄取シタル第一審公判
 始末書ニ依レハ同人ハ民事原告人三枝鳩彌ト刑事訴訟法第二百二十三條ノ關係如何ノ問查ヲ經
 タルモノニアラサルコト明瞭ナリ左スレハ同人ノ陳述ハ證言ノ効アルモノニアラス然ルニ原
 院ハ同人ノ證言ヲ有効ノモノト看做シ其儘證據ニ採用シタルハ不法ナリト云フニ在リ被告小
 林信次郎辯護人花井卓藏ハ相被告辯護人ノ辯明ノ趣旨ヲ援用セラレ度ト申立タリ○依テ審按
 スルニ第一審裁判所ニ於テ渡邊美ヲ證人トシテ訊問シタルコトハ同公判始末書ニ明載スル
 處ニシテ該始末書ニ依レハ美ニ對シ民事原告人タル三枝鳩彌トハ身分上ノ關係ヲ問查シ
 タル跡ナカシテ法律上ハ代人タル三枝ヤトトハ關係ヲ問查シアリ然レトモ被告見者タル鳩彌
 ハ訴訟ノ能力ヲ有セサルモ訴訟當事者タルハ位置ニアルモノナレハ身分上ノ關係ハ之ヲ差
 ニ問查セサルハカラス既ニ其問查ナキ上ハ美ハ本件ニ付果シテ證人タルハ資格ヲ有スヘキ
 モハナルカ否ヤヲ知ルニ由ナシ尤モヤヨハ鳩彌ノ實母タルコトハ私訴申立書ニ依リ知ルヲ得

ヘキモ實母ヤヨト關係ナキモノハ果シテ鳩彌トモ關係ナキモノト云フヲ得サレハ結局證人渡邊瑳美ハ訴訟本人タル鳩彌トノ身分上ノ關係有無ヲ知ルニ由ナキニ歸ス故ニ第一審裁判所ニ於テ渡邊瑳美カ爲シタル陳述ハ證言タルノ効ナキモノトス然ルニ原院ニ於テ此無効ノ證言ヲ錄取シアル第一審公判始末書ヲ斷罪ノ證料ニ供シタルハ辯護人所論ノ如ク不法ノ判決タルヲ免カルハヲ得ス既ニ此點ニシテ破毀ノ原由アルモノト認ムル上ハ其他ノ論旨ニ對シ一々説明スルノ要ナシ

右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ更ニ審判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ名古屋控訴院ニ移スモノナリ

明治三十年六月十四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

〇官印盜用等ノ件

明治三十年第五五一號
明治三十年六月十四日宣告

〇判決要旨

官署ノ印ニハ官吏ノ職印ヲ包含ス

(参照) 各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處ス(刑法第百九十五條)

官印ニハ官署ノ印ト官吏ノ職印トヲ包含ス

(参照) 御璽國璽官印記號印章ノ影贋ヲ盜用シタル者ハ前數條ニ記載シアル偽造ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス(刑法第百九十條第一項)

第一審 青森地方裁判所 第二審 函館控訴院

被告人 佐藤泰治

右官印盜用官私文書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治三十年五月二十二日函館控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ本院ハ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告ノ趣旨ハ原院ハ被告カ青森大林區署長ニ宛テタル官行事業場小屋掛人夫賃金御拂出伺ト題スル書面外二通ニ營林主事佐藤泰治ト彫刻シタル官印ヲ押捺シタル事實ニ對シ刑法第百九十七條百九十五條ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ナリ何トナレハ官印ノ盜用ニ對シ官署ノ印ヲ押捺シタル法律ヲ適用シタルハナリト云フニ在レトモ 〇刑法第百九十五條ハ各官署ハ印トアルニハ官吏ノ職印ヲ包含シ又同第百九十七條ハ官印トアルニハ官署ハ印ト官吏ハ職印トヲ包含ス故ニ原院カ被告ノ所爲ニ對シ右兩條ヲ適用處斷シタルハ相當ニシテ決シテ擬律ノ錯誤ニアラス

右ノ理由ナルニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本案上告ハ之ヲ棄却ス

明治三十年六月十四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢察岩田武儀立會宣告ス

〇監守盜ノ件

明治三十年第四九二號
明治三十年六月十五日宣告

〇決判要旨

(判旨第二點) 監守盜罪ヲ犯シ其犯跡ヲ蔽ハンカ爲メ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シタル所爲ハ監守盜ト官文書變造ノ二罪ヲ構成ス

(參照) 官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ス(因テ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シ又ハ毀棄シタルトキハ第二四五條ノ例ニ照シテ處斷ス(刑法第二四〇條) 官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ前二條ノ例ニ照シテ各一等ヲ加フ(刑法第二二五條)

(判旨第七點) 貨幣偽造行使罪ハ其貨幣ヲ有用ニ行使スルヲ以テ成立ス而シテ偽造貨幣ヲ借金ノ擔保トシテ他人ニ交付シタル所爲ハ即チ有用ニ行使シタル

モノニシテ當然貨幣偽造行使罪ヲ構成ス

(判旨第九點) 手續書ノ寫本ヲ採容スルト否トハ證據取捨ノ職權ニ屬ス

第一審 高知地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 佐伯寬夫 辯護人 齋藤二郎

右寬夫カ監守盜偽造貨幣知情行使官文書變換毀棄被告事件ニ付明治三十年五月一日大阪控訴院ニ於テ高知地方裁判所カ被告ヲ重懲役十年ニ處ス云々ト言渡シタル判決ニ對スル被告ヨリノ控訴ヲ審理シ本件控訴ハ之ヲ棄却スト判決シタルヲ不法トシ被告ハ上告ヲ爲シ原院檢事ハ答辯書ヲ差出シタルニ因リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ辯護士齋藤二郎ノ辯論立會檢事安川修藏ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

上告要旨ノ第一點凡ソ未發ノ犯罪ニ在テハ其自首ノ月日ヲ判決書中ニ明揭スヘキハ最大必要ノ條件ナリトス何トナレハ其月日ヲシテ脱落若クハ誤謬アラシメンカ犯罪者カ真心悔過ノ自首モ爲メニ其効ヲ失セサルヲ保シ難シ然ルニ上告人ニ對スル第一審判決ハ其理由中「前尋明治二十九年十月二十九日第三第五ノ所爲ヲ高知警察署へ同年十一月二日付上申書(第一第二當廳檢事へ自首シタル)トアルモ上告人カ第四第六ノ所爲ハ同年十一月二日付上申書(第一第二ノ所爲ハ十月三十日檢事局へ自首)ヲ以テ始メテ自首シタルモノニテ其十月三十日ニアラサルコトハ右上申書並ニ同月四日付檢事ノ調書ニ徴シ明晰ナリ然ルチ第一審ニ於テハ何ニ依リ十月三十日ノ自首ト認定シタルカ若シ之ヲ誤認ナリトセハ例へ本案罪體上利害ナシトスルモ其

監守盜及官文書變造ノ二罪〇貨幣偽造行使罪ノ成立〇寫本ノ證據